

文部科学省認可通信教育

レポート課題集

B 共通基礎・福祉専門編

2019

2019

レポート課題集



B

共通基礎・福祉専門編

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限：
2021年9月30日到着分まで
変更があれば『With』などでご案内します。



東北福祉大学通信教育部

目次

『レポート課題集』の活用方法	6
----------------	---

共通基礎科目

AA1031	禅のこころ	8
AA1001	～2017 禅のこころ	10
AB1002	ボランティア論	11
AB1032・AB1041	科学的な見方・考え方	17
AB1020	～2017 科学的な見方・考え方	22
AB1033	基礎演習	26
AB1145・DA2145	～2017 基礎演習	30
AB1034	情報処理の基礎	31
AB1035	データ分析とプレゼンテーション技法	36
AB1332	～2017 情報処理Ⅰ	45
AB1146・DA3146	統計情報を見る眼	46
AH1003	～2017 福祉と経済	53
AH1036	法の基礎	54
AH1007・AH1030	～2017 法の基礎（日本国憲法を含む）	58
AH1037	教育の歴史と思想	60
AH1017・AH1025	～2017 人間と教育	65
AH1026	～2017 政治学の基礎	67
AH1049	人権と福祉	68
AH1050	社会福祉学入門	70
AJ1038	歴史を読み解く	73
AK1039	生命の科学	78
AK1005・AK1042	～2017 生命の科学	84
AK1016	～2017 健康科学	86
AK1040	睡眠改善学	87
AL1011	コミュニケーション英語	92
AS1043	スポーツの心理学	103
AT1029	特講（地域と生活）	107
AT1044	特講（3.11以降の社会を考える）	109

社会福祉学科関連 専門科目

DA2050	～2016 社会福祉の基礎	112
DA2142	福祉ボランティア活動	113
DD2211	発達障害者の地域支援	117
DD2215	認知症介護論	119

DD3119	知的障害者福祉論	121
DD3161	発達障害者の理解と支援	127
DD4124・DD4196	ケアマネジメント論	132
DE2113	NPO論	140
DE3143・DE3162	福祉リスクマネジメント	147
DE4125	～2008 福祉施設管理論	153
DF3110	公衆衛生学	159
DF3121・DF3163	福祉用具と生活支援（福祉機器論）	163
DF3122	リハビリテーション論	170
DF3147	医療・福祉経済論	175
DH2109	福祉思想論	180
DH3123	～2008 福祉計画法	183
DH3144・DH3164	家族法	184
DH4111・DH4165	社会福祉法制	189
DH4115	国際福祉論	195
ZZ5991	卒業研究	199

特講・社会福祉学

DT2201	特講・社会福祉学Ⅰ（介護保険と社会福祉士の課題）	202
DT2210	特講・社会福祉学Ⅹ（スクール・ソーシャルワーク論）	204
DT2220	特講・社会福祉学ⅩⅩ（コミュニティ・ソーシャルワークⅡ）	206
DT2250	特講（防災士研修講座）	208

『レポート課題集』の構成

掲載冊子・ページは、次ページ以降の「科目別索引」で探してください。

■2019年度版の冊子を発行するもの（PDF版も通信教育部ホームページに掲載）

A	社福・精保指定科目編	
B	共通基礎・福祉専門編	本冊子
C	心理専門編	

※他に『客観式レポート集』を発行。すべての科目の客観式レポート課題が掲載されます。

■2019年度版の冊子を発行しないもの

E	2008年度以前入学者科目 社会福祉士指定科目	2015年PDF版を通信教育部ホームページに掲載（または『レポート課題集2014（心理・教職編）』を参照のこと）
---	----------------------------	--

各科目の関連を示した履修系統図は、2019年度入学者は『学習の手引き2019版』を、2018年度入学者は『学習の手引き2018版』を、2017年度以前入学者は『レポート課題集C（心理専門編）2017』p.204～207を参照してください。

科目別索引

ページ数が記載されていない科目は、下記でご確認ください。

A	社福・精保指定科目編
B	共通基礎・福祉専門編
C	心理専門編
E	『レポート課題集2014』または通信教育部HP「レポート課題一覧」

～2008	2009年度以降入学学者履修不可
2009～	2008年度以前入学学者履修不可
～2011	2012年度以降入学学者履修不可
2012～	2011年度以前入学学者履修不可
～2017	2018年度以降入学学者履修不可
2018～	2017年度以前入学学者履修不可

ア行

CC3079	2009～ 医学一般	A
CC3106	～2008 医学一般	E
DF3147	医療・福祉経済論	175
DE2113	NPO論	140

カ行

CL2065	2009～ 介護概論	A
CL2120	～2008 介護概論	E
EA4193	2009～ 介護技術	学習期間終了
EB4903	介護実習	学習期間終了
EB4701・EB4741	介護実習事前事後指導	学習期間終了
EC3708	カウンセリング(教職免許取得希望者向け)	学習期間終了
FG2682	カウンセリングⅠ	C
FG2683	カウンセリングⅡ	C
FG3695	カウンセリング演習Ⅰ	C
FG3696	カウンセリング演習Ⅱ	C
AB1020	～2017 科学的な見方・考え方	22
AB1032	科学的な見方・考え方	17
FH3561	2018～ 学習・言語心理学	C
FH3512	～2017 学習心理学	C
FC2515	～2017 家族心理学	C
DH3144・DH3164	家族法	184
FC3504	～2017 環境心理学	学習期間終了
AH1018	観光と文化	学習期間終了
FF3550	2018～ 感情・人格心理学	C
AB1033	基礎演習	26
AB1145・DA2145	～2017 基礎演習	30
FE2547	2018～ 教育・学校心理学A(教育心理学)	C
FE3548	2018～ 教育・学校心理学B(学校心理学)	C
FE2513	～2017 教育心理学	C
EC2301	教育原理	学習期間終了
EC4904	教育実習	学習期間終了
EC4710	教育実習の事前事後指導	学習期間終了
AH1037	教育の歴史と思想	60
EC3706	教育方法論(視聴覚教育等を含む)	学習期間終了
EC5913	教職実践演習(高)	学習期間終了
EC2702	教職論	学習期間終了
DD4124・DD4196	ケアマネジメント論	132
EG4734	(軽度)発達障害教育総論	学習期間終了
EG4733	(軽度)発達障害者の心理	学習期間終了
FF4559	健康・医療心理学	C
AK1016	～2017 健康科学	86
EG4736	言語障害教育	学習期間終了
AH1006	現代社会を見る眼	学習期間終了
DF3110	公衆衛生学	159
CM3069	2009～ 更生保護制度論	A
CA4108	公的扶助論	A
EC3703	高等学校教育課程の意義と編成	学習期間終了
CL2064	2009～ 高齢者福祉論	A
CL2117	～2008 高齢者福祉論	E
DH4115	国際福祉論	195
AH1019	子どもと社会	学習期間終了
AL1011	コミュニケーション英語	92
EG4736	コミュニケーション障害教育→言語障害教育	学習期間終了

サ行

FG3680	産業カウンセリングⅠ	学習期間終了
--------	------------	--------

FG3681	産業カウンセリングⅡ	学習期間終了
FC2523	～2017 産業心理学	学習期間終了
FC3542	産業・組織心理学	C
EG3737	視覚障害教育総論	学習期間終了
EF3719	肢体不自由教育	学習期間終了
EE4723	肢体不自由者の心理、生理・病理	学習期間終了
CL2066	2009～ 児童・家庭福祉論	A
CL2116	～2008 児童福祉論	A
FD2516・FD2527	児童青年心理学	C
EG4735	自閉症教育総論	学習期間終了
FF3551	司法・犯罪心理学	C
FC2540	2018～ 社会・集団・家族心理学A(社会・集団心理学)	C
FC2541	2018～ 社会・集団・家族心理学B(家族心理学)	C
FC2514	～2017 社会心理学	C
CE4073	2009～ 社会調査の基礎	A
DD4114	社会病理学	学習期間終了
CN3130	～2008 社会福祉援助技術演習Ⅰ	E
CN4131	～2008 社会福祉援助技術演習Ⅱ	E
CN3082	2009～ 社会福祉援助技術演習A	A
CN4083	2009～ 社会福祉援助技術演習B	A
CN5084	2009～ 社会福祉援助技術演習C	A
CP5901	～2008 社会福祉援助技術現場実習	E
CP5132	～2008 社会福祉援助技術現場実習指導	E
CP5907	2009～ 社会福祉援助技術実習	A
CP3190	2009～ 社会福祉援助技術実習指導A	A
CP5191	2009～ 社会福祉援助技術実習指導B	A
CE3070	2009～ 社会福祉援助技術総論	A
CE3071	2009～ 社会福祉援助技術論A	A
CE3072	2009～ 社会福祉援助技術論B	A
CJ3126	～2008 社会福祉援助技術論Ⅰ	E
CJ3127	～2008 社会福祉援助技術論Ⅱ	A
CJ4128	～2008 社会福祉援助技術論Ⅲ	E
CJ4129	～2008 社会福祉援助技術論Ⅳ	E
AH1050	社会福祉学入門	70
CA3104	社会福祉原論(職業指導を含む)	A
DA2050	社会福祉の基礎	112
DH4111・DH4165	社会福祉法制	189
CA4107	社会保障論	A
CM4076	就労支援サービス論	A
FE3518	～2017 障害児の心理	学習期間終了
EH4906	障害者教育実習	学習期間終了
EH4740	障害者教育実習の事前・事後指導	学習期間終了
ED3718	障害者教育総論	学習期間終了
FE3549	障害者・障害児心理学	C
CD2118	障害者福祉論	A
EA2195	～2017 障害の理解	学習期間終了
FD2502・FD2563	～2017 生涯発達心理学	C
AB1332	～2017 情報処理Ⅰ	45
AB1034	情報処理の基礎	31
DK4692	職場のメンタルヘルス	学習期間終了
FF2511・FF2528	～2017 人格心理学	C
FJ3562	神経・生理心理学	C
AH1049	人権と福祉	68
CC3081	2018～ 人体の構造と機能及び疾病	A
DK3690	人的資源論	学習期間終了
FF2519	～2017 心理アセスメント	C
FA2501	～2017 心理学概論	C
FA2531	2018～ 心理学概論A	C
FA2532	2018～ 心理学概論B	C
FB3508	～2017 心理学研究法Ⅰ	C
FB3509	～2017 心理学研究法Ⅱ	C

FB3538	2018～	心理学研究法 A	C
FB4539		心理学研究法 B	C
FB2505	～2017	心理学実験 I	C
FB2533	2018～	心理学実験 I A	C
FB2534	2018～	心理学実験 I B	C
FB2506	～2017	心理学実験 II	C
FB3535	2018～	心理学実験 II A	C
FB3536	2018～	心理学実験 II B	C
FF3554	2018～	心理学的支援法 I	C
FF3557	2018～	心理学的支援法 II	C
FF4558	2018～	心理学的支援法 III	C
FB3537		心理学統計法	C
FF3553	2018～	心理的アセスメント I	C
FF4556		心理的アセスメント II	C
FF3520	～2017	心理療法	C
FF3521	～2017	心理療法各論	C
AK1040		睡眠改善学	87
AS1024		スポーツ (バレーボール)	学習期間終了
AS1023		スポーツ (バレーボール)	学習期間終了
AS1043		スポーツの心理学	103
EA3194	～2017	生活行動と人体	学習期間終了
AH1026		政治学の基礎	67
CQ4140		精神医学	A
CS4139		精神科リハビリテーション学	A
CQ4166	2018～	精神疾患とその治療 I	A
CQ4167	2018～	精神疾患とその治療 II	A
CQ3151	2012～	精神障害者の生活支援システム	A
CQ3136		精神保健学	A
CW4141	～2011	精神保健福祉援助演習	A
CW3157	2012～	精神保健福祉援助演習 A	A
CW4158	2012～	精神保健福祉援助演習 B	A
CW5159	2012～	精神保健福祉援助演習 C	A
CR3138	CR3148		
	～2011	精神保健福祉援助技術各論	A
CR3156	2012～	精神保健福祉援助技術各論	A
CR3153	2012～	精神保健福祉援助技術総論 I	A
CR3154	2012～	精神保健福祉援助技術総論 II	A
CR3137	～2011	精神保健福祉援助技術総論	A
CX5902	～2011	精神保健福祉援助実習	A
CX4908	2012～	精神保健福祉援助実習 A	A
CX5909	2012～	精神保健福祉援助実習 B	A
CX4188	2012～	精神保健福祉援助実習指導 A	A
CX5189	2012～	精神保健福祉援助実習指導 B	A
CT3150	2012～	精神保健福祉のサービス	A
CT4152	2012～	精神保健福祉の制度	A
CS3155	2012～	精神保健福祉の理論	A
CS3133	～2011	精神保健福祉論 I	A
CT3134	～2011	精神保健福祉論 II	A
CT4135	～2011	精神保健福祉論 III	A
EC3707		生徒指導論 (進路指導を含む)	学習期間終了
AK1039	～2017	生命の科学	84
AK1005	AK1042		
		生命の科学	78
AA1001	～2017	禅のこころ	10
AA1031		禅のこころ	8
EA4709		総合演習	学習期間終了
ZZ5991		卒業研究	199

夕行

CA3105		地域福祉論	A
FH3560	2018～	知覚・認知心理学	C
EF3727		知的障害教育	学習期間終了
EE4721		知的障害者の心理	学習期間終了
EE4722		知的障害者の生理・病理	学習期間終了
DD3119		知的障害者福祉論	121
EF3730		聴覚障害教育	学習期間終了
EE4725		聴覚障害者の心理	学習期間終了
EE4726		聴覚障害者の生理・病理	学習期間終了
EG4732		重複障害教育総論	学習期間終了
AB1035		データ分析とプレゼンテーション技法	36
AB1146	DA3146		
		統計情報を見る眼	46
EC3705		特別活動の指導法	学習期間終了
ET3771		特別支援教育支援員概論	学習期間終了
AT1029		特講 (地域と生活)	107
AT1044		特講 (3.11以降の社会を考える)	109

DT5205		特講・社会福祉学 5	A
DT5206		特講・社会福祉学 6	A
DT2201		特講・社会福祉学 I (介護保険と社会福祉士の課題)	202
DT2210		特講・社会福祉学 10 (スクール・ソーシャルワーク論)	204
DT2220		特講・社会福祉学 20 (コミュニティ・ソーシャルワーク II)	206
DT2250		特講 (防災土研修講座)	208
FT2605		特講・福祉心理学 5 (自分さがしの心理学)	C
FT2608		特講・福祉心理学 8 (ストレスとつきあう心理学)	C
FT2609		特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学)	C
FT2617		特講・福祉心理学 17 (認知行動療法)	C
FT2618		特講・福祉心理学 18 (人間関係におけるケアと暴力)	C

ナ行

FC2689		人間関係論	C
AH1017	AH1025		
	～2017	人間と教育	65
AJ1004		人間と宗教	学習期間終了
DD2215		認知症介護論	119
FH3510	FH3530		
	～2017	認知心理学	C

ハ行

EG4734		発達障害教育総論	学習期間終了
EG4733		発達障害者の心理	学習期間終了
DD2211		発達障害者の地域支援	117
DD3161	DD3168		
		発達障害者の理解と支援	127
FD3543	2018～	発達心理学	C
FD3546		発達臨床心理学	C
FF3524	～2017	犯罪非心理学	学習期間終了
EF3729		病弱教育	学習期間終了
EE4731		病弱教育総論	学習期間終了
EE4724		病弱者の心理、生理・病理	学習期間終了
EC3704		福祉科の指導法	学習期間終了
DH3121		福祉機器論→福祉用具と生活支援	163
CC4080	2009～	福祉行政と福祉計画	A
CE4074	2009～	福祉経営論	A
DH3123	～2008	福祉計画論	183
DE4125	～2008	福祉施設管理論	153
DH2109		福祉思想論	180
CC2101		福祉社会学	A
CC2103	CC2149		
		福祉心理学	A・C
FP5571		福祉心理学演習	C
AH1003	～2017	福祉と経済	53
AH1021		福祉と生活	学習期間終了
CB3063	2009～	福祉法学	A
CB3102	～2008	福祉法学	E
DA2142		福祉ボランティア活動	113
DF3121	DF3163		
		福祉用具と生活支援	163
DE3143	DE3162		
		福祉リスクマネジメント	147
AH1036		法の基礎	54
AH1007	AH1030		
	～2017	法の基礎 (日本国憲法を含む)	58
CD4075	2009～	保健医療サービス論	A
AB1002		ボランティア論	11

ラ行

FF2522		ライフサイクルと福祉心理学	C
DF3122		リハビリテーション論	170
FF3503	FF3564		
	～2017	臨床心理学	C
FF3552	2018～	臨床心理学概論 I	C
FF4555	2018～	臨床心理学概論 II	C
AJ1009		歴史を見る眼	学習期間終了
AJ1038		歴史を読み解く	73
DL3280		レクリエーション概論	学習期間終了
DL4282		レクリエーション事業	学習期間終了
DL4281		レクリエーション実技	学習期間終了
DK4691		労働法	学習期間終了
FD2517	～2017	老年心理学	C
FD2544	2018～	老年心理学 A	C
FD2545	2018～	老年心理学 B	C

『レポート課題集』の活用方法

科目名・担当教員名など

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では1単位あたりの学習時間は45時間（2単位科目90時間・4単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法・配当年次・担当教員

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』または『C（心理専門編）』2019年版参照。

科目の概要

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を示しています。意識して学習を進めてください。

●教科書

レポート学習やスクーリング時に使用する教科書を記載しています。在学中に変更になる場合もありますので、今年度学習するにあたり必ずご確認ください。

【スクーリング時の教科書について】

教科書が変更された科目について、通常変更後2年間は、変更直前の教科書を所持している方に対し、必要に応じて配慮をいたします。

教科書が変更されて2年以上経過した科目について、スクーリング時に新規教科書の所持が求められたり、事前学習において新規教科書が必要とされる場合、所持していない方は事前に購入などをお願いいたします。

なお、通信教育部へ購入を申込む場合は、本冊子巻末の「教材購入申込書」をご利用いただき、事前に郵送で、料金分の定額小為替も同封のうえ余裕をもってお申込みください。当日の購入は原則としてできません。本冊子巻末の「教材購入申込書」に記載のない教科書の料金はお問い合わせください。

●「卒業までに身につけてほしい力」との関連

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』または『C（心理専門編）』2019年版参照。

●科目評価基準

評価するにあたり、評価の計算方法を記載しています。

詳細は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照。

スクーリング

【オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングの際のご注意】

オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングにおいて、録画が前年度以前である科目も多いため、以前の教科書にもとづく講義の場合があります。その際は、最新の教科書を所持している方に対しては、必要に応じて配慮します。

また、講義内容も本冊子に記載の内容と若干異なる場合がありますが、ご了承ください。「オンデマンド・スクーリング用の講義概要」は、「TFU オンデマンド」の「各種申込」より確認してください。

●スクーリングで学んでほしいこと・講義内容・スクーリング 評価基準・スクーリング事前学習・事後学習

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』または『C（心理専門編）』2019年版参照。

レポート学習

●在宅学習のポイント・レポート課題・アドバイス

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』または『C（心理専門編）』2019年版参照。

科目修了試験

●科目修了試験

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』または『C（心理専門編）』2019年版参照。

共通基礎科目



産能大学などとの単位互換協定にもとづく科目の単位の一部も、共通基礎科目に含めることができます。
新規履修登録はできないが現在学習可能な科目は、下表をご覧ください。

共通基礎科目 新規履修登録受付停止中の科目

科目コード	科目名	2019年度の状況	参照レポート 課題集
AA1001	禅のこころ	新規履修登録停止。レポート提出・科目修了試験受験は2020年3月で終了。	本冊子 p.10参照
AB1332	情報処理Ⅰ	新規履修登録受付停止。スクーリング終了。レポート提出・科目修了試験受験は2020年3月で終了。	本冊子 p.45参照
AH1003	福祉と経済	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目修了試験受験は2020年3月で終了。	本冊子 p.53参照
AH1026	政治学の基礎	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目修了試験受験は2020年3月で終了。	本冊子 p.67参照
AK1016	健康科学	新規履修登録受付停止。レポート提出・科目修了試験受験は2020年3月で終了。	本冊子 p.86参照

※上記以外の科目については、すでに学習期間が終了しています。

禅のこころ			科目コード	AA1031
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S(講義)	1年以上	齋藤 仙邦	



※2018年度に履修方法・単位数が変更された科目です。これから「禅のこころ」を履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「禅のこころ」を履修登録した方は、『レポート課題集2017B』p.10「禅のこころ」(科目コード：AA1001、2単位、履修方法：R)を参照してください。

■スクーリングで学んでほしいこと

禅の思想的特徴を理解すると同時に、実際に坐禅を体験しその精神を会得する。

■到達目標

- 1) 禅の思想的特徴を理解する。
- 2) 坐禅の作法を身につける。
- 3) 調息、調身、調心について理解し実践する。
- 4) 坐禅を通して自己と他者を観察する。
- 5) 坐禅を通して自己を整える。自分を取戻す。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	講義：禅とは何か	禅の概念とその内容、禅の歴史について講義します。
2	坐禅（1）	坐禅堂で実際に坐禅をします。
3	講義：道元の思想	道元の思想について概説する。
4	坐禅（2）	坐禅堂で実際に坐禅をします。
5	坐禅（3）	坐禅堂で実際に坐禅をします。
6	講義：現代の禅	現代における禅の展開とその可能性。
7	坐禅（4）	坐禅堂で実際に坐禅をします。
8	質疑応答	質疑応答です。
9	ふりかえりシート作成	

■講義の進め方

講義と坐禅堂での坐禅を交互に行います。講義は座学だけでなくグループワークなども行います。

■スクーリング 評価基準

禅の理解（50%）＋坐相（50%）によって評価します。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

以下の点についてあらかじめ自分の考えをまとめておいてください。何かで調べたりする必要はありません。自分なりに考えておくことが大事です。授業のときに発表したりみんなで話し合いたいと思います。

- 1) 禅においてはよく「無になる」ということが言われますが、それはどのような心の状態なのかについて。
- 2) 「無」になってじっと坐ることにどのような効用があるのかについて。
- 3) 実際に坐ってみて「無」になろうとしてください。その時にどのような体験であったかについて。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

一日15分くらいでよいので静かに坐ることを続けてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「自己コントロール力」「自己の身心の観察力」を身につけてほしい。

■参考図書

講義で指示します。

禅のこころ ~2017			科目コード	AA1001
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R	1年以上	齋藤 仙邦	



※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です（新規履修登録はできません）。下記記載の「卒業までに身につけてほしい力」との関連「科目評価基準」以外の項目は、『レポート課題集2017』p.10~12をご覧ください。

※これから「禅のこころ」を履修登録される場合は、p.8「禅のこころ」(科目コード：AA1031、1単位、履修方法：S)を参照してください。

※この科目は2019年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2019年度まで可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「自己コントロール力」「自己の身心の観察力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50% + 科目修了試験50%

ボランティア論			科目コード	AB1002
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	小野 芳秀	



科目の概要

■科目の内容

ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今のようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。

本科目のレポートの2単位めの課題は、担当教員が課題を提示する「出題方式」(2-1)、または学習者が関心のあるテーマを自由に課題として設定する「選択方式」(2-2)のいずれかを選択してください。

■到達目標

- 1) ボランティア活動の定義について説明できる。
- 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。
- 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。
- 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。

■教科書

柴田謙治・原田正樹・名賀亨編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい、2010年
(最近の教科書変更時期) 2010年8月

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、特に教科書は使用しません上記の指定教科書を参考図書として持参されることを推奨します。

※2010年7月以前に履修登録された方は、小谷直道著『市民活動時代のボランティア』中央法規出版、1999年の所持でも可とします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価 or 科目修了試験40%

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

わが国の少子高齢化の急速な進展に伴い、福祉施策による公的サービスは財政的逼迫あるいは人員不足等による限界が生じています。地域住民が自立して安心・安全に生活するためには、インフォーマルな支援が提供される仕組みづくりが不可欠であり、その一つの担い手としてのボランティアへの期待は益々高まっています。地域社会における福祉コミュニティの構築に、ボランティア活動が果たす役割と可能性について共に考えましょう。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ボランティアとは何か	ボランティアの定義・性格と関係思想の歴史の変遷
2	ボランティア活動の実際①	ボランティア活動のマネジメント
3	ボランティア活動の実際②	災害ボランティア・NPOとボランティア
4	ボランティアを支える仕組み	ボランティアセンターとコーディネートの実際
5	地域福祉とボランティア	地域におけるボランティア活動の実際
6	対人支援とボランティア	対人支援ボランティア活動の実際
7	ボランティア活動の展望と課題	地域福祉の推進と自立生活支援
8	講義のまとめ補足・質疑応答	補足・質疑応答
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

授業では板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価。スクーリングで学んだ内容を踏まえ、試験問題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います（教科書・ノート・資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

ボランティアの意義と役割について教科書等を参考にしながら自身の考えをまとめてから講義に臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

ボランティア活動によって解決が期待される自身の生活環境における身近な問題、あるいは社会が抱える問題について考えてみましょう。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアとは何か (第1章)	ボランティアの性格、目的、関連する思想について理解する。 キーワード：自発性、ボランタリズム、利他主義、互酬性	教科書をよく読み、ボランティアの性格、関連する思想について理解を深める。
2	ボランティア活動の現状と課題 (第2章)	ボランティア活動の現状、課題と動向について理解する。 キーワード：特定非営利活動促進法（NPO法）、地縁型組織、テーマ型組織、CSR（企業の社会的責任）	教科書をよく読み、内容を理解する。なお教科書の表2-3「NPO法人の活動分野」は現在20分野となっている。どの分野が追加されているが自身で調べ確認しておくこと。また認定NPO法人制度についても調べておくこと。
3	ボランティアと現代社会 (第3章)	インフォーマルサービスの担い手としてのボランティアの意義と価値について理解する。 キーワード：インフォーマルサービス、福祉コミュニティ、QOL、社会福祉協議会、ボランタリーセクター	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
4	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み (第4章)	日本におけるボランティアの普及・推進の歩みについて理解する。 キーワード：COS、セツルメント運動	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
5	ボランティア活動に期待される社会的役割 (第5章)	学び・自己実現の装置としてのボランティア活動の意義、期待される社会的役割について理解する。 キーワード：ノーマライゼーション理念、ソーシャルアクション	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。ボランティア活動が「地域福祉の担い手」にとどまらず、ボランティア自身の「自己実現＝生きがい」につながるとはどのような意味か自分なりに整理してみる。
6	地域社会のボランティア (第6章)	これからの社会に必要とされる地域社会のボランティアについて改めて理解する。 キーワード：ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョン	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
7	環境とボランティア (第7章)	環境ボランティアの具体的活動について理解する。 キーワード：環境活動、環境カウンセラー	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	災害ボランティア (第8章)	災害ボランティアの実際、留意点について理解する。 キーワード：災害サイクル、自立のためのボランティア、災害ボランティアセンター	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。また、「東日本大震災」等の大規模災害において、被災者の生活復興に関してどのようなことが課題となっているのか自身で調べておくこと。
9	国際ボランティア (第9章)	国際ボランティアの実際、留意点について理解する。 キーワード：NGO、シンパシー、エンパシー	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
10	ボランティア学習 (第10章)	ボランティア学習の実際、留意点について理解する。 キーワード：ボランティア学習、インフォーマル・エデュケーション	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
11	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター (第11章)	ボランティアコーディネーター、ボランティアセンターの意義と役割について理解する。 キーワード：ボランティアコーディネーター、ボランティアセンター	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
12	ボランティア組織の運営 (第12章)	ボランティア組織の運営と人材育成について理解する。 キーワード：OJT、Off-JT、SD	教科書をよく読み、内容を理解する。教科書のキーワードについて意味をおさえておくこと。
13	ボランティアの可能性と展望 (第13章)	ボランティアの可能性と展望について理解する。 キーワード：ボランタリズムの逆説	教科書をよく読み、内容を理解する。
14	先人から学ぶボランティア (終章)	日本社会の性質とボランティアに関する考察においてボランティアがどのように捉えられているのか理解する。 キーワード：主体性と互酬、双方向性	教科書をよく読み、内容を理解する。
15	学習者自身の考察 (第1～終章)	学習者自身でボランティアの意義と役割について考察する。 キーワード：自身にとってのボランティア	教科書の第1章から終章までの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してみる。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め (2-1または2-2の いずれかを選択)	<p>2-1 (出題方式) ボランティアコーディネーターの役割と意義について説明し、ボランティア活動を推進するうえで具体的にどのような取り組み、あるいは仕組み(システム)作りが考えられるか、あなたの自由な意見を述べなさい。</p> <p>2-2 (選択方式) ボランティアに関する内容であなたにとって関心のあるテーマを一つ自由に選択し、そのことに対するあなたの自由な意見を述べなさい。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2016年度以前履修登録者) 2017年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2016』記載の課題での提出は2018年9月で締め切りました。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

テキストは一通り目を通されることをお勧めします。各単位の課題ごとの、指定箇所をよく読んで理解を深め、キーワードを参考にしながら課題を整理しましょう。

2単位めの課題をレポートに記載する際は、「2-1」または「2-2」の番号を明記してください。**レポート学習が初めてという方は、「2-2」の「選択方式」から取り組んでみてください。**

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

1 単位め
アドバイス

2-1 (出題方式)
テキストの第11・12章を参考にボランティアコーディネーターの必要性や有用性について述べてください。また、地域におけるボランティア活動を活性化するための方策についてあなたの自由な意見を述べてください。実際の取り組み事例等の紹介でも構いませんが、その場合、現在抱えている課題や改善案についても述べてください。

2 単位め
アドバイス

2-2 (選択方式)

ボランティアについて関心のあるテーマを自由に選び、構成(図1)を参考にレポートを完成させてください。(例)は、あくまでもレポートの内容を具体的にイメージして頂くための参考例です。例示にとらわれることなく自由に作成してください。

①タイトル→(例)「ボランティア組織の運営における個人負担を軽減させる方法について」等。

①タイトル
②序 論
③本 論
④結 論
(⑤参考文献)

図1:「2-2」課題のレポート構成

- ②序 論→レポートで「何について書こうとするのか」を明らかにします。また、何故このテーマを選択したのか自身の動機や問題意識について述べてください。
- (例)「ボランティア団体が特定の個人に負担を強いる形で運営されている場合、どのようにしたら個人の負担を軽減することができるのか、組織運営方法の改善策について考えてみたい」等の内容。
- ③本 論→「序論」で提起したテーマについて具体的にどのようなことが課題になっているのか、それに対して調べた内容、具体的解決策や自身の考え等を自由に述べてください。
- (例)「実際にどのようなことが問題となっているのか」、「調べた結果どのような解決策があるのか」、「課題に対して自身はどのような解決策を考えるのか」、「自身はどのようにその問題を考えるのか」等。
- ④結 論→序論で述べたテーマの「答え」についてまとめてください。
- (例)「以上、〇〇という課題に対して、～という解決策があることについて述べた」等の内容。
- ⑤参考文献→引用や参考にした文献・資料等があれば明記してください。表記方法の詳細については『学習の手引き』等を参考にしてください。「番号」、「著者名（編者名）」、「書名（論文名）」、「雑誌名・巻数」、「出版社」、「出版年次」、「引用ページ」（特に引用したページがなければ「出版年次」までの記載で可）の順。
- (例) 1) 柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編『ボランティア論—「広がり」から「深まり」へ』みらい、2010年 p.78

課題テーマの例としては、「中高生の学校教育におけるボランティアの単位化の是非について」、「善意とボランティア活動について」、「自身のボランティアに対するイメージ」、「ボランティアに関する新聞記事から考えたこと」、「ボランティアの運営に関すること」、「ボランティアを受ける側からの視点」等、ボランティアに関係するテーマであればどのようなものでも構いません。

◆2 単位め選択問題のレポート内容を学習に関する研究データまたは教材として活用させていただくことにつきましてご理解とご協力をお願いいたします。なお、レポートの使用にご同意頂けない方は、レポートの1ページ目の余白にその旨を明記してください。レポートは上記の目的以外、個人が特定される形での使用はいたしません。なお、使用の諾否がレポートの評価に反映されることは一切ありません。

科目修了試験

■評価基準

試験問題に沿って自身の見解や適切な解答が記述されているかを問います。
教科書の内容を理解しているかどうかを評価の対象といたします。

科学的な見方・考え方			科目コード	AB1032
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(講義)	1年以上	大内 真弓	



※2018年度に履修方法・単位数が変更された科目です。これから「科学的な見方・考え方」を履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「科学的な見方・考え方」を履修登録した方は p.22「科学的な見方・考え方」(科目コード：AB1020、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

現代社会においては、メディアを通して数多くの情報が瞬時に飛び交い、大した苦勞をすることもなく豊富な情報が手に入るようになりました。しかし、自分では十分に理解していると思っている情報であっても、いざ誰かに説明してみたら、意外とうやむやな理解であったために説明に戸惑ったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに、学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきなのか、論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられます。

特に通信教育のように、「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった(書きたかった)」「そういう意味も含めて書いた(つもり)」と書いていても、実際に文字になって表現できていなければ、読み手には全く伝わりませんし、単なる飛躍したアイディアやひらめきと言われても仕方ありません。

そこで本科目では、論理的に説明するひとつの方法として、資料(図または表)を活用して自身の考えを論理的に組み立てる手法を学び、科学的根拠に基づいた説得力のある表現ができるようになることを目指します。

■到達目標

- 1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。
- 2) 問われていることに的確に答えることができる。
- 3) 飛躍がないように論理を組み立てて、他者を納得させることができる。
- 4) データで示されている内容を、正確に読み取ることができる。
- 5) 先入観や一般論を混在させずに、事実に基づいた説得力のある表現ができる。
- 6) 科学的根拠により表現されているか否かの判断が明確にできる。

■教科書

野矢茂樹著『新版 論理トレーニング』産業図書、2006年

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「ICT 活用力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価80%+スクーリング評価20%

■参考図書

- 1) 池内了著『科学の考え方・学び方』岩波ジュニア新書、1996年
- 2) 長谷川真理子著『科学の目 科学のこころ』岩波新書、1999年
- 3) 長谷川真理子著『生き物をめぐる4つの「なぜ」』集英社新書、2002年
- 4) 山田ズーニー著『話すチカラをつくる本』三笠書房、2009年
- 5) 狩野光伸著『論理的な考え方 伝え方』慶應義塾大学出版会、2015年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	科学的な見方・考え方とは何か	主観と客観の相違を理解する。
2	多様な表現方法	グループ単位でテーマを設定する。他者の意見に触れる。
3	何を述べたいのか	テーマを理解する。研究目的を設定する。
4	どのように説明するか	他者への説明方法を考える。どんな資料が必要か検討する。
5	どうしたら正しく伝わるか	説明するための流れを構成する。必要な資料を収集する。
6	わかりやすい表現とは	収集した資料を読み取る。分析する。言語化する。
7	文字情報としての表現方法	文章化する際のポイントと注意点を理解する。
8	最終調整～ブラッシュアップ～	論理展開に矛盾や飛躍がないかを精査する。適した形態に整える(選択・まとめ・加工)。文章の推敲方法を確認する。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に講義を進めます。一部に演習形式のグループワークも導入し、参加者と協力して作業を進めます。また、実際に国見キャンパスの図書館を利用し、必要な資料の検索および収集方法を体験します。全体を通して、受講生が実践を伴いながら学習内容を習得する体験型のスクーリングを行います。

■スクーリング 評価基準

試験は上記「到達目標」に挙げているスクーリングで習得する内容について、どれだけ実践に盛り込めるかを問います。そのためにも、スクーリングを受けるという受動的な姿勢ではなく、スクーリ

ング内容に沿って「主体的に行動する」という気持ちでスクーリングには臨んでください。スクーリングを実践練習の場にできれば、試験はその確認作業のようなものですので、問題なくクリアできる流れになっています。(持込はすべて不可)

■スクーリングで必要なもの

実体験として、レポートを提出する際と同様に図や表の切り貼りも行いますので、スクーリングには各自ではさみとのりを持参してください。

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

- 1) 教科書の「序論 論理とは何か」を読んでください。
- 2) 社会でどのような環境問題が注目されているかを調べ、最も興味を持ったテーマについて、その内容に関する図または表のコピー(出典を明示したもの)を当日持参した上で、自身の考えを述べられるようにしてきてください。なお、新聞記事や書籍などの文字のみで表現されているものは対象としません。

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安：20～25時間)

レポート作成に関しては数多くのポイントがあり、簡単に覚えられることばかりではないと思います。特に、図表の引用については明確なルールがあり、図表を利用するにあたってはルールを厳守することが求められています。レポート課題のテーマにのみ気を取られることのないように、スクーリングの内容を見直したり、書き上げた後にもやや時間を置きブラッシュアップをしたりすることを忘れずに、丁寧なレポート作成を心掛けてください。

レポート学習

■レポート課題

※レポートはスクーリング受講後に提出してください。

1 単位め	(1) テキスト159ページの練習問題10の問5において、(例1)～(例4)からひとつの論題を選び、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果にも触れつつ解答しなさい。 (2) 自分で論題を設定し、上記(1)に準じて解答しなさい
2 単位め	環境問題に関するテーマを設定し、自分自身の考察を十分に入れて論じなさい。その際、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果も述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「科学的に見た・考えた」先の自身の考えをレポートにまとめていきます。「科学的」であるためには、客観的な意見であり、読者を納得させる論理構成が求められます。そのひとつとして、本科目の特徴である図表データの貼付と活用を課題にしています。ここで指定しているデータとは、数値がそのまま示されている表や、わかり易い視覚情報とするために、数値情報を折れ線グラフや棒グラフ、円グ

ラフなどに書き換えている図などを指します。新聞記事や書籍などの文字情報は、事実に基づいた内容であっても、既に著者の言葉に置き換えて表現されていることから、データとみなすことはできません。文字情報を資料として貼付しているレポートは、課題を満たしていないために再提出を要求しています。資料貼付の際には、この点に十分注意をしてください。また、原稿用紙タイプの場合には、レポートの文字数を減らしてしまわないように、貼付物とレポート用紙の端のみを糊付けしてください。文字数に厳密な制限は設けていませんが、規定の9割以上を基本のラインとして書いてください。

1 単位 アドバイス

課題(1)については、第10章までのテキストの流れに沿って学習を進めれば、課題への取り組み方は理解できるはずですが、4つの例から1つを選び解答してください。論理を展開する上で、資料を貼付することを要求しています。インターネットや新聞、書籍などを検索して、論理を進めるために適した資料を見つけ出してください。適切な資料を見つけたら、コピーまたは印刷などをして保存しておきます。その資料を丹念に分析し、レポート中でその分析結果を述べ、そのページに上端部分のみ貼付してください。レポート中では出典を明らかにして「図(表) 1 に示すように～」 「～の結果を図(表) 2 に示す。」 というように提示し、その資料が何を示しているのか、どのように解釈できるのか、この論理にどうかかわるのか、などを詳細に述べてください。その資料の信憑性が低ければ、論理を補強するものになり得ませんから、論理に説得力を持たせるためには、可能な限り公的な資料であることが望ましく、資料の選択は大変重要となります。このような論理展開からこの結論が導かれるのであるなら、読み手が賛成派であっても反対派であっても十分に納得できるというレポートを書いてください。

課題(1)と課題(2)の字数配分については、それぞれに制限は設けませんので、全体で提示されている字数の9割以上となるようにしてください。

なお、数字の表記方法は、2桁以上の場合原稿用紙1マスに2つずつとします。この基本はすべての課題に共通です。

課題(2)は、課題(1)と同様に進めますが、自分で論題を設定してください。同じく資料を貼付することを要求していますが、論題に合わせた資料を探すのが難しいと感じた場合は、利用しやすい資料を先に探してから論題を設定するという方法でもかまいません。

2 単位 アドバイス

本科目の仕上げとして、「環境問題」と言われるなかから自由にテーマを選んで論題を設定し、資料を貼付しかつ十分な考察を交えて論じてください。「環境問題」にかかわる内容であれば問題となっている地域や社会における注目度などは問いませんが、テーマの選択は大変重要です。最も関心のあるテーマであれば、好奇心が掻き立てられるため比較的スムーズに進められると思います。ただ、資料が少ないテーマを選択した場合は、論理を展開する上で十分な裏付けができなくなり、主観に偏った流れになる恐れがあります。そういう意味では、関心の度合いのみで選択するのではなく、まずは数多くの資料に当たってみて、そのなかから興味の得られるものを選択する方法が望ましいかもしれません。資料は納得できる論理を展開する上での重要な武器ですので、慎重に選択してください。以下に環境問題と関係する Web ページアドレスをいくつかあげますので、参考してみてください。

環境省 <http://www.env.go.jp/>

環境 goo <http://eco.goo.ne.jp/>

PET ボトルリサイクル推進協議会 <http://www.petbottle-rec.gr.jp/>

アルミ缶リサイクル協会 <http://www.alumi-can.or.jp/>

スチール缶リサイクル協会 <http://steelcan.jp/>

公益財団法人古紙再生保健センター <http://www.prpc.or.jp/>

日本ガラスびん協会 <http://glassbottle.org>

JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>

福祉と環境には接点が見出せないと思われるかもしれませんが、生活環境の実情を知り改善していくことは、より良い生き方をするために、そしてより健康に生活するために必須であると考えられます。地球規模的な問題も取り上げられていますが、ぜひ他人事と片付けずにそれぞれの目線で考えた問題として捉え論じてください。

参考図書 (p.18) としてあげているもののうち、1冊目1)は、主に科学的な考え方をするということはどういうことかを、若い世代へのメッセージとして大変平易に述べられており読みやすいものです。ただし、具体的な例として述べられているのは、自然科学の分野についてです。2冊目2)は科学雑誌に連載されたエッセーをまとめたもので、さまざまな視点から考えている姿勢が楽しさを増します。3冊目3)は2冊目の著者の専門分野である動物行動学を切り口として、生物の持つ不思議な特長について読み解くことを試んでいます。著者は「生物がつまらない暗記科目などではないことを知って欲しい」ために書いているので、論理的思考を学ぶためだけでなく、生き物についての読み物として大変面白いと思います。ただ、いずれの参考図書を手にしたとしても、自身が丹念に考え考察し、導き出した論理を組み立てるトレーニング抜きには目標は達成できません。そういう意味での参考図書であることをご理解ください。

科学的な見方・考え方

～2017

科目コード

AB1020・
AB1041



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	大内 真弓

※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載以外の項目は、p.17「科学的な見方・考え方」(科目コード：AB1032、2単位)を参照してください。

※これから「科学的な見方・考え方」を履修登録される場合は、p.17「科学的な見方・考え方」(科目コード：AB1032、2単位、履修方法：SR)を参照してください。

※2017年度以前入学者で、この科目(4単位 履修方法：RorSR)での受講を希望する場合は、履修登録用紙の右下の空欄に記入してください(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です。

※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更となります。

※科目コード AB1020 2018年度までのスクーリング受講者(スクーリング単位2単位)
AB1041 上記以外の方(スクーリング単位1単位)

■科目評価基準

レポート評価80%+スクーリング評価 or 科目修了試験20%

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、教科書は使用しません。資料を配付します。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に講義を進めます。一部に演習形式のグループワークも導入し、参加者と協力して作業を進めます。また、実際に国見キャンパスの図書館を利用し、必要な資料の検索および収集方法を体験します。全体を通して、受講生が実践を伴いながら学習内容を習得する体験型のスクーリングを行います。

■スクーリング評価基準

試験は上記「到達目標」に挙げているスクーリングで習得する内容について、どれだけ実践に盛り込めるかを問います。そのためにも、スクーリングを受けるという受動的な姿勢ではなく、スクーリング内容に沿って「主体的に行動する」という気持ちでスクーリングには臨んでください。スクーリングを実践練習の場にできれば、試験はその確認作業のようなものですので、問題なくクリアできる流れになっています。(持込はすべて不可)

■スクーリングで必要なもの

実体験として、レポートを提出する際と同様に図や表の切り貼りも行いますので、スクーリングには各自ではさみとのりを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 教科書の「序論 論理とは何か」を読んでください。
- 2) 社会でどのような環境問題が注目されているかを調べ、最も興味を持ったテーマについて、その内容に関する図または表のコピー（出典を明示したもの）を当日持参した上で、自身の考えを述べられるようにしてきてください。なお、新聞記事や書籍などの文字のみで表現されているものは対象としません。

■レポート課題

1 単位め	(1) テキスト68ページの練習問題4の問2について、解答例以外の解答をできるだけ多くあげなさい。 (2) 同上の問題文を読み、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果にも触れつつ自分自身の考察を述べなさい。
2 単位め	(1) テキスト159ページの練習問題10の問5において、(例1)～(例4) からひとつの論題を選び、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果にも触れつつ解答しなさい。 (2) 自分で論題を設定し、上記(1)に準じて解答しなさい。
3 単位め	テキスト167ページの課題1について、テキストを参考にして論じなさい。その際、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果も述べなさい。
4 単位め	環境問題に関するテーマを設定し、自分自身の考察を十分に入れて論じなさい。その際、論理の展開に適する資料を貼付し、本文においてその分析結果も述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「科学的に見た・考えた」先の自身の考えをレポートにまとめていきます。「科学的」であるためには、客観的な意見であり、読者を納得させる論理構成が求められます。そのひとつとして、本科目の特徴である図表データの貼付と活用を課題にしています。ここで指定しているデータとは、数値がそのまま示されている表や、わかり易い視覚情報とするために、数値情報を折れ線グラフや棒グラフ、円グラフなどに書き換えている図などを指します。新聞記事や書籍などの文字情報は、事実に基づいた内容であっても、既に著者の言葉に置き換えて表現されていることから、データとみなすことはできません。文字情報を資料として貼付しているレポートは、課題を満たしていないために再提出を要求しています。資料貼付の際には、この点に十分注意をしてください。また、原稿用紙タイプの場合には、レポートの文字数を減らしてしまわないように、貼付物とレポート用紙の端のみを糊付けしてください。文字数に厳密な制限は設けていませんが、規定の9割以上を基本のラインとして書いてください。

1 単位め アドバイス

課題(1)については、第4章までのテキストの流れに沿って学習を進めれば、課題への取り組み方は理解できるはずですが、丁寧に読み進めて理解を深め、できるだけ多くの解答をあげてください。

課題(2)は、課題(1)と同じ問題文を読んで、賛成でも反対でもどちらでもかまわないので、自分自身の考えを述べることを求めています。ただし科学的に考えることを要求している科目であるため、主観的な意見では納得できません。資料を用いることを要求していますので、インターネットや新聞、

書籍などを検索して、論理を進めるために適した資料を見つけ出してください。適切な資料を見つけたら、コピーまたは印刷などをして保存しておきます。その資料を丹念に分析し、レポート中でその分析結果を述べ、そのページに上端部分のみ貼付してください。レポート中では出典を明らかにして「図(表) 1 に示すように～」 「～の結果を図(表) 2 に示す。」 というように提示し、その資料が何を示しているのか、どのように解釈できるのか、この論理にどうかかわるのか、などを詳細に述べてください。その資料の信憑性が低ければ、論理を補強するものになり得ませんから、論理に説得力を持たせるためには、可能な限り公的な資料であることが望ましく、資料の選択は大変重要となります。このような論理展開からこの結論が導かれるのであるなら、読み手が賛成派であっても反対派であっても十分に納得できるというレポートを書いてください。

課題(1)と課題(2)の字数配分については、恐らく課題(2)の方が圧倒的に多くなると予想できますが、それぞれに特に制限は設けませんので、全体で提示されている字数の9割以上となるようにしてください。

なお、数字の表記方法は、2桁以上の場合原稿用紙1マスに2つずつとします。この基本はすべての課題に共通です。

**2 単位め
アドバイス** 課題(1)については、第10章までのテキストの流れに沿って学習を進めれば、課題への取り組み方は理解できるはずですが、4つの例から1つを選び解答してください。論理を展開する上で、1単位めと同様に資料を貼付することを要求しています。1単位めの解説を参考にして同様に取り組んでください。

課題(2)は、課題(1)と同様に進めますが、自分で論題を設定してください。同じく資料を貼付することを要求していますが、論題に合わせた資料を探すのが難しいと感じた場合は、利用しやすい資料を先に探してから論題を設定するという方法でもかまいません。

**3 単位め
アドバイス** いよいよテキストも終盤です。第11章の流れに沿って考え、2,000字のレポートを仕上げてください。結論は賛成論でも反対論でもどちらでもかまいません。適切な資料を貼付し、著者の考察を入れて自由に論じてください。ただし、長くなると文章を組み立てる基本が曖昧になってしまうことがあるため、十分に推敲し矛盾のないように述べてください。

**4 単位め
アドバイス** 本科目の総括として、「環境問題」と言われるなかから自由にテーマを選び論題を設定し、資料を貼付しかつ十分な考察を交えて論じてください。「環境問題」にかかわる内容であれば問題となっている地域や社会における注目度などは問いませんが、テーマの選択は大変重要です。最も関心のあるテーマであれば、好奇心が掻き立てられるため比較的スムーズに進められると思います。ただ、資料が少ないテーマを選択した場合は、論理を展開する上で十分な裏付けができなくなり、主観に偏った流れになる恐れがあります。そういう意味では、関心の度合いのみで選択するのではなく、まずは数多くの資料に当たってみて、そのなかから興味の得られるものを選択する方法が望ましいかもしれません。資料は納得できる論理を展開する上での重要な武器ですので、慎重に選択してください。以下に環境問題と関係する Web ページアドレスをいくつかあげます

ので、参考にしてみてください。

環境省 <http://www.env.go.jp/>

環境 goo <http://eco.goo.ne.jp/>

PET ボトルリサイクル推進協議会 <http://www.petbottle-rec.gr.jp/>

アルミ缶リサイクル協会 <http://www.alumi-can.or.jp/>

スチール缶リサイクル協会 <http://steelcan.jp/>

公益財団法人古紙再生保健センター <http://www.prpc.or.jp/>

日本ガラスびん協会 <http://glassbottle.org>

JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター <http://www.jccca.org/>

福祉と環境には接点が見出せないと思われるかもしれませんが、生活環境の実情を知り改善していくことは、より良い生き方をするために、そしてより健康に生活するために必須であると考えられます。地球規模的な問題も取り上げられていますが、ぜひ他人ごとと片付けずにそれぞれの目線で考えた問題として捉え論じてください。

参考図書 (p.18) としてあげているもののうち、1冊目1)は、主に科学的な考え方をするということはどういうことかを、若い世代へのメッセージとして大変平易に述べられており読みやすいものです。ただし、具体的な例として述べられているのは、自然科学の分野についてです。2冊目2)は科学雑誌に連載されたエッセーをまとめたもので、さまざまな視点から考えている姿勢が楽しさを増します。3冊目3)は2冊目の著者の専門分野である動物行動学を切り口として、生物の持つ不思議な特長について読み解くことを試んでいます。著者は「生物がつまらない暗記科目などではないことを知って欲しい」ために書いているので、論理的思考を学ぶためだけではなく、生き物についての読み物として大変面白いと思います。ただ、いずれの参考図書を手にしたとしても、自身が丹念に考え考察し、導き出した論理を組み立てるトレーニング抜きには目標は達成できません。そういう意味での参考図書であることをご理解ください。

科目修了試験

■評価基準

テーマを設定し、以下に挙げたポイントに沿った記述ができているかを基準に評価します。

- 1) 文章の書き方に関する基本的なルールを理解している。
- 2) わかり易くなるように工夫をして述べることができる。
- 3) 異なる事柄の相違を明確に分けて説明できる。
- 4) 説得力のある論理構成になるように組み立てることができる。
- 5) 科学的なデータを正確に読み取り分析することができ、その意義を理解している。

基礎演習			科目コード	AB1033
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(講義)	1年以上	門脇 佳代子	



※2018年度に履修方法・単位数が変更された科目です。これから「基礎演習」を履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「基礎演習」を履修登録し、S科目として受講する方は、本科目の「スクーリング」の項目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

通信教育での基盤となるレポート学習の仕方について学びます。

【スクーリングで学ぶ内容】

福祉にまつわるさまざまな問題からテーマを設定し、グループごとに話し合い、議論された内容について資料（レジュメ）を作成し、最後にグループ発表を行っていただきます。適切な情報収集のために必要な書籍とインターネットの活用方法や、聞き手（読み手）に伝えるための内容構成について学びます。一方的な講義形式ではなく、学生が主体的に参加する演習形式です。受講生の自由な視点からの、活発な議論を期待します。またグループ学習を通じ、普段の学習方法についての情報交換や学習仲間をつくる機会にもしてください。

【レポート学習で学ぶ内容】

スクーリングでグループごとに作成した資料（レジュメ）を骨子として、レポートを執筆します。レポートとしての正しい書式や構成、表記方法を学びます。

■到達目標

- 1) 一つのテーマや話題について討議し、他者の意見を傾聴しながら、新たな気づきを得、またそれらを自身の中で再構築し表現することができる。
- 2) レジュメの作成を通じてレポート学習の手順を理解し、正しい書式で要点を押さえたレポートを書くことができる。
- 3) 学友の輪を広げる。

■教科書

佐藤 望編著、湯川 武・横山千晶・近藤明彦著『アカデミック・スキルズ 第2版 一大学生のための知的技法入門一』慶應義塾大学出版会、2012年

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「自己尊重的コミュニケーション力」「ICT 活用力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

【履修方法 SR】

レポート評価50%+スクーリング評価50%

【履修方法：S】

「スクーリング 評価基準」を参照してください。

■参考図書

市古みどり [編著]・上岡真紀子・保坂睦『アカデミック・スキルズ 資料検索入門 レポート・論文を書くために』慶應義塾大学出版会株式会社、2014年

慶應義塾大学教養研究センター監修・大出敦『アカデミック・スキルズ クリティカル・リーディング入門―人文系のための読書レッスン』慶應義塾大学出版会株式会社、2015年

世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック』世界思想社、2015年（3訂第1刷）

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・グループ分け・テーマ設定
2	グループワーク①	資料を元にグループで話し合い・レジュメ作成
3	グループワーク②	資料を元にグループで話し合い・レジュメ作成
4	グループワーク③	資料を元にグループで話し合い・レジュメ作成
5	グループワーク④	グループ発表（プレゼンテーション）の練習
6	グループ発表①	グループ発表と討議
7	グループ発表②	グループ発表と討議・講評
8	ふり返り・質疑応答	グループワークのふり返り
9	スクーリング試験	グループワークの感想をまとめる

■講義の進め方

グループワークとグループ発表、個人レポート（感想）提出を行います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（80%）+スクーリング試験（20%）で評価。グループワークや討議への参加状況や発表内容から総合的に評価します。グループ内で積極的に協力し合い、課題に取り組んでください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：2時間程度）

教科書の第1章を読んでください。また福祉をめぐるさまざまな社会問題（障害者支援・格差・子育て等）について、日頃から関心をもつようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：30～35時間）

演習で取り組んだテーマについて、不明点や調べ足りなかった部分を各自でさらに掘り下げてみましょう。2単位・SR科目での履修者は、演習時のテーマでレポート学習を行ってください。

レポート学習

■在宅学習8のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	テーマの検討 (1章)	スクーリングで取り上げたテーマについて、学問的な問い（公共的・普遍的）であることを検討する。	スクーリングで作成したレジュメを元に、問題提起と結論の対応関係に留意して、レポートの中で何を述べたいのかを考えましょう。主張したいことを端的に表わしたフレーズがテーマになります。
2	情報（文書）収集 (3章)	単行本、新聞・雑誌といった刊行物を中心に、参考文献（図書）の集め方を学ぶ。	図書館を活用して、適切な文書資料の収集を身につけましょう。
3	データベースの活用 (3章)	インターネットからの情報収集を学ぶ。	適切な資料にたどりつくために、OPAC（オンライン蔵書目録）や白書などのデータベースの使い方を習得しましょう。
4	クリティカル・リーディング (4章)	クリティカル・リーディング（批判的読解）を理解し、実践する。	テキストや参考文献を正しく理解するためのクリティカル・リーディングを意識した学習方法を身につけましょう。精読と速読を交互に行うことも効果的です。
5	情報整理 (5章)	収集した情報を、レポート課題に沿って整理する。	情報のカード化、ノートでの整理、パソコンでのデータ化など、自分に合った情報整理の仕方を探しましょう。
6	研究のアウトプット (6章)	他者に伝えるための文章化を行う。	テーマに対して、自分が述べたいことを常に意識することが大切です。また取り上げる資料は、客観的な根拠となるかに注意しましょう。
7	レポートの書式と引用・出典の仕方 (8章・附録)	正しい書式と引用・出典明示を学ぶ。	レポートには、学問として求められる、書式や引用・出典明示の仕方があります。限られた文字数の中で書き手の意図を正確に伝えるために、これらのルールを守ることは必須です。
8	文章表現 (8章・附録)	他者に伝えるための正確な作文を学ぶ。	テキストに記載されている作文の留意点を意識しながら、書き上げたレポートを読み返し、文章を推敲しましょう。

■レポート課題（スクーリング受講後に提出してください）

1 単位め	スクーリングで取り組んだテーマについて、グループごとに作成したレジユメを元にして、レポートにまとめなさい。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

スクーリングの受講後に、授業で取り組んだテーマのレポートを作成・提出いただきます。レポートの書き方に絶対はありません。なぜなら、皆さんは一人一人、大学を通じて学びたいと思っている事柄も違えば、勉強の仕方に向き不向きもあるからです。はじめは、ご自身に合った勉強方法を探すつもりで、レポート学習に取り組んでみてください。一人での学習に不安を感じる場合は、スクーリングや科目修了試験の際に周囲の方に話しかけてみるのもよいでしょう。不安や工夫している点など、お互いの情報交換から得られるものは大きいと思います。基礎演習ではグループワークを中心にスクーリングを行いますが、いつも受講生の皆さんは力を合わせて課題に取り組み、和やかな交流を育んでいらっしゃいます。

学問の第一歩は、「分からない」を自覚することだと思います。困難も多いと思いますが、皆さんの学習が一步一步着実に進んでいくことを願っています。

■レポート 評価基準

スクーリング時にお話しします。

基礎演習

~2017

科目コード

AB1145・
DA2145



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(演習)	1年以上	門脇 佳代子

※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。科目の内容・スクーリング講義概要は、p.26「基礎演習」(科目コード：AB1033、2単位)を参照してください(レポート提出は不要です)。

※これから「基礎演習」を履修登録される場合は、p.26「基礎演習」(科目コード：AB1033、2単位、履修方法：SR)を参照してください。

※2017年度以前入学者で、この科目(1単位 履修方法：S)での受講を希望する場合は、履修登録用紙の右下の空欄に記入してください(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※この科目は2022年度まで開講します。

※本科目は2016年度より専門選択科目から共通基礎科目に科目区分が変更されました(2016年度以降の履修登録者は共通基礎科目(科目コード AB1145)となります)。

※2015年度までに履修登録済みの方へ

2016年4月に、科目コード AB1145に変更されています。専門選択科目として履修している方は、科目コード DA2145のままです。

情報処理の基礎			科目コード	AB1034
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR (講義・実習)	1 年以上	高橋 俊史	



※2018年度に「情報処理Ⅰ」から科目名・履修方法が変更された科目です。これから履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「情報処理Ⅰ」を履修登録した方は、p.45「情報処理Ⅰ」(科目コード：AB1332、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

情報化社会においては、コンピュータの活用力として、インターネットでの検索ができるだけでなく、コンピュータを用いた文章作成とデータ分析が必要になっています。そして、本通信教育課程においても、インターネットを通じた学習システム(TFU オンデマンド)の活用をはじめ、アンケート結果などのデータを分析し、レポートを作成する力が必要になっています。そこで、学習支援システムの操作方法の修得から始まり、レポート作成のための文章作成ソフト、各種データを分析するための表計算ソフトの活用方法を基礎の基礎から学びます。また、情報化社会においては、コピーや SNS の炎上などが問題視されていることから、情報機器を活用する際の情報モラルについても学びます。これらの学びを通して、通信教育課程において求められる情報リテラシー(コンピュータを使うための知識・技術)を修得します。

【スクーリングで学ぶ内容】 文章作成、表計算の基本的な技術の修得を目指します。

【レポート学習で学ぶ内容】 情報モラル、文章作成、表計算に関する知識や実践力の修得を目指します。

■到達目標

- 1) 通信教育課程にて求められる学習支援システム(TFU オンデマンド)が活用できるようになる。
- 2) コンピュータを用いてレポートなどの文章を作成できる。
- 3) コンピュータを用いて表計算やグラフの作成などができる。
- 4) コンピュータを使用する上でのマナーやモラルを論じることができる。

■教科書

『学生のための Office2016 & 情報モラル』 noa 出版、2016年発行

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

※2018・2019年度のスクーリングの際は、『学生のための Office2013 & 情報モラル』の所持でも可。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者配慮表現力」「ICT 活用力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価40%

■参考図書

実教出版編集部編『30時間でマスター 情報リテラシー Office2016』実教出版

■履修上の留意事項

コンピュータを用いて文章作成や表計算などの基礎の基礎から学ぶ講義です。そのため、コンピュータ初心者を対象とした講義であることを踏まえて履修ください。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	インターネットの基本	オンデマンド・スクーリング受講システム、履修状況票 Web 閲覧システムを含めたインターネットの活用について学びます。
2	情報モラルとセキュリティ	パソコンを使用するうえでの、モラルやセキュリティについて学びます。
3	文章作成の基礎 - Word の基礎	Word の基本説明と文字入力方法を学びます。
4	文書作成の基礎 - 文書の編集	文字の装飾などの書式設定を学びます。
5	文書作成の基礎 - 表の活用	文章内への表の挿入、編集方法を学びます。
6	文書作成の基礎 - 表現力の向上	画像や図形の挿入、編集方法を学びます。
7	文書作成の基礎 - 文書レイアウト	ページレイアウトやヘッダーフッター等の設定を学びます。
8	文書作成の基礎 - 文章作成の演習	例題問題を通して、文章作成技術の向上を行います。
9	表計算の基礎 - Excel の基礎	Excel の説明とデータ入力を学びます。
10	表計算の基礎 - データ処理	数式や簡単な SUM などの関数の活用を学びます。
11	表計算の基礎 - グラフの挿入	棒グラフ、円グラフ等のグラフの作成方法を学びます。
12	スクーリング試験	

■講義の進め方

教員の示す操作画面を中心に講義を勧めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

文章作成ソフトや表計算ソフトの活用スキルの理解を実技を通して問います。(持込不可)

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- ・インターネットを活用する際の問題点について考えてきてください。
- ・文章作成ソフトや表計算ソフトが活用できるためにはタイピング能力が必要ですので、キーボードでの入力練習をしてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

コンピュータを用いた文章作成や表計算ソフトは、活用しなければ忘れてしまいますので、講義内で作成した文章を再度作成するなどの復習をしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	コンピュータの基礎	基本操作、ファイル・フォルダ管理	自分の作成したファイルがどこに保存されるのかななどを理解する。
2	インターネットの活用	Web 操作	スクーリング受講システムなどが活用できるようになる。
3	情報モラルの基礎	SNS、モラル	インターネットを安全・安心して活用できるようになる。
4	情報セキュリティの基礎	情報管理	個人情報保護など情報の管理について説明できるようになる。
5	文章入力の基礎	文字入力・変換	意図する文章を作成するために、的確な文字入力ができるようになる。
6	文章の編集	書式設定	入力した文字を見やすいように編集できるようになる。
7	表の基礎	表の挿入、削除	自分の意図する内容が記載できる表を作成できるようになる。
8	表の活用	表の装飾	作成した表が見やすくなるように装飾できるようになる。
9	図の活用	図の挿入	画像や図を自分の意図するように配置することができるようになる。
10	文章レイアウトの理解	ページ設定	見やすく、わかりやすい文章が作成できるようになる。
11	表計算の基礎	データ入力	データの入力方法を理解し、的確な形式で表示できるようになる。
12	数式の理解	数式	セルに計算式を入力し、データ処理ができるようになる。
13	関数の理解	関数	簡単な関数を活用して、データ処理ができるようになる。
14	グラフの活用	グラフの挿入・編集	データ内容がわかりやすくなるようなグラフが作成できるようになる。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	文章作成・表計算ソフトの活用	文章作成のまとめ	表計算ソフトで作成したグラフを文章作成ソフトにて活用できる。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	レポート課題「東北福祉大学の将来像について推察し、論じなさい (1,200字程度)」 なお、その際には、東北福祉大学のホームページの「大学について → 学生・教職員・卒業生数 (https://www.tfu.ac.jp/aboutus/count.html)」内に公開されている「入学者推移」のデータをグラフ化し、レポートに含めて考察を行ってください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

情報化社会といわれる今日では、業務だけでなく日常生活においても文章をメールに添付して送付してもらえると便利で助かるからよろしくね、ということで、コンピュータを活用し文章を作成しなければならない機会が増えているのではないかと思います。そのような状況により、画像を入れる方法はわからないけれど、文字だけの文章を書く事は、何度も経験し、どうにか作成することができるという方は多くいると思います。しかし、ただ文章を作成するだけでなく、多くの人にわかりやすい文章や資料の作成が期待されます。その結果、画像やグラフ、表等の記載も求められ、どのように追加すればよいのだろうか、大きさはどうすれば変えることができるのだろうか、そして、文字とのバランスや配置がうまくできなくて困ってしまうということがよく聞かれます。また、表計算ソフトを用いて、アンケート結果を簡単にいいから集計をして、グラフ化するにはどうしたら良いのかなど、悩むことも増えています。そしていま挙げた画像の挿入やアンケート結果のグラフ化などの要素は、大学のレポートにおいても同様に求められる要素となっています。

そこで、本講義の目的は、コンピュータを使用し、レポートを作成するための文章作成ソフトの活用方法、アンケート結果等のデータを分析するための表計算ソフトの活用方法の基礎を学び技術を身につけることを第1の目的とします。しかし、情報化社会では、知識・技術だけでなく、レポートにおける「コピペ」が問題視される社会であることから、コンピュータを活用する際の情報モラルを理解することを第2の目的とします。

したがって、レポート評価の視点として文章作成ソフトを用いて、見やすい文章の書式表現（文字の大きさや配置など）ができているのか、自分の意図するところ、読み手に見やすい位置に図表を入れることができているか、さらには図のタイトル等を適切に配置できているかが重要な要素となります。また、表計算ソフトに関しては、効率的にデータの処理（計算式や関数の活用）が行われ、データが読み手にわかりやすいようにグラフ化されているかがポイントとなります。さらには、本講義の課題を回答するためには、自分で収集したデータではなく、他者の集計したデータを活用することとなるため、引用・参考文献の表記などの基本ルールを含めた、情報モラルを理解しているのかが、レポート評価のポイントとなります。

実際により質の高い状態でレポート評価を達成するためには、同じ文章であっても練習の意味を込

めて何度も作成するなど、実施回数を重ねること、作成した文章を他者に評価してもらうことが必要不可欠です。そのため、文章作成ソフトや表計算ソフトの様々な機能を恐れずに、積極的に活用することを意識して取り組んでいただくと、課題の質がより向上すると考えています。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。また、教科書だけで判断ができない場合は、インターネットを活用してもかまいません。ただし、インターネット上には正しい情報だけがあると限りませんので、きちんと精査をして参考とするようにしてください。

2 単位め アドバイス

2 単位めの課題は、インターネット上にあるデータを基に、わかりやすいように整理し、考察を行うことがポイントとなります。そのためには、実際に文章作成ソフトや表計算ソフトなどを活用し、まとめることが必要となります。その作業を行うためには、自分の行いたい機能に関する教科書の項目をよく読み、理解することが必要となります。しかし、実際に作業をするにあたっては、言葉だけでは理解することが難しいことがあります。その場合には、教科書のはじめに記載されておりますリファレンス動画へアクセス（インターネットに接続できる環境が必要です）し、動画による操作指導を参考にいただくと、理解が進み、課題を達成できると思っております。そして、何よりも重要なことは、コンピュータが変な動作をしたらどうしようと恐れずに、積極的に様々な設定等を試してみることが重要です。そのチャレンジ精神をもってコンピュータと向き合うことにより、徐々にですが、コンピュータを活用できるようになります。

なお、レポートが完成した場合には、レポート評価の視点として、下記の点は重要視されますので、提出前に再度、ご確認ください。

■レポート 評価基準

- ・レポートの基礎として、適切な言葉遣い、表現を活用できている。
- ・レポートの基礎として、自分の主張が明確に伝わってくる。
- ・文章作成ソフトを用いて、読みやすいように書式設定ができている。
- ・文章作成ソフトを用いて、文章内の適切な位置に図表が配置されている。
- ・表計算ソフトを使用して、データ処理をするにあたり適切な数式や関数を用いている。
- ・表計算ソフトを使用して、データをみやすいグラフに処理できている。
- ・表計算ソフトを使用して、グラフ化するにあたり、単位などがわかりやすいように処理できている。
- ・情報モラルとして、他者のデータ等を利用するにあたり、出典、引用・参照文献を明記している。
- ・書籍やインターネット上の情報を参考もしくは引用して書くことは問題ありません。しかし、情報モラルを学ぶことも目的であるため、引用時に出典の明記がなく、盗用・剽窃が発覚したレポートについては、評価をしないので、注意してください。

データ分析とプレゼンテーション技法

科目コード

AB1035



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	岩田 一樹

科目の概要

■科目の内容

本科目では、「データの活用」に主眼をおき、実生活や職場で実践できる「データ分析の基礎」を学びます。そのため、統計学、および、数学的な内容については必要最低限の範囲に留め、その代わりに、「データ分析の設計方法」、「データのクレンジング」、「分析結果の解釈と提示時の留意点」等のより実践的かつ実務的なデータ分析に関係する事柄について学びます。

なお、この科目ではデータ分析および分析結果の提示等に Excel や PowerPoint を使用しますので、Microsoft 社の Office がインストールされているパーソナルコンピュータが必要になります。

【スクーリングで学ぶ内容】

スクーリングでは、データ分析に関する基本的なプロセスを学び、データ分析を演習形式で実際に行います。

【レポート学習で学ぶ内容】

レポート学習では、データ分析における基本的な語句の意味についてとそれらの計算、および、問題とデータが与えられた際のデータ分析のプロセスについて学びます。

■到達目標

本科目では、以下の6点を到達目標とします。

- 1) 「データ分析」の目的を適切に説明できる
- 2) データ分析を実施する上で重要な「問題領域」「評価軸」「要因」について説明でき、それらを立案できる
- 3) データのグラフ化(可視化)を行い、データの概要(特徴等)の把握ができる
- 4) 「代表値」(平均値、中央値、最頻度)の意味と使う場面を説明できる
- 5) データ分析の結果を他者に正しく伝えるためのグラフ化ができる
- 6) PowerPoint を用いてデータ分析および分析結果をプレゼンテーションできる

■教科書

河村真一・日置孝一・野寺 綾・西脇清行・山本華世著『本物のデータ分析力が身に付く本』日経BP社、2016年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

本講義を受講することで、

- ・データの収集・分析のみでなく、データ分析の設計までを包含した「ICT 活用力」
- ・問題設定、評価軸、評価要因の設定、データの分析、結果の解釈・提示を通じた「問題解決能力」
- ・データ分析結果の解釈を通じた「自己コントロール力」
- ・全体を通して、データ分析による「社会貢献力」

を身につけていただけます。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

東京大学教養学部統計教室編『統計学入門』東京大学出版会、1991年

R. Ennos 著『パソコンで簡単！すぐできる生物統計—統計学の考え方から統計ソフト SPSS の使い方まで』羊土社、2007年

柏木吉基著『データ・統計分析が出来る本』日本実業出版社、2013年

玄場公規・湊 宣明・豊田裕貴著『Excel で学ぶ ビジネスデータ分析の基礎』オデッセイコミュニケーションズ、2016年

門脇香菜子著『できる Excel ピボットテーブル データ集計・分析に役立つ本』インプレス、2016年

■事前に学習してほしい科目（任意）

「情報処理の基礎」、または文章作成、表計算の基本的な技術の修得をしていること

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

原則としてスクーリング申込締切日までに、1単位め課題を提出してください。受講者多数で受講定員を超える場合、提出のない方は受講できません。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	データ分析の設計	データ分析の目的、基本的な内容、設計方法について学びます
2	データのクレンジング	実際のデータを用いて「外れ値」、「欠損値」の確認方法、および、データのクレンジングについて学びます
3	データ分析方法の選択	「代表値」と「クロス集計」について、その意味と方法を学びます
4	標準偏差	標準偏差の意味、標準偏差の使い方、標準偏差の計算方法について学びます

回数	テーマ	内容
5	グループ間の差の検証	グループ間の比較を行う際の注意点とその判断方法について学びます
6	分析結果の捉え方	分析結果の解釈、および、表現について学びます
7	プレゼンテーションの作成	分析結果を効果的にプレゼンテーションする方法を学びます
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

スクーリングではパワーポイントによる説明、および、グループワークを行います。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験では、データ分析の設計、および、各用語の意味とその適切な使用方法の理解について問います。(教科書、配布資料、自筆ノート 持ち込み可)

履修者数によっては、スクーリングで実施するデータ分析の報告をもって試験とする場合があります。

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

講義内容で関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

なお、原則としてスクーリング申込締切日までに、1単位め課題を提出してください。

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安：20～25時間)

興味のあるテーマに関するデータについて、自分なりに分析に取り組んでください。その際は可能な限り、考えたこと、行ったことについてノートを取るようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	データ分析の設計①問題領域の決定	学習内容 問題領域の設定について学びます	新しい“問い”に対してデータ分析を行う意味と、その問いに対しての問題領域とは何かを理解してください。
2	データ分析の設計②評価軸と要因	学習内容 1で学んだ問題領域についての評価軸とその評価のための要因について学びます	設定された問題領域に対して、その評価に関することを理解してください。
3	データ分析の設計③分析の概念図の作成	学習内容 1、2で学んだことを併せてデータ分析の概念図の作成について学びます	1、2で学んだことを系統だててまとめ上げるとともに、可視化することの有効性について学んでください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	データクレンジング① 出自と概要の確認	学習内容 データ分析を行うにあたり、データの出自を確認することの重要性を学びます キーワード：可視化	データ分析をする際に、対象のデータの出自を明確にすること、および、分析前にデータの概要を把握しておくことの重要性を理解してください。また、Excelを用いたデータの可視化について修得してください。
5	データクレンジング② 外れ値と欠損の取扱	学習内容 データにおける外れ値と欠損値の取扱について学びます キーワード：外れ値、欠損値、クレンジング	データの外れ値と欠損値とは何かと、それらの扱い方について理解してください。これらの取扱いはクレンジングと呼ばれ、分析結果に大きな影響を与える場合があるので、大変重要なものになります。
6	分析方法の選択①代 表値	学習内容 代表値である平均値、中央値、最頻度について学びます。 キーワード：平均値、中央値、最頻度	それぞれの代表値の意味すること、および、4で学んだデータの概要に対してどの代表値を使用するのが適切なかを理解してください。
7	分析方法の選択②ク ロス集計	学習内容 データ分析にあたりクロス集計を行うことの有効性を学びます キーワード：クロス集計、ピボットテーブル	データ分析において重要な手法であるクロス集計について、その有用性、および、Excelによる実施方法について修得してください。
8	標準偏差①標準偏差 とは何か？	学習内容 標準偏差についてとその算出方法について学びます キーワード：標準偏差、母集団、標本集団	データにおける標準偏差とは何かについて理解し、Excelを用いたその算出方法について理解してください。
9	標準偏差②標準偏差 の利用	学習内容 8で学んだ標準偏差についてその利用方法について学びます	8で修得した標準偏差がどのようにデータ分析に活かされるのかを、可視化されたデータと照らし合わせながら理解してください。
10	グループ間の差の検 証①検証の考え方	学習内容 7で学んだクロス集計に関連して、そのグループが2種類の場合に、そのグループ間の違いをどう検証するかを学びます キーワード：確率、検定	2グループ間の差について客観的な根拠を与えるには確率の概念を用います。ここでは、その考え方について理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	グループ間の差の検証②検証結果と判断	学習内容 10で学んだ検証の考え方を元に、検証の行い方とその結果の解釈の仕方を学びます キーワード：検定	10に続いて、2グループ間の差を検証する具体的な Excel を用いた手法を修得してください。 (なお、3グループ以上間の比較には「分散分析」と呼ばれる手法を用いますが、本科目の範囲を超えています。興味のある方は、参考図書『統計学入門』をご参照ください。)
12	結果の解釈	学習内容 データ分析結果について、その結果の解釈を行う際の注意点について学びます キーワード：確証バイアス	データ分析の結果を解釈・判断するのは人間です。そこには、思い込みなどの結果の解釈・判断を狂わせる可能性のあるものが幾つかあります。判断を狂わせる代表的なものを把握し、適切な判断を下せる確率を上げてください。
13	結果の他者への伝え方	学習内容 データ分析結果について、その結果を提示する際の注意点について学びます キーワード：可視化	データ分析の結果は図表で提示することが多いですが、その際の注意点について学んでください。
14	ケース実習①データ分析の設計	学習内容 1～3までに学んだ内容を基に実際にデータ分析の設計を行います	プロセスは実際に実施して習得することができます。教科書4章に沿って、是非、ご自身で手を動かしてデータ分析を実施してください。
15	ケース実習②データ分析の実施と結果の提示	学習内容 4～13までに学んだ内容を基に、14で設計したデータ分析についてデータ分析を行います	14に引き続き、手を動かしてデータ分析を体験してください。

■レポート課題

1 単位め	データ分析に関する基本的な語句、その意味、その算出について「客観式レポート」の問題を解答してください。																									
2 単位め	<p>あなたは某フードチェーンに勤務していて、新店舗の出店企画を任されました。出店候補地としては「駅前」、「住宅地」、「郊外」の3カ所があり、下記のデータが与えられています。この与えられたデータのみから、あなたなら上記3カ所の「何処」に出店するか決断し、その理由と併せて解答してください。</p> <p>なお、出店を行うことは決定しており「出店を行わない。」という選択肢はありません。また、説明には図表を用いてください。</p> <p>※下記データは、通信教育部ホームページ『レポート課題集C（心理専門編）2019』からエクセル表をダウンロードすることが可能です。ダウンロードできない方は、メールでご相談ください (ur@tfu-mail.tfu.ac.jp)。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>店舗番号</th> <th>立地（1: 駅前、2: 住宅地、3: 郊外）</th> <th>売り上げ（円 / 日）</th> <th>来客数（人 / 日）</th> <th>客単価（円 / 人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3</td> <td>181,056</td> <td>873</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>282,486</td> <td>694</td> <td>407</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>195,752</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>260,198</td> <td>837</td> <td>311</td> </tr> </tbody> </table>	店舗番号	立地（1: 駅前、2: 住宅地、3: 郊外）	売り上げ（円 / 日）	来客数（人 / 日）	客単価（円 / 人）	1	3	181,056	873	207	2	1	282,486	694	407	3	3	195,752			4	1	260,198	837	311
店舗番号	立地（1: 駅前、2: 住宅地、3: 郊外）	売り上げ（円 / 日）	来客数（人 / 日）	客単価（円 / 人）																						
1	3	181,056	873	207																						
2	1	282,486	694	407																						
3	3	195,752																								
4	1	260,198	837	311																						

2 単位め

店舗番号	立地 (1: 駅前、2: 住宅地、3: 郊外)	売り上げ (円 / 日)	来客数 (人 / 日)	客単価 (円 / 人)
5	1	215,480	466	462
6	2	261,165	1,075	243
7	2	209,642	492	426
8	2	268,757	784	343
9	3	276,490	498	555
10	1		931	
11	1	305,940	107	2,859
12	2	277,052	919	301
13	3	202,473	285	710
14	2	195,214	899	217
15	3	230,603	703	328
16	2	276,625	182	1,520
17	2	196,495	512	384
18	3	246,167	421	585
19	2	195,041	612	319
20	3		842	
21	1	294,140	908	324
22	3	191,419	326	587
23	1	295,571	827	357
24	2	252,784	548	461
25	2	205,250	553	371
26	3	208,434	704	296
27	2	229,499	737	311
28	3	187,434	656	286
29	3	216,179	653	331
30	1	293,021	695	422
31	1	273,057	154	1,773
32	2	249,442	392	636
33	3	261,922	927	283
34	3	183,260	305	601
35	2	247,642	902	275
36	1	220,597	231	955
37	1	295,889		
38	1	245,454	305	805
39	1	253,360	978	259
40	2	252,911	934	271
41	3	277,342	468	593
42	3	214,971	688	312
43	2	222,813		
44	3	190,219	674	282
45	3	271,821	870	312
46	3	271,264	1,042	260
47	2	281,536	767	367
48	2	256,585	989	259
49	1	223,302		
50	1	261,001	693	377
51	2	254,378	190	1,339

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

全体

受講生されるみなさんは「データ」と言われると何を思い浮かべるでしょうか？「国勢調査」や「〇〇白書」等の統計調査の結果、「野球の打率や防御率」等の「数字」を思い浮かべるかもしれませんが、「データ」はこれだけではありません。「データ」の身近な具体例を示すと、みなさんの携帯電話や電子メールによるやり取り、みなさんも書かれているかもしれないブログの内容、Twitterの呟き、Facebook等の「SNS」(Social Networking Service)を介してのネットワークコミュニティ等が挙げられます。これらは、先に挙げた「国勢調査」等とは別物のように感じられるかもしれませんが、実は、これらは全て何らかの手法で「数字」に置き換えることが可能なのです。例えば、Twitter上のつぶやきは、使用されている各単語に番号を付けて数値化します。つまり、「データ」とは「数字」で表現される何らかの意味(人に役立つ知識)を包含したもののなのです。

そして、上記で列挙した例をご覧になって、それらの多くがインターネットと深く関連していると思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、それは間違いではありません。そのインターネットの発展によるデータ取得の容易化を背景に、近年、とくに2010年頃から、世界的に「ビッグデータ」と呼ばれる大量データを活用してビジネスや世の中に役立てようという風潮が高まっています。受講生のみなさんも「ビッグデータ」や「IoT」(Internet of Things =もののインターネット)といった語句をご覧になったことがあると思います。

では、本科目の目的でもある「データの活用」とは何なのでしょう？それは、「人の意思決定(新たな“問い”に答えるの)に際して、適切な答えを導き出すのに数字(データ)を活かす」ことに他なりません。そして、その決定に対して数字(データ)から意思決定に役立つ「新しい知識を引き出す」ことこそが「データ分析」なのです。(データから新たな知識を見出すことは「データ・マイニング」と呼ばれることもあります。)

ここで、一点注意すべきことがあります。それは、「データ分析」とは「数字(データ)から意思決定に役立つ新しい知識を引き出す」こと、と述べましたが、引き出された「知識」が正しいかどうかの評価は誰にも出来ないという点です。このことは、純粋無垢な原理から公理を導き完璧な「結果」が存在する数学とは異なり、「データ分析」では「現実世界」を数字に置き換えたものから知識を導くことに起因します。すなわち、現実の世界を数字に置換する際に誤り(誤差)や欠損等を包含してしまう完璧でない「データ」から知識を導く「データ分析」においては、絶対に正しい完璧な結果というものは存在しないということです。そして、その絶対に正しいとは保証されない知識(結果)を用いて行う意思決定も、必然的に、その決定が絶対に正しいということはありません。このような理由から「データ分析」および「意思決定」は導かれた「結果」での評価ができないために、これらの「正しさ」は「結果」そのものではなく、その「結果」を導いた「プロセス」によって評価されることとなります。その具体的なプロセスとは「データ分析の設計」、「データの事前チェック」、「分析方法の選択」、「分析結果の評価・解釈」、「分析結果の表現」です。したがって、正しい「データ分析」を行うためにはこのプロセスを習得すれば良いこととなります。

さて、みなさんは、これから(もしくは、もうすでにお仕事等で)「データ、すなわち、数字を扱って、“問い”に対して適切な答えを導き出す(意思決定する)」機会に遭遇することとなります。具体例としては、

- ・どの科目を履修すべきか？

- ・ 期末テストを来週に控え、何を勉強すべきか？
- ・ 実施したイベントはいくらの効果があったのか？
- ・ 施設内で増加しつつある事故を最も低減可能な方策は何か？
- ・ 新商品の分配はどうするか？

など枚挙に暇がありません。みなさんはこれらの問に対して、どのようなプロセスで「データ」から「答え」を見出し、その「答え」を他者に伝えればよいかイメージが出来るでしょうか？このような能力は「問題解決力」の一部として、扱う「データ」量が増加の一途をたどる今日において重要なものと認識されており、その基礎を修得しておくことは自らの付加価値を生み出すものと考えます。

本科目は、受講なさる方々が数字（データ）を扱うことで、これから遭遇する新たな“問い”に対して「適切な答え」（意思決定）を見出し、それを他者に伝える「プロセス」を修得して頂くことを目的にしています。そのために、「データ分析」に用いられる語句や指標の意味や算出を正確に理解する（1単位目）、「データ分析」のプロセスに慣れる（2単位目）を設定しています。

なお、数字を扱うにあたって、数学に自信のない方もいらっしゃると思いますが、本科目ではデータ分析のプロセスを重視しますので、統計については必要最小限度（平均、中央値、最頻度、標準偏差、t検定 程度）の知識しか用いません。しかも、それらの計算はExcelを用いることで解決しますので、ほぼ心配はいりません。（ただし、得られた計算結果の意味は理解していただく必要はあります）

1 単位め アドバイス

教科書や参考図書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

この課題は、データ分析の基本的なプロセスが身についているかを測るものです。
既に、「決めるべきこと」、および、「データ」は問題で与えられているので、あなたが決定すべきことは「評価軸」とその「要因」になります。そして、それを決めたら、欠損処理 等のデータの前処理（クレンジング）を行ってデータ分析を行い、結果を解釈してください。その上で、それらから導かれたあなたの判断を説明してください。

なお、解答する際は教科書をよく読み込んで、それ記載されたプロセスを意識して行うようにしてください。

科目修了試験

■実施方法

会場試験は実施しません。大学からメールで送信された問題に、期限までに自宅で解答し、メールで提出する方法で実施します。

■申込・解答方法

- ① レポート課題（2 課題）にすべて合格する（提出ではなく合格が条件です）。
- ② ur@tfu-mail.tfu.ac.jp（2 単位めレポートの送信先アドレス）へ、下記事項を記載して科目修了

試験申込を行う（申込みは随時受付します）。

【件名】「データ分析とプレゼンテーション技法」科目修了試験申込

【本文】学籍番号・氏名・科目修了試験受験を希望する旨を記載

③申込みをしたメールアドレスに、大学から試験問題が送信される。

④期限までに解答し、上記③の試験問題送信メールに返信する形で提出（解答期限は試験問題送信後、約2週間）。

■評価基準

科目修了試験では、データ分析におけるプロセスを一通り問います。

与えられた問題に対して、以下の観点から評価します。

1. 分析の概念設定（作業仮説設定）に関する問いでは「何を決めるのか」「何で評価するのか」「評価に寄与する要因は何か」を①互いに矛盾なく決定できているか、②それぞれを設定した理由を他者に説明できているか、の観点から評価します
2. 分析に関する問いでは1.に基づいて、①収集したデータの適切さ、②分析方法の適切さ、③分析結果、の観点から評価します
なお、収集したデータについてはその出自を必ず記載してください
3. 分析結果の解釈・提示に関する問いでは、2.で得られた結果をそれぞれ適切に①図表化できているか、②解釈できているか、の観点から評価します
4. あなたの意思決定に関する問では、3.を基に決定したあなたの決定について①3.の解釈と整合しているか、②論理的な説明がなされているか、の観点から評価します

なお、データ分析とそれを基にした意思決定において、決定には絶対の「答え」はありません。あるのは、その決定に説得力があるか（適切なプロセスを踏んでいるか）なので、それを意識して解答してください。

情報処理 I		～2017	科目コード	AB1332
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (実習)	1 年以上	岩田 一樹	



※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載の「卒業までに身につけてほしい力」との関連「科目評価基準」以外の項目は、『レポート課題集2017B』p.26～34をご覧ください（新規履修登録はできません）。

※これから履修登録される場合は、p.31「情報処理の基礎」(科目コード：AB1034、2単位、履修方法：SR)、またはp.36「データ分析とプレゼンテーション技法」(科目コード：AB1035、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※この科目は2019年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2019年度まで可能です。

※スクーリングの開講予定はありません。

2014～2015年度にかけて社会福祉学科・福祉心理学科の学生に対して、「共通基礎科目」扱いの科目となりました。

Microsoft Office2013（もしくは2016or2010）がインストールされたWindowsパソコンが必要となります。課題はメールによる提出となります。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「ICT活用力」「問題解決力」「分析する力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

統計情報を見る眼

科目コード AB1146・
DA3146



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	平川 昌宏

※この科目は、2018年度より科目区分が変更されました。履修登録年度によって科目コードと科目区分が異なります。

2017年度以前履修登録者→科目コード：DA3146、科目区分：専門選択科目（B群）

2018年度以降履修登録者→科目コード：AB1146、科目区分：共通基礎科目

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2019年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。

本科目では、1) 統計情報の種類やそれらの特徴について理解すること、2) それらを利用し解釈する際の留意点や統計的な思考法について学んでいくこと、3) 手元のデータを一般化する方法について学んでいくことの3点を目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。

なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。しかし、本科目では、統計値の算出の仕方やその数式の理解ではなく、その統計値の意味やその統計値を解釈し利用する際の留意点について理解を深めることに重点を置きます。

■到達目標

- 1) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。
- 2) データのばらつきを理解することの重要性について説明できる。
- 3) 相関について、相関関係を様々な観点から解釈することができる。
- 4) 統計的検定の思考法について説明できる。

5) 示された統計情報やそこでなされている主張に対して、統計的な思考法に基づきながら批判的に検討できる。

■教科書

神林博史・三輪哲著『社会調査のための統計学－生きた実例で理解する－』技術評論社、2011年
(最近の教科書変更時期) 2018年4月
(スクーリング時の教科書) スクーリングでは資料を配付します。上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに、「根拠に基づく情報発信力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%+スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

- 1) 青木繁信著『統計数字を読み解くセンス』化学同人、2009年
- 2) 飯田泰之著『考える技術としての統計学 生活・ビジネス・投資に生かす』日本放送出版協会、2007年
- 3) 大村 平著『統計のはなし(改訂版)』日科技連、2002年
- 4) 小島寛之著『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社、2006年
- 5) ジョエル・ベスト著、林大訳『統計はこうしてウソをつくーだまされないための統計学入門』白揚社、2002年
- 6) 高橋信著『マンガでわかる統計学』オーム社、2004年
- 7) 谷岡一郎著『データはウソをつく』筑摩書房、2007年
- 8) ダレル・ハフ著、高木秀玄訳『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス、1968年
- 9) 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1999年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングは大きくは3つの内容から成り立っています。まず1つ目が「1つの変数の特徴を記述し、理解するための方法」についてです。ここでは、①変数を視覚化(グラフ化)し、その全体的な特徴を理解することの重要性、②代表値と散布度で変数を記述することの重要性等について学びを深めてください。2つ目が「2つの変数の関係を理解し、変数間の関係を解釈する方法」についてです。ここでは、特に相関係数について、さらに、変数間の関係を解釈する際の留意点と多様な解釈の視点について学びを深めてください。そして、3つ目が「データの一般化」についてです。ここでは、特に統計的検定の考え方と手順について学びを深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	統計情報の有効性とその落とし穴	統計詐欺の3つのパターンを理解する。
2	1つの変数の特徴を記述する①	度数分布表による変数の特徴の把握。代表値によるデータの記述について学ぶ。
3	1つの変数の特徴を記述する②	データのばらつきを理解の重要性と散布度について学ぶ。
4	2つの変数の関係を記述する	相関関係と相関係数について学ぶ。
5	2つの変数の関係を解釈する	相関関係の多様な解釈について学ぶ。
6	データの世界から一般の世界へ	推測統計とサンプリングの重要性について学ぶ。
7	統計的検定	統計的検定の考え方、進め方について学ぶ。
8	まとめ	まとめとして、統計的思考の特徴について学ぶ。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

空欄穴埋め式の配付資料にそって、パワーポイントを提示しながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。(持込可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

皆さんの身の回りの統計情報について意識して目を向けるようにしておいてください。そして、スクーリングを受講した後で、その統計情報についての見方に変化があったかどうかを確かめていただきたいと思います。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	データと変数	「量的変数」と「質的変数」の違いについて学ぶ。	教科書第1章。変数の種類として「量的変数」と「質的変数」について理解してください。そして、身近な統計情報の中から「量的変数」と「質的変数」の具体例を幾つか挙げることで、理解を確認し、深めるようにしてください。
2	変数の特徴を分析しよう① 変数の分布とその視覚化(グラフ)	変数の特徴を理解する方法として「度数分布」とその視覚化(グラフ化)について学ぶ。	教科書第2章2-1～2-3。「度数分布」の理解が、変数理解の第1歩となります。また様々なグラフ(「ヒストグラム」など)の種類と(グラフで表現したいこと)との対応関係について、書籍や広告、インターネットで用いられるグラフを見直しながら、理解を深めるようにしてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	変数の特徴を分析しよう② 変数の中心を理解する	量的変数の数値的な要約として「代表値」について学ぶ。	教科書第2章2-4・2-5。「代表値」として用いられる「平均」「中央値」「最頻値」がそれぞれどのような値なのかを整理してください。また、最も頻繁に用いられる「平均」について、その使用や解釈の際の留意点について説明できるように学びを深めてください。
4	変数の特徴を分析しよう③ 変数のばらつき	変数のばらつきを示す数値として「散布度」(特に「分散」と「標準偏差」)について学ぶ。	教科書第3章。特に、「分散」と「標準偏差」について、これらがどのような値なのかについて整理してください。また、データのばらつきを理解することの重要性について説明できるように理解を深めてください。
5	変数の特徴を分析しよう④ 標準偏差の応用	標準偏差の応用の1つとして「標準化」について学ぶ。	データを「標準化」することの意義とその方法について整理してください。さらには、テストの結果を点数ではなく「偏差値」で表すことの意味について説明できるように、学びを深めていってください。
6	変数の関係を分析しよう① クロス集計表	質的変数間の関係について理解する方法として、「クロス集計表」とその図示(グラフ化)について学ぶ。	教科書第4章(特に4-1~4-4)。「クロス集計表」について理解すると同時に、度数そのものではなく比率で分布を比べることの重要性について説明できるように学びを深めてください。
7	変数の関係を分析しよう② 平均値の比較と相関分析	質的変数と量的変数の関係、量的変数同士の関係について理解する方法について学ぶ。「相関係数」の特徴について学ぶ。	教科書第5章。特に、量的変数同士の関係について理解する方法(「散布図」による視覚化と「相関係数」による要約)について説明できるように学びを進めてください。加えて、相関係数から2つの量的変数の関係についてどのような情報を読み取ることができるのか説明できるように学びを進めてください。
8	変数の関係をより深く考えよう① 見かけ上の関連	「因果関係」を解釈する際の基準、および、実際には因果関係はないが、統計上関係がみられる事象(「見かけ上の相関」・「擬似相関」)について学ぶ。	教科書の第6章6-1、6-2、第7章の7-5の1。教科書の内容、そして、関連書籍やインターネットを参考に「擬似相関」の具体例をいくつか考えてください。なお、第8章では見かけ上の関連を考慮した統計分析の方法が紹介されています。難しい内容ですが、興味のある方は一読してみてください。
9	変数の関係をより深く考えよう② 媒介変数	原因と結果をつなぐものとして、「媒介変数」について学ぶ。	教科書の第6章6-3、第7章7-5の2。教科書の内容、そして、関連書籍やインターネットを参考に「媒介変数」の具体例をいくつか考えてください。
10	変数の関係をより深く考えよう③ 交互作用効果	3つ以上の変数が組み合わさることで生じる複雑な因果関係の事象として「交互作用効果」について学ぶ。	教科書の第7章7-5の3.p.144の図7-5に「いろいろな交互作用のパターン」が図示されています。関連書籍やインターネットを参考に、これらのパターンに当てはまりそうな具体例を考えてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	母集団と標本(サンプル)	「母集団」と「標本(サンプル)」の関係について学ぶ。また、「標本抽出(サンプリング)」の留意点について学ぶ。	教科書第9章。以降の学習において「母集団」と「標本(サンプル)」、および、その関係を理解することは大切になります。また、「9-2 誤った標本の危険性」を読み、「標本抽出(サンプリング)」の際の留意点について学びを深めてください。
12	部分から全体を知る① 推測統計とは	「記述統計」と「推測統計」のちがいについて学ぶ。また、「標準正規分布」について学び、「区間推定」の理論的背景を理解する。	教科書第10章。この回より学習の内容がさらに難しくなります。「推測統計」について、さらには、「区間推定」や「標準正規分布」について学び、推測統計の基本的な考え方について学びを進めてください。
13	部分から全体を知る② 統計的検定とは	「統計的検定」とは何か、また、「帰無仮説」と「対立仮説」について学ぶ。	教科書第11章11-1、11-2。「統計的検定」とは何か、さらには、その重要性について学びを進めてください。また、実際に統計的検定を行う上で重要となる「帰無仮説」「対立仮説」について説明できるよう学びを進めてください。
14	部分から全体を知る③ 統計的検定の手順	帰無仮説を棄却できるかどうかを確率的に判断する統計的検定の手順について学ぶ。	教科書第11章11-3、11-4、11-5。統計的検定の回りくどい手順について整理してください。また、「統計的に有意」とは何を意味するのかについて学びを深めてください。
15	部分から全体を知る④ 統計的検定の実際	幾つかの検定法について、その基本を学ぶ。	第12章・第13章。これらの章では「カイ2乗検定」「t検定」「分散分析」という3つの検定法が紹介されています。細かな数式までは理解しなくて良いので、各検定法の特徴、各検定法をどのようなときに用いるのかについて整理してください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	<p>以下の3つの設題から1題を選び、論じなさい</p> <p>設題1 変数の中心を示す統計量として代表値があります。代表値について次の問いに解答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 代表値として用いられる統計量として「平均」「中央値」「最頻値」があります。それぞれの値について説明し、性質の違いについて論じてください。 ii) 平均の使用・解釈の留意点について具体例を挙げて説明してください。その際、「外れ値」という用語を必ず用いること。 <p>設題2 2つの量的変数の関係を述べる際に相関という言葉が用いられます。相関について次の問いに解答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 「正の相関関係」「負の相関関係」について具体例を挙げて説明してください。さらに相関係数の特徴について述べてください。 ii) 相関関係を解釈する際の留意点の1つとして「擬似相関」について具体例を挙げて説明してください。 <p>設題3 サンプリング(標本抽出)について次の問いに解答してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 統計学においてサンプリング(標本抽出)とはどのような手続きのことか、「母集団」と「標本(サンプル)」という言葉の説明し、論じてください。 ii) 標本抽出(サンプリング)の際の留意点について具体例を挙げながら説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。



必ず3つの設題の中からどれか1つを選び、論述してってください。また、論述においては i) と ii) どちらも論じるようにしてください。

〈設題1について〉

「在宅学習15のポイント」の第3回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。まず、i) について取り組む中で、代表値として「平均」以外に「中央値」「最頻値」があること、それぞれが異なった性質を持ち、異なった観点から変数の中心を示してくれることについて理解を深めてください。

3つの統計値の中で、「平均」は最も使用頻度が高く私たちにとって非常になじみ深い統計値です。それゆえに、その特徴や留意点を理解した上でつきあっていく必要があると考えられます。ii) に取り組む中でこの点について理解を深めてもらえればと思います。具体例については、実際に「外れ値」が存在しており平均が変数の中心とは考えられない統計情報を挙げるか、自身で架空のデータを示し「外れ値」の有無によって平均の値が大きく変わることを説明するようにしてください。なお、以前スクリーニングで「外れ値」について説明を行った際に、「私のボーナスの金額が報道されていた日本全体のボーナスの平均金額より低いことが納得できた」と感想に書いてくださった学生さんがいらっしゃいました。このような身近な事柄を具体例として挙げてくださっても構いません。

〈設題2について〉

「在宅学習15のポイント」の第7回目・8回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。i) については、まず、「正の相関関係」「負の相関関係」について説明してください。具体例については「勉強時間の長さ」とテストの成績(「正の相関関係」の例：勉強時間が長ければテストの成績が良くなる)「鉛筆で書く字の数」と鉛筆の長さ(「負の相関関係」の例：書けば書くほど鉛筆は短くなる)などのように、「正の相関関係」や「負の相関関係」が成り立ちそうな事象を考え述べるようにしてください。さらに、相関係数についてはその算出の仕方や「共分散」について述べる必要はありません。相関係数から2つの量的変数の関係についてどのような情報を読み取ることができるのかという点について主に論じてください。

相関関係とは2つの変数に統計上関連があることを示すものであり、その関連が実質的に何を意味するかについては様々な観点から検討・解釈していく必要があります。ii) に取り組む中でこの点について理解を深めてもらえればと思います。擬似相関の具体例については、参考図書やインターネット等から探し論じるようにしてください。また、「ナマズが暴れると地震が起こる」のような民間伝承を具体例として挙げてくださっても構いません。

〈設題3について〉

「在宅学習15のポイント」の第11回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。教科書のp.165に「母集団から標本を選ぶ方法が適切であること」と強調して書かれています。しかし、実際の調査においては標本を選ぶ方法やデータの偏りについて十分な検討がなされないまま、誤った主張がなされていることが少なくありません。レポート課題に取り組む中でその危険性について理解を深めると同時に、統計情報を理解、解釈する際に、標本抽出（サンプリング）の適切性やデータの偏りについて検討する視点を確かにしてもらえればと思います。具体例については、参考図書やインターネット等から選択バイアスの具体例を探し、論じるようにしてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験は論述式の試験を行います。「在宅学習の15のポイント」で「 」で書かれている専門用語、さらには、教科書の章の冒頭にあげられている「第〇章のポイント」についての理解を問う問題を出題します。

福祉と経済		~2017	科目コード	AH1003
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	1 年以上	小松 洋吉	



※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。本科目の内容は『レポート課題集2018』p.51～56をご覧ください（新規履修登録はできません）。

※この科目は2019年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2019年度まで可能です。

※スクーリングの開講予定はありません。

法の基礎			科目コード	AH1036
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	菅原 好秀	



※2018年度に単位数が変更された科目です。これから「法の基礎」を履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「法の基礎（日本国憲法を含む）」を履修登録した方は、p.58「法の基礎（日本国憲法を含む）」(科目コード：AH1007、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2019年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ確かな判断能力が必要です。その確かな判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。本科目では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得し、ひとりひとりの幸せづくりに貢献できる社会福祉の人材の養成を目的とします。

■到達目標

- 1) 日本国憲法の制度趣旨について説明することができる。
- 2) 成年後見制度について解説できる。
- 3) 民法の全体像について説明することができる。
- 4) 法の解釈について説明することができる。
- 5) 判例をあげて、基本的人権を説明することができる。

■教科書

志田民吉編著『福祉ライブラリ 福祉法学』建帛社、2018年

(最近の教科書変更時期) 2018年4月

(スクーリング時の教科書) 上記の教科書を使用します。2017年度以前に配本された『法学 改訂』を所持している場合も受講に支障がないように当日資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション

力」「他者配慮表現力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

- 1) 渡辺信英編『行政法の基礎』南窓社、2010年
- 2) 渡辺信英編『福祉社会の家族法 親族編』南窓社、2008年
- 3) 渡辺信英編『介護事故裁判例から学ぶ福祉リスクマネジメント—高齢者施設編』南窓社、2006年
- 4) 渡辺信英著『更生保護制度』南窓社、2011年
- 5) 志田民吉編著『社会福祉サービスと法』建帛社、2005年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ的確な判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。

講義では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得するために、日本国憲法の中核である「個人の尊重」の視点から判例の事例を踏まえて具体的に学んでいきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	日本国憲法の基本原理	個人の尊重の意義について
2	基本的人権	社会権の意義について
3	統治機構の課題	国会・内閣・裁判所について
4	地方自治	住民自治・団体自治について
5	民法の基本原理	私的自治の原則について
6	総則	意思表示・代理について
7	物権・債権	物権・債権の種類と内容について
8	成年後見制度の概要	成年後見制度の制度趣旨について
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』、南窓社などで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	日本国憲法の基本原理	日本国憲法第13条の「個人の尊重」について学びます。	個人の存在価値と何か、また、個人の差異はなぜ必要なのかについて考えてみましょう。
2	基本的人権	社会権の制度趣旨と判例を中心に法の解釈について学びます。	朝日訴訟と堀木訴訟の事案の概要を踏まえて判旨の内容を理解することが重要です。
3	統治機構	国会・内閣・裁判所と三権分立について学びます。	立法・行政・司法の各機関の相互関係を三権分立の視点から理解することが重要です。
4	地方自治	地方自治の制度趣旨について学びます。	地方自治の制度趣旨である住民自治・団体自治を踏まえて、地方自治の現状と課題について理解することが重要です。
5	民法の基本原則	民法の全体像について学びます。	民法の総則・物権・債権・親族・相続において、相互の関係性について理解することが重要です。
6	総則	民法の意思表示を中心に学びます。	心裡留保、虚偽表示、錯誤について理解することが重要です。
7	物権	民法の物権の種類と内容について学びます。	物権の種類について具体的事例を挙げて説明できることが重要です。
8	債権	民法の債権の種類と内容について学びます。	債権の種類について具体的事例を挙げて説明できることが重要です。
9	成年後見制度の概要	成年後見制度の概要について学びます。	後見・保佐・補助の各事例について説明できることが重要です。
10	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現状と課題について学びます。	成年後見制度の現状と課題を踏まえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
11	更生保護制度	更生保護制度の制度概要について学びます。	更生保護制度の制度概要、各制度趣旨について具体的に説明できることが重要です。
12	保護観察制度	保護観察制度の制度概要について学びます。	保護観察制度の制度趣旨、各内容について具体的に説明できることが重要です。
13	保護観察制度の現状と課題	保護観察制度の現状と課題について学びます。	保護観察制度の現状と課題について今後求められる対応策について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	医療観察制度	医療観察制度の制度概要について学びます。	医療観察制度の成立背景、制度趣旨について具体的に説明できることが重要です。
15	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現状と課題について学びます。	医療観察制度の現状と課題について今後求められる対応策について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	日本国憲法の基本的人権について論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。



基本的人権の制度趣旨と各人権の分類を示しながら、社会権を中心に言及してください。また、社会権で問題となった裁判事例について、判例の内容を踏まえて自説を展開してください。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となる。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点から述べられていることも評価の対象となる。

法の基礎 (日本国憲法を含む)		～2017	科目コード	AH1007・ AH1030
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	1年以上	菅原 好秀	



※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載の「■講義内容」「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.54「法の基礎」(科目コード：AH1036、2単位)を参照してください。

※これから「法の基礎」を履修登録される場合は、p.54「法の基礎」(科目コード：AH1036、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※2017年度以前入学者で、4単位での受講を希望する場合は、履修登録用紙の右下の空欄に記入してください(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません(次回開講は2020年度)。

※オンデマンド・スクーリングは2019年度開講予定です。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です。

※2019年度のオンデマンド・スクーリング受講までスクーリング単位2単位(12コマ)ですが、2020年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ：予定)に変更となります。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	日本国憲法の基本原理	個人の尊重の意義について
2	基本的人権	社会権の意義について
3	統治機構の課題	国会・内閣・裁判所について
4	地方自治	住民自治・団体自治について
5	民法の基本原則	私的自治の原則について
6	総則	意思表示・代理について
7	物権・債権	物権・債権の種類と内容について
8	成年後見制度の概要	成年後見制度の制度趣旨について
9	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
10	更生保護制度の概要	更生保護制度の制度趣旨について
11	更生保護制度の現状と課題	更生保護制度の現実的な問題点について
12	まとめ	
13	スクーリング試験	

レポート学習

■レポート課題

1 単位め	日本国憲法の基本的人権について論じてください。
2 単位め	成年後見制度を説明した上で、医療行為の同意権の課題についてあなたの考えを述べよ。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

*提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。ただし、『レポート課題集2017』記載の4単位めの論述式課題に合格した方は、2単位めの課題は『レポート課題集2017』の課題で提出してください。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス



基本的人権の制度趣旨と各人権の分類を示しながら、社会権を中心に言及してください。また、社会権で問題となった裁判事例について、判例の内容を踏まえて自説を展開してください。



成年後見制度の「後見」「保佐」「補助」の各制度趣旨、内容を示してください。また、成年後見制度における「医療行為の同意権」の課題（成年後見人には医療行為に同意する権限がない）についてあなたの考えを述べてください。



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

教育の歴史と思想			科目コード	AH1037
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	寺下 明	



※2018年度に科目名「人間と教育」から単位数が変更された科目です。これから履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「人間と教育」を履修登録した方は、p.65「人間と教育」(科目コード：AH1017、4単
位、履修方法：RorSR)を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

今日、大規模な教育改革が行われています。「大学入試センター試験の廃止」をはじめ、「高等学校における大幅な科目編成」や「小学校における英語の教科化」、さらには知識の再生型授業から「アクティブ・ラーニングへの転換」など、教育は戦後最大の転換期にあるといわれています。グローバル化の中で、これからの我が国や世界でどのような産業構造が形成され、どのような社会が実現されていくのか、先行きは不透明です。今日の教育をめぐる問題は、私たちの生き方を問い、未来の社会を決定づける問題です。教育のこれからのビジョンを得るには、その十分な歴史的な理解なくしてはあり得ません。それゆえ、本講義では、教育の目的や思想を歴史的・社会的文脈において検討します。特に近代公教育を生み出した西洋近代社会と近代教育を根本から捉え直すことを通して、教育あるいは人間とは何かについて問い直そうとするものです。その答えは、教育の実践を根底において支えてくれるでしょう。

■到達目標

- 1) 教育についての関心を深め、今後の学びのための基礎知識を説明することができる。
- 2) 教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について説明できる。
- 3) 生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について論じることができる。

■教科書

寺下明著『教育原理 第2版』ミネルヴァ書房、2013年(最新版でなくても可)

(最近の教科書変更時期) 2013年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を

身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

テキスト章末記載の文献を参照してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

教育の今日的課題を視野に入れながら、人間にとってなぜ教育は必要なのか、人間の成長・発達を生涯学習の視点から深く学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	日本の子ども観と子育て	日本の子ども観と子育てについて学ぶ。
2	宗教と教育	教育の背景にある宗教と文化について考える。
3	日本の近代化と教育	日本の近代化に果たした教育の役割について。
4	江戸時代の教育遺産	藩校・寺子屋・私塾の果たした役割を考える。
5	日本の戦後教育	戦後教育の理念と目的を学校教育を中心に学ぶ。
6	学習指導要領の変遷と教育	戦後の教育を学習指導要領の変遷を通して学ぶ。
7	現代教育の課題	現代日本が抱える教育の目的と課題について考える。
8	教育改革の動向	教育改革の課題について検討する。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に進める。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%によって評価する。

講義を基礎とした学習が進められ、学習課題が達成できたかどうかの評価の基準となる。試験課題に対する解答は、自分の意見や考察を加えることは歓迎するが、テーマをふまえた客観的な考察が前提である。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の特に1章、3章、4章、5章を中心に目を通しておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	教育とは何か (1章)	教育とは何かについて学ぶ。 キーワード：伝達、就巢性、可塑性、生理的早産、社会化、狼に育てられた子	教育とは何かについて、人間は「教育的存在」であるという視点から考えてみるのが重要。
2	人間の成長・発達 (2章)	人間の成長の特徴を遺伝と環境の問題を踏まえて考える。 キーワード：タブラ・ラサ説、環境閾値説、三歳児神話	子どもの成長と発達の特徴を、とくに文化的環境や教育との関連で考えてみる。
3	脳科学からみた発達 (2章)	脳科学の成果から、教育の問題について考えてみる。 キーワード：アタッチメント、社会脳、利己的な遺伝子、文化化	社会脳説を中心に、人間は文化環境によってつくられるのかを検討してみたい。
4	子ども観と子育て①西欧の子ども観 (3章)	西欧の子ども観の変遷をたどる。 キーワード：小さな大人、精神白紙説、近代家族、子どもの誕生	歴史の中で、さまざまな子ども観をたどることによって、子どもと大人の関係について考えてみる。
5	②日本の子ども観 (3章)	日本の子ども観と子育てについて学ぶ。 キーワード：子宝思想、母性原理社会、甘え、恥の文化、七歳までは神のうち	子ども観と子育てのあり方を欧米と比較しながら、日本社会の基本構造と教育の特質を明らかにしたい。
6	教育の目的①古代・中世の教育目的 (4章)	教育の理想ないし目的が、時代や社会とともに変化し、国家や社会の事情によって異なることを概観する。 キーワード：ソフィスト、イデア、ロゴス、自由七科	古代の教育目的の根底にどのような子ども観や人間観があるのかを考えてみたい。
7	②ルネッサンス期・近代の教育 (4章)	ルネッサンスおよび近代の教育の特徴について学ぶ。 キーワード：人文主義教育、公教育、新教育	近代においてさまざまな教育改革が行われたが、その背景にあるルソーやペスタロッチ、コンドルセ、デューイの教育理論についても理解しておきたい。
8	③日本の近代教育 (4章)	日本の近代における教育の目的を理解する。 キーワード：学制、教育勅語、大正自由教育	「富国強兵」を国家の目標に掲げた近代日本の義務教育の制度はどのような教育観であったのか考察を加えたい。
9	④日本の戦後教育 (4章)	戦後教育の教育理念について理解する。 キーワード：アメリカ教育使節団、教育基本法	教育の目的は何か、何のための教育かを問うことは、教育によって実現される価値や意義を追求し、教育の本質を明らかにすることにもなる。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	日本の近代化と教育①江戸時代の教育遺産 (5章)	日本が近代化に成功した要因として、近代以前における教育の普及と充実を理解しておきたい。 キーワード：寺子屋、藩校、私塾	江戸時代にはさまざまな教育の場があり、豊かな教育活動が行われていた。その中でも、庶民の教育機関であった寺子屋について、その現代的意義を学んでおきたい。
11	②儒教の伝統 (5章)	儒教が近代化の原動力になったのかを検証する。 キーワード：儒教文化圏、社会倫理	儒教をはじめ江戸時代のバラエティーに富んだ教育が、日本の近代化に貢献したことを考察したい。
12	③立身出世と学校 (5章)	学問や教育が立身出世につながるということが、以後の日本の社会の基本信念となり、学校信仰を生み出していくことを学ぶ。 キーワード：札幌農学校、科举、学歴社会、近代公教育	日本における学校の優越性は、お上の学校の性格としてだけでなく、民衆の側から見て、実利的効用という点で、学校はその価値を認められるようになったことを理解したい。
13	現代教育に問われているもの①戦後教育 (6章)	戦後教育の流れを学習指導要領の変遷を通して学ぶ。 キーワード：スプートニク・ショック、落ちこぼれ、不登校、いじめ、学級崩壊	学習指導要領改訂の変遷をたどりながら、現代社会の縮図としての学校教育の問題点を検討する。
14	②生涯学習と教育改革 (6章)	これからの教育をどのように構想していけばよいのかを探求する。 キーワード：学習社会、自己実現、ラーニング・トゥー・ビー	さまざまな学校教育の改革を生涯学習体系のなかに位置づけて展望したい。
15	③学校教育の課題 (6章)	学校教育の抱える課題について考える。 キーワード：ハイパー・メリトクラシー、隠れたカリキュラム	学校教育の課題については、教育は理想社会をめざして、現実を自ら作り変えられるような人間を育成するところに求められているという視点から考えてみたい。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。(20問)
2 単位め	子どもの発達における「素質と環境」の問題について、考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め
アドバイス

子どもの発達をめぐる問題は、諸科学の研究成果をもとにした人間としての「事実」に立脚することが重要です。そして、さらに重要なことは、人間は歴史的・社会的環境をもち、「意味」のある世界に生きているということです。したがって、発達をめぐる問題は、事実としての人間と、価値に関わる社会や文化の領域（広い意味での環境）を包含せざるを得ないのです。こうした視点から、子どもの発達の特徴を教育との関連で考察してください。テキスト2章を参考にしてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 問題の意図を正しく理解し、問題にそって論理的に解答がなされている
 - 2) 自分なりの視点をもって、問題に取り組んでいる
 - 3) 専門用語の意味などについて、正確に理解している
- などを基準に評価する。

人間と教育		～2017	科目コード	AH1017・ AH1025
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	1 年以上	寺下 明	



※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.60「教育の歴史と思想」(科目コード：AH1037、2単位)を参照してください。

※これから「人間と教育」を履修登録される場合は、p.60「教育の歴史と思想」(科目コード：AH1037、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※2017年度以前入学者で、4単位での受講を希望する場合は、履修登録用紙の右下の空欄に記入してください(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です。

※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更となります。

※科目コード AH1017 2018年度までのスクーリング受講者(スクーリング単位2単位)
AH1000 上記以外の方(スクーリング単位1単位)

レポート学習

■レポート課題

1 単位め	人間は「教育的存在」であることを踏まえて、「教育」について定義しなさい。
2 単位め	子どもの発達における「素質と環境」の問題について、考えを述べなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。(20問)
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。(20問)

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題の3・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス



教育とは何かについて、カントの「人間は教育されねばならない唯一の被造物である」という言葉の意味を考慮して、まとめてください。テキスト1章を参考にしてください。

2 単位め
アドバイス

子どもの発達をめぐる問題は、諸科学の研究成果をもとにした人間としての「事実」に立脚することが重要です。そして、さらに重要なことは、人間は歴史的・社会的環境をもち、「意味」のある世界に生きているということです。したがって、発達をめぐる問題は、事実としての人間と、価値に関わる社会や文化の領域（広い意味での環境）を包含せざるを得ないのです。こうした視点から、子どもの発達の特徴を教育との関連で考察してください。テキスト2章を参考にしてください。

3・4 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

政治学の基礎			~2017	科目コード	AH1026
単位数	履修方法	配当年次	担当教員		
2	R or SR	1年以上	長谷川 雄一		

※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載の「卒業までに身につけてほしい力」との関連「科目評価基準」以外の項目は、『レポート課題集2017B』p.47～54をご覧ください（新規履修登録はできません）。

※この科目は2019年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2019年度まで可能です。

※スクーリングの開講予定はありません。

※2018年度より担当教員が変更になりましたが、教科書・レポート課題等に変更はありません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋科目修了試験50%

人権と福祉			科目コード	AH1049
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S (講義)	1 年以上	田中 治和	



■スクーリングで学んでほしいこと

人権や福祉という言葉（用語）は、比較的世の中で語られ、聞かされ、その大切さは、多くの人々が認めるところです。特に福祉系学部・学科では、人権は重要なキーワードであり、社会福祉実践の根源には、《人権》があり、人権の具体的な形態の一つに《福祉》があるといえましょう。

そこで、このスクーリングでは、《人権と福祉》という枠組みで、社会福祉学を学ぶ方々—社会福祉専門職を目指すか否かを一切問わず、社会福祉の本質を考究する入口・手掛かりとして、人権と福祉的諸課題（要介護・“しょうがい”・貧困）とを関連しながら講義します。また併せて、それへの感想等について、受講者がゆっくりと考え、話し合える場となればと考えております。

■到達目標

- 1) 人権と福祉の基本的事項について説明できる。
- 2) 社会福祉実践と社会福祉学研究的の根源的課題の基本的枠組みが説明できる。
- 3) 社会福祉学をより深く学びたいと思う。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	人権と福祉の言葉（用語）の整理	世界人権宣言等の概説、並びに福祉と社会福祉の概念整理する。
2	要介護の課題からの考察	高齢者の要介護の文献を講読し、介護する根拠と意味についての文献を講読します。
3	同上	上記の内容について、少人数で話し合います。
4	“しょうがい”の課題からの考察	“しょうがい”の言葉を吟味し、人間の在り方についての文献を講読します。
5	同上	上記の内容について、少人数で話し合います。
6	貧困の課題からの考察	路上生活者の事例から貧困概念を再吟味し、自立に関する文献を講読します。
7	同上	上記の内容について、少人数で話し合います。
8	まとめ	人間のいのち、及び生きる意味から、人間と福祉を問いかけることの大切さを考察します。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義内容に書きましたように、配付された文献を講読しながら進めます。また少人数（5～6人）のグループで話し合います。

■スクーリング 評価基準

試験100%です。試験に、自筆ノート、配付資料等一切持ち込み可とします。

■スクーリング時の教科書

教科書は使用しません。スクーリング時に資料を配布します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

ご自分なりの人権と福祉についての考えをまとめておいてください。（スクーリング時に、担当教員から受講者に対して「どう考えていますか…」等の個別的な問いかけはしません。）

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

スクーリング時に、文献紹介をしますので、良かったら読んでみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■参考図書

スクーリング時に、適宜紹介します。

社会福祉学入門

科目コード

AH1050



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R or SR(講義)	1年以上	三浦 剛

※本科目は、2016年度より「社会福祉の基礎」(専門選択科目)から「社会福祉学入門」(共通基礎科目)に科目名および科目区分を変更いたしました(2016年度以降の履修登録者は共通基礎科目(科目コードAH1050)となります)。

※「社会福祉の基礎」(科目コードDA2050)を2015年度までに履修登録済みの方へ
2016年4月に、科目コードAH1050「社会福祉学入門」に変更されています。専門選択科目として履修している方は、科目コードDA2050のままです。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて理解する。
現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について理解する。
社会福祉の専門性について、いくつかの枠組みを通して理解する。

■到達目標

- 1) 社会福祉の概念が説明できる。
- 2) 現代社会における社会福祉制度の役割とその概要を説明できる。
- 3) ソーシャルワーク(社会福祉実践)の枠組みが説明できる。
- 4) ソーシャルワークの過程、技術、実践をイメージし、具体的に説明できる。

■教科書

村川浩一・上野谷加代子監修『社会福祉基礎』実教出版、2014年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を用いますので、持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価 or 科目修了試験70%

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて講義します。
- 2) 現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について講義します。
- 3) 社会福祉の専門性について、いくつかの枠組みを通して講義します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史を学ぶ。
2	社会福祉の理念	社会福祉の理念を理解する。
3	社会福祉の概念	社会保障、社会福祉の概念を理解する。
4	生活と福祉	現代日本社会の福祉的課題について知る。
5	社会福祉制度	福祉的課題とそれに対応する制度を知る。
6	ソーシャルワークの枠組み	ソーシャルワークの枠組みを理解する。
7	ソーシャルワークの実際	ソーシャルワーク実践の実際を知る。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（自筆ノート、プリントのみ持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書『社会福祉基礎』は事前に読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 8のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会福祉の歴史 (p.36～48)	社会福祉の歴史を学ぶ。 キーワード：貧困、社会病理	社会の問題であることを理解する。
2	社会福祉の理念 (p.18～29)	社会福祉の理念を理解する。 キーワード：ノーマライゼーション、自立、ソーシャル・インクルージョン	史的展開と関連づけて理解する。
3	社会福祉の概念 (p.72～77、p.146～157)	社会保障、社会福祉の概念を理解する。 キーワード：社会保険、公的扶助、公衆衛生	社会保障制度の各領域との比較で理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	生活と福祉 (p.50～65、p.8～17)	現代日本社会の福祉的課題について知る。 キーワード：少子高齢化、生活の変化、地域の変化	統計データをもとに理解する。
5	社会福祉制度 (p.78～145)	福祉的課題とそれに対応する制度を知る。 キーワード：貧困、生活困窮、虐待、障がい、要介護	社会福祉制度を必要とする実態を理解し、制度に関する基礎的な知識を得る。
6	ソーシャルワークの枠組み (p.166～193)	ソーシャルワークの枠組みを理解する。 キーワード：生態学的視点、ミクロからマクロへの連続	視点、モデル、アプローチを意識して整理する。
7	ソーシャルワークの実際 (p.194～215)	ソーシャルワーク実践の実際を知る。 キーワード：ソーシャルワークの専門性、価値・知識・技術	どのような価値に基づいて、どのような技術がどのような過程でおこなわれるかを、現実との関連を高めながら理解する。
8	まとめ	ソーシャルワークの概念、枠組み、過程、技術について、自分のことばで説明する。	事例も学んで、実践を具体的にイメージできるようにする。

■レポート課題

1 単位め 『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

- ・社会福祉の歴史概念、ソーシャルワークの専門性の理解がポイントです。
- ・記述の分量は1,000字以上。

歴史を読み解く			科目コード	AJ1038
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1 年以上	下山 忍	



科目の概要

■科目の内容

歴史とは、過去から現在にいたる人間の活動の総体である。別の表現をすれば、現在、私たちが暮らしている世の中はどのようにしてできたのか、ということを読み解き明かそうとする試みである。過去と現在を結び付け、それによって現在と未来の人間の在り方を考えるのが、歴史を学ぶ意義であろう。そのための手がかりが「史料」である。史料は、過去の歴史を明らかにする時には欠かせない材料であり、あらゆる歴史の記述は史料に基づいて書かれている。本講座では、テキストに掲載された史料(口語訳)を丹念に読み、そこから歴史的意義や時代の背景・動向を汲み取ることで、歴史を学ぶ面白さを感じ取ってもらいたい。

【スクーリングで学ぶ内容】

1 邪馬台国、3 遣隋使の派遣、5 国分寺建立の詔、6 大仏造立の詔、11 北条泰時書状、15 惣掟、16 山城国一揆、19 太閤検地、20 刀狩令、23 バテレン追放令、24 鎖国令、28 海国兵談、29 異国船打払令を中心に学ぶ。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

2 大化改新、9 院政の開始、10 平家物語、18 楽市令、22 武家諸法度、23 禁中並公家諸法度、25 百姓に対する生活統制、27 身分社会への批判、33 王政復古の大号令、34 五箇条の誓文、36 学事奨励に関する太政官布告、37 民撰議院設立の建白、38 大日本帝国憲法、44 日本国憲法、46 日米相互協力及び安全保障条約を中心に学ぶ。

■到達目標

- 1) 基本史料を丹念に読みこむことができる。
- 2) 基本史料の背景や歴史的意義を知り、その史料を歴史の流れの中でとらえることができる。
- 3) 教科書等に記された歴史の根拠を考える姿勢を身に付ける。
- 4) 日本の歴史に興味関心を高め、自ら調べようとする姿勢を身に付ける。

■教科書

下山 忍・會田康範編『もういちど読む 山川日本史史料』山川出版社、2017年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。また、参考図書に挙げた『歴史資料館 日本史のライブラリー』東京法令出版、2017年も参照してもらおうことが多いので、なるべくご持参ください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

- ・笹山晴生・佐藤信・五味文彦・高埜利彦著『詳説日本史』山川出版社（高等学校日本史B教科書）
- ・東京法令出版教育出版部編集『歴史資料館 日本史のライブラリー』東京法令出版、2017年
- ・教科書の「もっと知りたい人のための参考文献」に挙げられた図書

■履修上の留意事項

- ・基礎的な日本史の知識を前提とした講義を行うので、高等学校で日本史を履修していることが望ましい。
- ・そうでない場合は、参考図書に挙げた『詳説日本史』(山川出版社) や『歴史資料館 日本史のライブラリー』(東京法令出版) などを活用して自学自習を進めてもらいたい。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	日本文化のあけぼのと大陸との交流	時代区分論から始め、日本の縄文文化・弥生文化の特徴と代表的な遺跡について概観する。「邪馬台国」の史料を読み、日本列島の政治的統合について考える。
2	古代国家の歩みと東アジア世界	「遣隋使の派遣」の史料を読み、当時の日中関係を踏まえてその意義を考える。また、「大仏建立の詔」の史料を読み、古代国家について考える。
3	武家政治のはじまり	中世の開始である院政から、平氏政権・鎌倉幕府について概観するとともに、「北条泰時書状」の史料を読み、鎌倉幕府の政治について考える。
4	中世民衆の成長	「惣掟」の史料から室町時代の村はどのようなことを定めていたのか、「山城国一揆」の史料からどのような自治がおこなわれたのかを考える。
5	近世への胎動ー太閤検地と刀狩ー	「太閤検地」や「刀狩」の史料を読み、それらの政策が江戸時代につながる近世社会を準備したことについて考える。
6	「鎖国」下の外交	「バテレン追放令」や「鎖国令」の史料を読むとともに、近世の「四つの口」における対外交流を概観することで「鎖国」下の外交について考える。
7	欧米列強の接近と近代への序曲	欧米列強の接近について概観し、「海国兵談」や「異国船打払令」の史料からその時代を考えるとともに、近代の萌芽について考える。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

- ・教科書は必ず使用します。
- ・参考図書もお持ちの方はご持参ください。特に『歴史資料館 日本史のライブラリー』東京法令出版、2017年は参照していただくことが多いです。
- ・配付資料をもとに板書しながら進めます。
- ・受講者に考えてもらう時間を設けます。

■スクーリング 評価基準

- ・教科書とノートは持込可。
- ・基本史料がよみとれるか。
- ・基本史料から背景や歴史的意義を知り、その史料を歴史の流れの中でとらえることができる

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：10～15時間）

- ・教科書の1 邪馬台国、3 遣隋使の派遣、5 国分寺建立の詔、6 大仏造立、11 北条泰時書状、15 惣掟、16 山城国一揆、19 太閤検地、20 刀狩令、21 バテレン追放令、24 鎖国令、28 海国兵談、29 異国船打払令は、必ず読んで来てください。
- ・上記を読んでよく分からなかった点については、参考図書に挙げた『詳説日本史』（山川出版社）や『歴史資料館 日本史のライブラリー』（東京法令出版）などを活用して調べてください。
- ・そのほか、講義内容に関連して、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：15～20時間）

- ・スクーリングで扱った史料のうち、最も興味をもったものについて、教科書に挙げられている「もっと知りたい人のための参考文献」から1冊以上を選んで読んでください。
- ・スクーリングで扱わなかった教科書の項目についても、全て読んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	大化改新の詔	大化改新の詔は出されたのか	646年に出されたという大化改新の詔にはどんなことが書かれているのだろうか。また、その信憑性が疑われているのはなぜか。出されていないかとなると、詔にはどんな歴史的意義があるのだろうか。
2	院政の開始	上皇（法皇）による政治はどのようなものだったのか	1086年、白河上皇によって始まった院政であるが、その権力の源泉は何だったのか。そして、それを支えた院の近臣とはどのような人たちだったのか。また、院政から中世とされる理由は何だろうか。
3	平家物語	平氏の繁栄はどのように描かれているのか	1167年に武士として初めて太政大臣となった平清盛。その平氏政権の経済的基盤は何だったのか。日宋貿易によって繁栄していたこと様子は「平家物語」にどう描かれているのか。そして、清盛死後の平氏はどうなったのか。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	楽市令	織田信長の楽市令はどのような都市政策か	織田信長は1577年に安土に楽市令を出しているが、ここにはどんなことが書かれているのだろうか。それ以前の流通経済の仕組みを踏まえ、その歴史的な意義は何だったのか。
5	武家諸法度	幕府は大名をどのように統制したのか	1615年、徳川秀忠は武家諸法度（元和令）を發布した。大名がこれに違反するとどうなったのか。また、武家諸法度は将軍の代替わりごとに出されたが、家光の寛永令、綱吉の天和令に特徴はあったのか。
6	禁中並公家諸法度	江戸時代の朝幕関係はどのようなものであったか	1615年に出された禁中並公家諸法度は、江戸幕府が天皇や公家に統制を加えるものだった。どんなことが書かれているのだろうか。また、紫衣事件、尊号一件とはどのような事件だったのか。
7	百姓に対する生活統制	幕府が百姓統制を重視したのはなぜか	江戸幕府は百姓の生活を統制し、安定させるためにどのような方法をとったのか。1642年の農村法令、1643年の田畑永代売買禁止令にはどんなことが書いてあるのか。
8	身分社会への批判	安藤昌益はどのような思想家だったのか	江戸時代は身分制度の厳しい時代であったが、18世紀後半になると民間知識人からこれを批判する意見も生まれてきた。その先駆者とも言える安藤昌益とはどんな人でその思想はどのようなものだったのか。
9	王政復古の大号令	王政復古が行われたのはなぜか	薩長両藩を中心とする討幕派は、1867年に王政復古の大号令を発した。それが企てられたのはなぜか。また、どのように進められたのか。
10	五箇条の誓文	明治政府はどのような国づくりをしようとしたか	戊辰戦争が続いていた1868年に、明治政府は五箇条の誓文を発して基本方針を示した。どんなことが書かれており、どのような経緯で成立したのか。また、国民に直接示された五榜の掲示はどんなものだったのか。
11	学事奨励に関する太政官布告―被仰出書	教育の目的は何だったか	1872年、学制に先立って発布された学事奨励に関する太政官布告には、明治政府の教育に関する方針が示されている。どのような教育をしようとしたのだろうか。また、実際にはどのように進んでいったのだろうか。
12	民撰議院設立の建白	自由民権運動はどのように始まったか	1874年に提出された民撰議院設立建白書は、自由民権運動の口火となった。運動はどう始まり、政府はどう対応したのであるうか。
13	大日本帝国憲法	どのような憲法が制定されたのか	1889年に大日本帝国憲法が発布され、日本はアジア初の本格的な立憲国家となった。憲法はどのように作られ、どのような特色を持っていたのだろうか。
14	日本国憲法	憲法はどのように改正されたのか	1946年に公布された日本国憲法は、GHQ草案に基づいている。成立までの経緯はどのようなものだったのか。また、1条と9条の関係はどのようにになっているのか。
15	日米相互協力及び安全保障条約	安保条約はどのようなものになったのか	1951年のサンフランシスコ平和条約で独立を回復した日本は、同日に日米安全保障条約を締結した。岸信介内閣は1960年にこれを改定して日米関係をより対等なものにすることをめざした。どこが変わったのか。そして、これに反対する安保闘争とはどんなものだったのか。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	<p>次のA～Cから1つを選び、2,000字程度でまとめなさい。</p> <p>A 平氏政権とはどのような性格を持っていたのか。武士の性格、貴族的性格という観点を踏まえて述べよ。</p> <p>B 五箇条の誓文と五榜の掲示から、明治政府の方針について述べよ。</p> <p>C 日本国憲法を制定するにあたり、GHQと日本政府の間にはどのような考え方の違いがあったのか。また、それはどのように決着したのかを述べよ。</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。



課題の意味をよく理解し、教科書をよく読んでまとめてください。その際、教科書に挙げられた史料を用いた説明を心がけてください。必要に応じて参考図書に挙げた『詳説日本史』(山川出版社)や『歴史資料館 日本史のライブラリー』(東京法令出版)などで補ってください。

■レポート 評価基準

- ・ 課題にそった解答がなされているか (課題に正対しているか)。
- ・ 論理的に分かりやすく書かれているか。
- ・ 誤字脱字がないか。
- ・ 文章の主語・述語が対応しているか。
- ・ 専門用語の意味などを正確に使用しているか。
- ・ 自分なりの視点や考え方を示しているか。

科目修了試験

■評価基準

2大化改新、9院政の開始、10平家物語、18楽市令、22武家諸法度、23禁中並公家諸法度、25百姓に対する生活統制、27身分社会への批判、33王政復古の号令、34五箇条の誓文、36学事奨励に関する太政官布告、37民撰議院設立の建白、38大日本帝国憲法、44日本国憲法、46日米相互協力及び安全保障条約の範囲から、論述式の問題を出します。

生命の科学			科目コード	AK1039
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	渡部 芳彦	



※2018年度に単位数が変更された科目です。これから「生命の科学」を履修登録される場合は、本科目を参照してください。

※2017年度以前に「生命の科学」を履修登録した方は、p.84「生命の科学」(科目コード：AK1005・AK1042、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません(次回開講は2020年度)。

科目の概要

■科目の内容

科学の発達により、生物、特にヒトの生命に対する理解は著しく進歩しており、その仕組みや現象の背景が解明されています。そして、そのような知識は、医療はもとより対人関係や福祉の改善、環境も含めた社会問題の解決などを通じて人類全体に還元されています。生命の科学ではヒトの生命活動を支える仕組みについて、その一つ一つの機能的要素を確認しながら、生命の全体像に迫るように意識して学んでいきます。さらに、それらの理解に基づき、自己や社会集団の健康づくり、他者との関係性の向上、社会や環境の改善への働きかけなどについて考究することを通して、現代の諸課題に向き合う素養を得ることを目指します。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

ヒトの生命を支える基本的な生理機能を学び、その知識に基づき健康の実現や、より良い人間社会のあり方を考究します。

【スクーリングで学ぶ内容】

教科書の内容に加えて、関連するニュース記事や映像資料などを提示して理解を深めます。

■到達目標

- 1) ヒトの生命を支える基本的な生理機能と、その成長発達・加齢に伴う変化について説明できる。
- 2) 感染症や生活習慣病などの病態や原因の概要を説明できる。
- 3) 脳の基本構造とその機能について説明できる。
- 4) 生命を良好に維持するための仕組み(免疫系の働きやストレス反応など)について説明できる。
- 5) 1)～4)の知識に基づき、より良い人間社会を構築するための方策を提案することができる。

■教科書

阿部一彦編著 阿部昌子・渡部芳彦著『生命の科学(新訂版)』東北福祉大学、2015年(新訂版でなくても可)
(最近の教科書変更時期) 2015年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

佐藤達夫監修『新版からだの地図帳』講談社、2013年

そのほか新聞や科学雑誌なども参考にしてください。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	生物の理解、ヒトの誕生と成長	生命とは何か、生命史、受精から始まるヒト個体の誕生などについて学ぶ。
2	ヒトの生命を支える分業システム	ヒトの身体機能について系統別に学ぶ。
3	脳神経系	脳の構造と機能について学ぶ。
4	こころの健康・からだの健康	過剰ストレスの影響や生活習慣病の発症と予防について学ぶ。
5	遺伝情報	遺伝子の構造とその働きを理解し、遺伝子工学の可能性と課題について学ぶ。
6	生体防御機構	免疫系の仕組みと感染症予防について学ぶ。
7	豊かな人生を目指して	加齢現象を学ぶとともに、廃用症候群、口腔の状態と全身疾患と関連などについて理解を深める。
8	まとめ、質疑応答	一連の講義を振り返り、まとめと質疑応答を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書の解説に加えて、関連するニュース記事や映像資料などを提示しながら進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50%で評価します。

スクーリング中に学んだ内容を中心に出题します。また、それに加えて本科目の学びに基づいて考えた、個々の認識する健康課題や社会課題とその解決について論述していただきます。(持込不可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：5～10時間)

教科書(1～8章、10章)を事前に読み、あらかじめ疑問点を明確にして講義に臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書とスクーリング時の配付資料を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	生命の科学への招待 (序章) 生命とは、生物とは (1章)	生命全体に共通な性質についての理解を進めるとともに、生命の多様性について考える基本的姿勢について学ぶ。 キーワード：生命の起源、人類の誕生、生命の共通性、生命の多様性 など	ヒトに関する生物学という視点で今後の学びの概要について考えてみましょう。共通性と多様性という視点から生命の本質について学ぶことは、今後の学習にとって重要です。
2	ヒトの誕生と成長 (2章)	出生と同時に、新生児の体内ではどのようなことが起こっているのかを理解する。また、母子の健康を傷害するものにはどのようなものがあるのかを理解する。 キーワード：受精、精子、卵子、着床、胎盤、臍帯、卵円孔、ボタロー管、乳幼児突然死症候群、人工授精、体外受精、高齢出産 など	誕生と成長について考えてみましょう。とくに誕生時の新生児の体の変化については驚くばかりです。未熟なうちに誕生するからこそ養育が大切なのですね。
3	ヒトの生命を支える分業システム①消化器系と呼吸器系 (3章)	生命現象は単純な分業システムに支えられている。ヒトは他の生物を食事として取り入れ、酸素と反応させて生命活動を維持している。食物を取り入れ分解して吸収する消化器系、酸素を取り入れる呼吸器系について学ぶ。 キーワード：代謝、栄養、ホメオスタシス、生化学反応、酸素 など	一つ一つの分業システムの協調と協力のもとに生命現象が成立していることについて理解を進め、生命現象について総合的に考える姿勢を身につけましょう。
4	ヒトの生命を支える分業システム②循環器系、泌尿器系、骨・筋系など (3章)	栄養素や酸素を運搬する循環器系、老廃物の処理にあたる泌尿器系について総合的に理解する。また、筋肉の収縮によって骨が移動することによって身体運動が行われるという、身体運動の基本について学ぶ。 キーワード：冠状動脈、心臓、骨、骨格筋、筋収縮機構、アクチンフィラメント、ミオシンフィラメント、ATP、嫌気代謝、好気代謝 など	体を構成する器官、系統の生理的機能を理解することは、病気やその治療・予防を考える上での基礎となります。
5	脳・神経系①情報処理過程の基本的理解 (4章)	神経の基本的性質ならびに脳機能について理解する。外部環境の情報を取り入れて、大脳で処理し、その処理に基づいて指令を発生して生命活動を行っている過程について学ぶ。 キーワード：視覚、聴覚、シナプス、神経伝達物質、脳機能の局在、大脳皮質、連合野、運動野、体知覚野 など	外部の様々な情報を取り入れ、それらの情報を統合処理し、それに基づく指令を出すメカニズムを理解しましょう。一つ一つ、素朴な疑問を解決することにより、複雑であると考えられる、脳・神経系について全体的な理解を進めることができます。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	脳・神経系② 原始的情動・ 記憶・言語中 枢、内臓の調 節など (4章)	原始的情動の調節機構や記憶のしくみ、言語中枢について学ぶ。さらに、生命維持の基本となる自律神経系や内分泌系の調節について学ぶ。 キーワード：記憶、言語中枢、大脳基底核、小脳、交差支配の原則、脊髄神経、血液脳関門、血糖値、視床下部、交感神経、副交感神経 など	快・不快や怒りや喜びなどの原始的情動はどこでコントロールされるのでしょうか。どのようにして記憶が行われているのでしょうか。また、言語はどのようにしてコントロールされるのか等について学ぶことは、人間に対する理解を深める原動力になります。
7	豊かな食生活をめざして (5章)	食物摂取の基本的知識となる栄養学的な理解、血糖の調節機構、口腔ケアなど多角的に食生活についての理解を深める。さらに口腔ケアに関連して誤嚥性肺炎について理解する。 キーワード：食生活、咀嚼、消化と吸収、エネルギー代謝、恒常性、糖尿病、血糖値、インスリン、グルカゴン、口腔ケア、誤嚥性肺炎 など	豊かな食生活のための科学的な根拠を理解することは、生きがいの持てる生活を営むためにも大切なことです。また、日常の生活をイメージして考えることは学びを深める動機になります。
8	こころの健康・からだの健康①過剰ストレスについて (6章)	心と身体は別々のものではなく、相互に関連するものであることを学ぶ。慢性的過剰ストレスなどの心の問題が身体的症状をもたらす機構について理解するとともに、ストレスの解消法について考える。 キーワード：心身二元論、ストレス、過剰適応、不適応、心身症、大脳辺縁系、視床下部、交感神経、副交感神経、自律神経 など	ストレス障害は誰にでも起こる可能性があります。一つ一つの現象や背景の理解を積み重ねることにより全体理解が進みます。そして関心を持って学ぶことがより良い問題解決をもたらす可能性にもつながります。
9	こころの健康・からだの健康②生活習慣病について (6章)	がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の発症のメカニズムについて理解を深める。あわせて、いかにして自分の健康を自ら守るのかについて考える。 キーワード：生活習慣、がん、ピロリ菌、虚血性心疾患、動脈硬化、脳血管疾患、脳卒中、糖尿病、メタボリックシンドローム、廃用症候群、生活不活発病など	生活習慣を改めることは、意外と困難です。しかし、生活習慣病の実態と恐ろしさ、発病の機構について理解が深まると、その予防を行う動機が高まります。
10	遺伝情報発現のしくみと遺伝子操作①タンパク質合成過程 (7章)	遺伝子DNAの複製、mRNAへの転写、塩基の三つ組み暗号にしたがった翻訳の過程について学び、タンパク質を合成する過程である遺伝情報発現の基本的なしくみについて理解する。 キーワード：遺伝情報発現、二重らせん構造、遺伝子、塩基配列、DNA、mRNA、アミノ酸、複製、転写、翻訳、イントロン、RNAポリメラーゼ、プロモーターなど	一見複雑と思われる遺伝情報の発現のしくみも、やはり、きわめて単純なメカニズムの積み重ねによって構成されているのです。一つ一つの理解の積み重ねが大切です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	遺伝情報発現のしくみと遺伝子操作②遺伝子操作などの理解 (7章)	<p>遺伝子操作や遺伝子診断のしくみについて基本的な理解を進める。また、これらの技術が私たちの生活にどのように影響を与えるのかについて考える。</p> <p>キーワード：染色体、減数分裂、ダウン症候群、遺伝子操作、制限酵素、DNAリガーゼ、組換え技術、プラスミド、遺伝子診断、遺伝子疾患、出生前診断など</p>	<p>遺伝情報発現のしくみが単純なメカニズムの積み重ねだからこそ様々な応用技術が開発されています。先端技術の概要理解とともに、それらの技術が社会に及ぼす影響についても考える姿勢を身につけましょう。</p>
12	生体防御機構と感染症対策①免疫の理解 (8章)	<p>液性免疫、細胞性免疫の基本について理解し、生体防御機構について学びを深める。また、生体防御反応が過剰に起こるとどのような障害としてあらわれるのかを理解する。</p> <p>キーワード：一般的抵抗力、免疫、マクロファージ、樹状細胞、Tリンパ球、Bリンパ球、液性免疫、細胞性免疫、インターフェロン、アレルギー反応、自己免疫疾患 など</p>	<p>複雑と考えられる免疫の機構も液性免疫と細胞性免疫にわけて考えると理解が進みます。一つ一つの理解の積み重ねが大切です。</p>
13	生体防御機構と感染症対策②感染症の理解 (8章)	<p>生活環境の変化や抗生物質の乱用などから新たな感染症が問題になっている。エイズをはじめ、様々な感染症についての感染経路などを学び、予防について考える。</p> <p>キーワード：エイズ、後天性免疫不全症候群、ヒト免疫不全ウイルス、新興感染症、再興感染症、抗生物質、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、バンコマイシン耐性腸球菌、エボラ出血熱、ウイルス性肝炎、結核など</p>	<p>様々な感染症について理解することは、健康生活を維持するためにも大切なことです。身近な問題として理解し、感染症防止に努めたいものです。</p>
14	加齢による心身の変化 (10章)	<p>人間の多様性と心理的变化について、加齢（老化）との関係性から学び、豊かな生活をめざす人間のさまざまな活動について理解を進める。</p> <p>キーワード：老化、歯周病、パーキンソン病、脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、廃用症候群 など</p>	<p>老化は誰もが避けられない問題です。しかし、私たちがこれまで蓄積してきた科学的な根拠を持ってこれらの問題に対処することで、さまざまな問題を克服したり、あるいはそれを受容して生きていくことができるようになります。</p>
15	医療と倫理 (11章)	<p>インフォームド・コンセントについて考え、医師と患者が対等な協力関係のもとに治療に参加することの重要性を理解する。また、脳死後臓器移植について考える。</p> <p>キーワード：インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオン、患者の権利、臓器移植、死体臓器移植、脳死臓器移植、生体臓器移植、心臓死、脳死、臓器提供意思表示カード、遷延性意識障害、植物状態 など</p>	<p>医療が進歩し、それらの応用をはかるにしたがい、医療と倫理に関するさまざまな問題が生じる可能性が常につきまといまいます。生命を大切に、よりよく生きるためには、私たち自身が主体的にそして積極的に、生命、生活、人生について考えていく必要があります。</p>

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	次に示す (A) と (B) の 2 つの課題について論じなさい。 (A) ヒトの体の仕組みに関する教科書内容の理解に基づき、自分のこれまでの経験の中から、その現象を説明して論じなさい。 (B) 近年のニュースなどから現代社会の課題を 1 つ取り上げ、その課題について本科目の教科書の内容を引用して考察するとともに、改善策を論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。



(A)病気、怪我、出産、育児、看護、介護、救命、加齢など、私たちが人生を歩む上では、様々な出来事や困難な課題に直面します。また、課題ではなくてもそのような問題を考える際に、生命に関する科学的知識が役立つことが多々あります。そこで、そのような個人的な経験の中からテーマを一つ設定し、その現象を生命科学に基づいて論述してください。レポートを書く上では、引用を明確に示すことと、序論・本論・結論などあらかじめ構成を決めて論理立てて書くことを心がけてください。

(B)現代社会において、事故や事件、環境問題、社会問題など、個人の努力だけでは容易に解決できない事柄もたくさんあります。そのような課題の中から 1 つを取り上げ、その改善策を論述してください。その際、本科目の教科書の内容を引用することを必須とします。レポートを書く上では、引用を明確に示すことと、序論・本論・結論などあらかじめ構成を決めて論理立てて書くことを心がけてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験にあたっては、教科書の内容をよく読んで臨んでください。中途半端で曖昧な知識は、それを他者に伝える過程で間違っ受けて止められる可能性が高くなります（現代社会には情報があふれ、容易に入手することができますが、同時に、誤認や誤解も広がりやすい傾向があります）。知識を確かなものとして科目修了試験に臨んでください。

生命の科学		～2017	科目コード	AK1005・AK1042
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR(講義)	1年以上	渡部 芳彦	



※2017年度より担当教員が変更になりましたが、レポート課題等に変更はありません。

※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.78「生命の科学」(科目コード：AK1039、2単位)を参照してください。

※これから「生命の科学」を履修登録される場合は、p.78「生命の科学」(科目コード：AK1039、2単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※2017年度以前入学者で、4単位での受講を希望する場合は、履修登録用紙の右下の空欄に記入してください(履修登録は2021年11月20日まで可能)。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です。

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません(次回開講は2020年度)。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位(8コマ)に変更されました。

※科目コード AK1005 2016年までのスクーリング受講者(スクーリング単位2単位)

AK1042 上記以外の方(スクーリング単位1単位)

レポート学習

■レポート課題

1 単位め	次に示す4つの課題の中から2題を選択して論じなさい。 a) 誕生時におけるヒト新生児の身体機能の変化 b) 神経系の情報伝達の仕組みと、脳における機能局在 c) 筋収縮の機構とそのエネルギー代謝 d) ヒトの免疫系の仕組みと後天性免疫不全症候群
2 単位め	次に示す(A)と(B)の2つの課題について論じなさい。 (A) ヒトの体の仕組みに関する教科書内容の理解に基づき、自分のこれまでの経験の中から、その現象を説明して論じなさい。 (B) 近年のニュースなどから現代社会の課題を1つ取り上げ、その課題について本科目の教科書の内容を引用して考察するとともに、改善策を論じなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度以前履修登録者) 2018年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

それぞれに対応する章をよく読んで理解した上で、自分なりに整理してレポートを書いてください。教科書以外にも参考文献を使用して、その出典を記載することが大切です。

- a) 特に循環器、呼吸器の変化について言及してください。さらに、その変化に伴う疾患や現象（たとえば心臓の先天性疾患や新生児黄疸の発現）などについて説明できれば評価が高くなります。
- b) 感覚情報はニューロンやシナプスにおいてどのように伝達されるかについて言及した上で、脳における感覚や運動を司る部位、連合野の働きなどについて説明してください。
- c) 神経終末における筋収縮発現のシグナルから、筋が収縮するまでの機構を説明してください。また、その際のエネルギー代謝について説明してください。
- d) 液性免疫と細胞性免疫の機序と、HIV 感染により惹起される免疫不全症状について感染経路や病態などを含めて説明してください。

2 単位め
アドバイス

(A) 病気、怪我、出産、育児、看護、介護、救命、加齢など、私たちが人生を歩む上では、様々な出来事や困難な課題に直面します。また、課題ではなくてもそのような問題を考える際に、生命に関する科学的知識が役立つことが多々あります。そこで、そのような個人的な経験の中からテーマを一つ設定し、その現象を生命科学に基づいて論述してください。レポートを書く上では、引用を明確に示すことと、序論・本論・結論などあらかじめ構成を決めて論理立てて書くことを心がけてください。

(B) 現代社会において、事故や事件、環境問題、社会問題など、個人の努力だけでは容易に解決できない事柄もたくさんあります。そのような課題の中から1つを取り上げ、その改善策を論述してください。その際、本科目の教科書の内容を引用することを必須とします。レポートを書く上では、引用を明確に示すことと、序論・本論・結論などあらかじめ構成を決めて論理立てて書くことを心がけてください。

3・4 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

健康科学

~2017

科目コード

AK1016



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R	1年以上	水野 康

※すでに本科目を履修登録している方が対象の科目です。下記記載の「卒業までに身につけてほしい力」との関連「科目評価基準」以外の項目は、『レポート課題集2017B』p.65～69をご覧ください（新規履修登録はできません）。

※この科目は2019年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2019年度まで可能です。

※2016年度より担当教員が変更になっています。レポート課題の1単位めが2017年度より変更されました。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50% + 科目修了試験50%

睡眠改善学			科目コード	AK1040
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1年以上	水野 康	



科目の概要

■科目の内容

日本人の睡眠は、世界でも最短、かつ不眠など睡眠に問題を抱える人口の存在も世界有数であることが、いくつかの報告から示されている。睡眠は、誰もが経験し、その人なりに何らかの感覚・経験を有する事象である。また、性、年代、職種等の様々な集団において特有の睡眠問題が存在することも指摘されている。睡眠は必要不可欠であると同時に、より快適な気持ちの良い睡眠を求める欲求もあるため、睡眠に関する様々な情報・商業活動などが展開されている。一方、科学的な根拠に基づいた睡眠に関する教育・知識啓蒙は十分とはいえ、間違った認識から睡眠が不十分となり、健康被害・ヒューマンエラーなどに至るケースも懸念される。本科目では、一晩の睡眠構造や睡眠調節の仕組み、睡眠に影響する要因などに関する知識を元に、より良い睡眠を得るための日常生活での工夫について学ぶ。スクーリングにおいては、受講生自身の睡眠評価、受講生他の生活状況に基づいた、より具体的な事例についても学習を進める。

■到達目標

- 1) 睡眠ポリグラム、睡眠ポリグラムから判定される睡眠段階、および一晩の睡眠構築の説明ができる。
- 2) 生体リズムを調節する要因を上げることができ、これら要因に関する快適睡眠のための留意点を説明できる。
- 3) 睡眠に影響する日中の環境・行動要因を上げることができ、これら要因に関する快適睡眠のための留意点を説明できる。
- 4) 温湿度、騒音、光などの睡眠環境と睡眠の関連を説明でき、これらに関する快適睡眠のための留意点を説明できる。
- 5) 発育・発達および加齢に伴う睡眠の変化を説明でき、それぞれの年代における睡眠問題・留意点を説明できる。

■教科書

堀 忠雄・白川修一郎監修、日本睡眠改善協議会編『基礎講座 睡眠改善学（第2版）』ゆまに書房、2019年（第2版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2019年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を基本とし、追加の情報も含めてパワーポイントで講義をします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価70%+スクーリング評価 or 科目修了試験30%

■参考図書

堀 忠雄・白川修一郎・福田一彦監修、日本睡眠改善協議会編、『応用講座 睡眠改善学』ゆまに書房、2013年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	イントロダクション	睡眠の自己評価と快眠法のミニマムエッセンス
2	睡眠についての基本的知識①	睡眠段階と一晩の睡眠構造
3	睡眠についての基本的知識②	発育・発達および加齢による睡眠の変化
4	睡眠についての基本的知識③	生体リズムの調節要因
5	睡眠についての基本的知識④	日中や就寝前の行動・環境と睡眠
6	睡眠についての基本的知識⑤	寝室の環境と睡眠
7	睡眠と健康	不十分な睡眠がもたらす健康被害
8	まとめと質疑応答	睡眠障害、および質疑応答
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントを中心に、教科書を参照しながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

実例を対象とした睡眠の評価、および改善を図るための基本的知識を問う内容の論述問題となります。(教科書・ノート参照可)

■スクーリング事前学習 (学習時間の目安：10時間)

教科書に一通り目を通し、不明な点・質問の有無をチェックしておいてください。

■スクーリング事後学習 (学習時間の目安：22時間)

教科書に再度目を通し、不明な点・質問事項の確認結果を含め、学んだ内容の再確認をしてください。これらの作業を踏まえてレポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	睡眠改善学とは (教科書第1章)	睡眠の定義、意義、役割	やや難解かもしれませんが、第1～12章の学習後に再度、見直してください。
2	睡眠中の生命現象① (教科書第2章)	睡眠ポリグラフと睡眠段階	睡眠ポリグラム、判定される睡眠段階の種類と特徴、一晩の睡眠経過について理解してください。
3	睡眠中の生命現象② (教科書第2章)	睡眠中の生理的現象	睡眠中の体温、心拍、呼吸、内分泌応答などの特徴を学んでください。
4	睡眠中の心理的現象 (教科書第3章)	睡眠中の心理的現象	夢、寝入りばなの心理体験、眠った感覚などについて学びます。
5	睡眠と生体リズム (教科書第4章)	生体リズムの仕組みと調節	睡眠・覚醒をはじめ、人は周期的に変化する生命現象を備えており、このリズムの代表的なものは、約1日周期で繰り返されています。このような生体リズムと、その調節の仕組みについて学びます。
6	睡眠環境① (教科書第5章)	温湿度・音・光環境と睡眠	暑さ、寒さ、騒音、光など眠る時の環境要因が適正でないと眠りが妨げられます。ここでは、これら環境要因の適性な範囲・程度について学びます。
7	睡眠環境② (教科書第5章)	寝装具、空気、香、入浴、し好み、災害と睡眠	寝装具や香りが睡眠に及ぼす影響、入浴や飲酒・喫煙・カフェイン摂取などの行動が睡眠に及ぼす影響、および災害時の睡眠について学びます。
8	運動と睡眠 (教科書第6章)	運動が睡眠に及ぼす急性・慢性の効果と注意点	運動習慣の有無が睡眠に及ぼす影響、運動した晩の睡眠、快眠のための運動など、運動と睡眠、加えて登山中（高所で）の睡眠の関連について学びます。
9	子どもの教育と睡眠 (教科書第7章)	子どもの睡眠実態と学校生活への影響	未就学児～高校生までの睡眠実態、および睡眠問題と学校生活の関わりについて学びます。
10	社会と睡眠 (教科書第8章)	眠気のリズム労働者（交代勤務者を含む）の睡眠問題	1日24時間を通しての眠気の推移や関連する事故の発生率、夜勤に伴う問題などについて学びます。
11	睡眠障害 (教科書第9章)	睡眠の疾患	睡眠障害とは、医療機関で診断・治療が必要な睡眠の病気です。特に不眠症、睡眠時無呼吸症候群、むずむず脚症候群の3つは一般成人の数%以上で認められる罹患率の高い睡眠障害であり、よく理解しておく必要があります。
12	睡眠の評価法 (教科書第10章)	睡眠の主観評価・客観評価	睡眠を評価するための、簡便かつ標準化された質問紙、および機器等を用いる客観評価の手法、および、これらの状況に応じた適切な使用方法について理解してください。
13	個別相談と改善技術 (教科書第11章)	睡眠の個別相談	睡眠の悩みや相談について、個別の相談を受けた際の対応法・基本的な知識について学びます。
14	集団を対象とした睡眠改善技術 (教科書第12章)	地域住民の睡眠改善手法	高齢者の睡眠問題と、その特性に応じた睡眠改善手法、実施にあたってのノウハウ・留意点などについて学びます。
15	集団を対象とした睡眠改善技術 (教科書第12章)	生徒の睡眠改善手法	学校現場における睡眠問題と、その特性に応じた睡眠改善手法、実施にあたってのノウハウ・留意点などについて学びます。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』に記載の、計25問の4者択一問題に解答してください。
2 単位め	提示する計6テーマ（内容は下記、アドバイスに記載）から、2テーマを選択して回答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

1 単位め アドバイス

1 単位めの課題は、提示された文章（1問につき4つの文章）の正誤を判断して選択する問題です。いずれも教科書の内容から出題しています。時間制限の無い課題ですので、教科書を読み込み、良く考えて回答してください。正しい知識の修得とその確認を意図しており、難易度は比較的高くしてあります。

2 単位めの論述式レポートは、以下に提示する6種のテーマからご自身の回答可能なテーマを2つ選択し、各1,000字程度で回答するものです。

2 単位め アドバイス

- ①睡眠ポリグラムから判定される睡眠段階と、一晩の睡眠段階の推移について論じなさい。
- ②生体リズムを調節する要因を挙げ、これら要因に関する快適睡眠のための留意点を述べなさい。
- ③睡眠に影響する日中の環境・行動要因を挙げ、これら要因に関する快適睡眠のための留意点を述べなさい。
- ④新生児から高校生までの発達過程における睡眠の特徴、および現代社会における、これら子どもの睡眠問題について論じなさい。
- ⑤高齢者の睡眠の特徴と、快適睡眠のための留意点を述べなさい。
- ⑥温湿度、騒音、光などの睡眠環境と睡眠の関連を述べ、快適睡眠のための留意点を述べなさい。

どのテーマも教科書の内容からの出題です。いずれのテーマも、長く書こうとすれば相当量の分量を書くことができますが、レポート評価は、各テーマについての重要事項・必要不可欠な事項の記載状況、論理一貫性により行います。自身の経験や身の回りの事象を含めて記載することも可能ですが、各テーマ1,000字程度と文字数は限られています。教科書に記されている重要事項を優先して記載するようにしてください。

■レポート 評価基準

アドバイスをご覧ください。

科目修了試験

■評価基準

睡眠の評価、および改善を図るための基本的知識を問う内容の論述問題です。実際の個人の例を取り上げて、問題内で提示される評価の観点から評価を行い、睡眠改善のための工夫について論じていただきます。（教科書持ち込み可）

睡眠改善指導者（大学認定睡眠改善インストラクター）の資格取得について

日本人の多くが睡眠に不満を感じており、さまざまな快眠技術や睡眠改善策の提案が求められています。一般社団法人日本睡眠改善協議会では、科学的研究成果が明確な睡眠に関する知識と技術を、具体的でわかりやすい睡眠改善策として実践と普及に貢献できる人材育成のために、睡眠改善指導者の認定制度を設けています。

本学通信教育では、下表の科目を8単位以上修得（必修：2単位＋選択：3科目6単位以上）することで、睡眠改善指導者（大学認定睡眠改善インストラクター）認定試験の受験資格を取得することができます。

睡眠改善指導者（大学認定睡眠改善インストラクター）に関する指定科目

領域	科目名	配当年次	履修方法	科目単位	本学での履修方法
基礎	睡眠改善学	1年次～	R or SR	2	1科目2単位必修
医療	医学一般	2年次～	R or SR	2	3科目6単位以上 選択し、単位修得のこと ※領域は問いません
	人体の構造と機能及び疾病	2年次～	R or SR	2	
	精神保健学	2年次～	R or SR	4	
	精神医学	3年次～	R or SR	4	
	精神疾患とその治療Ⅰ	3年次～	R or SR	2	
教育	教育・学校心理学A（教育心理学）	1年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕教育心理学	1年次～	R or SR	2	
	教育・学校心理学B（学校心理学）	2年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕特講・福祉心理学4（スクール・カウンセリング）	1年次～	S	1	
心理	福祉心理学	1年次～	R or SR	2	
	心理学概論A	1年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕心理学概論	1年次～	R or SR	4	
	社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）	1年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕社会心理学	1年次～	R or SR	2	
	社会・集団・家族心理学B（家族心理学）	1年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕家族心理学	1年次～	R or SR	2	
	産業・組織心理学	1年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕産業心理学	1年次～	R or SR	2	
	人間関係論	1年次～	S	1	
	児童青年心理学	1年次～	R or SR	4	
	老年心理学A	1年次～	R or SR	2	
	〔～2017〕老年心理学	1年次～	R or SR	4	
	ライフサイクルと福祉心理学	1年次～	S	1	

試験の詳細（申込方法・日程・会場）は、日本睡眠改善協議会ホームページをご確認ください。

<http://www.jobs.gr.jp>

コミュニケーション英語

科目コード

AL1011



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(演習)	1年以上	シュミット・ケネス

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度の開講後は2021年度開講予定です。

※スクーリング受講の場合は p.101 の受講条件の達成が必要です。

科目の概要

■科目の内容

英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標とします。特にリスニングとスピーキングに重点を置きますが、語学向上に不可欠であるリーディングと単語学習や、意見や経験などを表現する簡単なライティングも行います。

教材はオンライン版教材もしくは冊子版教材を使用します。オンライン版教材は音声、画像、動画、文章などを用いたオンライン学習（「Touchstone Online Course」）ですので、実践的で興味深い内容となっており、使用方法も平易です。各自が設定した目標に向けて、自らのペースで何度でも繰り返し学習ができます。メールを通じて担当教員と頻繁にコミュニケーションを行います。

冊子版教材ではだいたい同じ内容の学習をすることができますが、オンラインの方が学習サポート、フィードバック、スピーキング練習、コミュニケーションチャンスなど、たくさんありますからお勧めです。冊子版はレベル1A や1B からの選択になりますが、オンライン版はレベル1 からレベル4 まで（各 A、B）から自分のレベルに合わせて選べます。

スクーリングでは、多彩な英語アクティビティ（コミュニケーション、リスニング、リーディング）をします。

■到達目標

自宅でのレポート学習をもとに、スクーリング講義でほかの学生と一緒に学ぶことにより、実際に役立つコミュニケーション力を身につけ、実践することができる。

■教科書

履修登録後に送付されるコースガイドをもとに①使用する教材（オンライン版教材、冊子版教材のどちらを使用するか）および②教材のレベルを決定し、書面（メール・FAX・郵送）にて通信教育部にお知らせください。使用する教材・レベルを確認後20日程度で教材をお送りします。

【オンライン版教材】

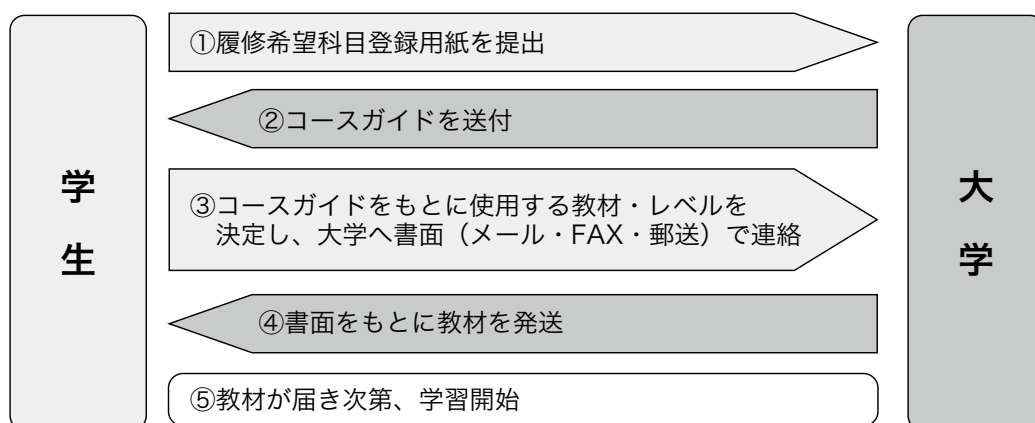
- Touchstone Online Course (Cambridge University Press), Level 1, 2, 3 or 4
(個々のレベルに応じて選びます。各レベルの A (Units 1-6) か B (Units 7-12) を選びます。詳しくはコースガイドを参照)
- Touchstone Online Course 学生用マニュアル

【冊子版教材】

- Touchstone Level 1 Student's Book A (Units 1-6) or B (Units 7-12), 2nd edition (Cambridge University Press)
- Touchstone Level 1 Workbook (A or B), 2nd edition
(個々のレベルに応じて選びますが、Level 1B がお勧めです。英語に不慣れで自信のない方は Level 1A がお勧めです。詳しくはコースガイドを参照)

なお、オンライン版教材を体験したい方は、Touchstone の紹介ビデオ（1分）を YouTube でご覧ください。: <https://goo.gl/vUlp9w>

履修登録から学習開始までの流れは下図のとおりです。



■オンライン版教材について

- ※パソコンやタブレットの環境が整う方はビデオなども見られるので、オンライン版教材をおすすめします。
- ※ Touchstone Online Course は一年間の使用許諾による教材です。2年目以降継続して学習を希望される場合は、1年ごとに別途3,500円（消費税別）が必要となります。
- ※下記の要件を満たしたパソコンやタブレットの利用環境が必要です。また、通信教育部ではパソコンの使用方法に関するサポートはできませんので、上記の Touchstone 学生用マニュアルおよびコースガイドを参照し、ご自身で操作していただきます。ブラウザで web サーフィン、YouTube ビデオ、Skype などを問題無く使えれば、利用可能です。

インターネット	OSとブラウザ	ハードウェア	タブレットの場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 光ファイバー、CATV、ADSL 等のブロードバンド回線を推奨 ・ スピード：3Mbps ダウンロード、512Kbps アップロード ・ メールアドレス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Vista、Windows 7、8、8.1以上 ・ Windows ブラウザー：IE 10、11以上 ・ 最近の Firefox、Chrome ・ Mac OSX 10.8+ ・ Mac OSX ブラウザー：Safari 6、7以上 ・ 最近の Firefox、Chrome 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーン：1024×768以上 ・ マイク（声の録音） ・ ビデオカメラ（必須ではない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad 4以上、iOS 7以上、Safari ・ Samsung Galaxy Tablet 2 10.1、Android 4.2.2以上、最近の Chrome

*パソコンの環境が整う方はビデオなども見られるのでオンライン版教材をおすすめします。

(スクーリング時の教科書) スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

※スクーリング当日は、英和辞典、ノート、A4バインダーかファイルを持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「異文化への関心と理解」「英語コミュニケーション力 (basic level)」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価65%+スクーリング試験35%

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、多様なテーマ（日本の文化と外国の文化など）について、オーラルコミュニケーションを中心に学習していきます。ペアワーク・グループワークをおこない、リスニング、スピーキング、リーディング、ポキャブラリーを強化することをねらいとしています。

上記のほかにはパズルやクイズ、会話練習も行います。また、「多読」という英語能力を楽しくレベルアップする学習も行います。

自主学習した内容をぜひスクーリングの場で楽しく発揮してみてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーションとコミュニケーション	お互いの自己紹介など
2	ポディーランゲージ	身体各部
3	ポディーランゲージ	日本と海外
4	多読	オリエンテーションと本の選択
5	ポディーランゲージ	説明と実行
6	異文化理解①	トピック紹介
7	異文化理解②	間違いとマナー
8	世界の食べ物①	共通の食べ物体験, 好き嫌い, お薦めなど
9	世界の食べ物②	ゲームやクイズ
10	世界の食べ物③	飢餓と世界食糧デー
11	異文化理解	文化的説明
12	多読	読んだ本の話と実習勉強のやり方

■講義の進め方

ペアワークやグループワークなど、オーラルコミュニケーションを中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

オーラルコミュニケーションなどへの積極的参加50%+スクーリング中に配付するワークシートの提出50%

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：15時間）

スクーリング受講前（p.101記載の期日まで）に、Touchstone 教科書または Touchstone オンラインを参照して最初の3つのユニット（1-3か7-9）を終了しておいてください。

また、時間があればスクーリング講義内容を見て、それぞれの項目について自分でインターネットなどで調べておいてください。例えば、英語での自己紹介、英語を習うための多読の理論、日本と海外の異文化理解事、ポディーランゲージの単語、料理の英語での説明などです。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

テキスト Touchstone Level 1B（他のレベルを利用の場合は、テーマ・学習内容・キーワードが異なりますが、どのレベルでも学びのポイントは一緒です。必ずTouchstone を利用前と学習途中での学びのポイントは全て見直ししてください。）

回数	テーマ	学習内容(Learn how to…)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
1	Unit 7 - Lesson A & B Away for the weekend Sports and exercise	Learn how to… ・ Describe the weather ・ Talk about ongoing activities with the present continuous. ・ Talk about sports and exercise. ・ Ask about current activities using the present continuous. Keywords: current activities, exercise	T) Find your learning targets by checking <i>Can Do! and Before you begin</i> … on the first page of each unit. O) Find the same information through the <i>Unit Aims and Before you begin</i> links. <i>Before you begin</i> includes important vocabulary and listening work. Each lesson also has a <i>Lesson Aims</i> page with a <i>Language summary</i> pdf link. Don't skip these. T/O) Carefully follow each step in each lesson. This will give you a much more valuable learning experience. T) After completing each activity in the book, use the key to mark your answers (O/X with red pen) and correct your mistakes. Then check it off on your course checklist.

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to...)・ キーワード	学びのポイント O) = online / T) = textbook
2	Unit 7 - Lesson C & D How's it going? Staying in shape.	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ask follow-up questions to keep a conversation going. ・ React to news with "That's great," "That's too bad," etc. ・ Read an article about exergaming ・ Write an article about exercise using imperatives. <p>Keywords: questions, comments, recommendations</p>	<p>T) <i>Class activity, Pair work</i> and <i>Group work</i> sections are chances for communication practice. Ask a friend or family member to practice with you. If no practice partner is available, role-play both sides of the conversation yourself. It's important to actually speak out-loud.</p> <p>O) Each unit is divided into lessons (A-D), and each lesson is divided into sections (1, 2, 3,...). Move from activity to activity within each section using the numbers/ arrows at the bottom of the window. Move to the next section or lesson using the arrows at the top of the window. Click the <i>Content</i> drop-down menu link (upper left) anytime to see your progress, to jump forward or back, or to do other types of activities (games, workbook, videos, etc.). Click the X (upper right) to return to the course homepage.</p> <p>T) After finishing each unit, complete the activities in the workbook. Use the key to mark your answers (O/X with red pen) and correct your mistakes. Then check them off on your course checklist.</p> <p>O) After finishing each unit online, you should do the <i>Workbook</i> activities, <i>Games, Reviews</i> and <i>Video activities</i> for that unit.</p>
3	Unit 8 - Lesson A & B Clothes Things to buy	<ul style="list-style-type: none"> ・ Talk about clothes. ・ Say what you like to, want to, need to, and have to do. ・ Talk about accessories. ・ Ask about prices using "How much ... ?," this, that, these, and those. <p>Keywords: shopping, clothes</p>	<p>T) Whenever you see the speaker icon, listen to the mp3 file or CD track. Listen at least twice. Most listening activities have <i>Listen again</i> activities. Download mp3 files for free from http://www.cambridge.org/us/esl/touchstone/audio/ If you can't download the files, ask 通信教育部 staff to send you a CD.</p> <p>O) Many online activities have text, sound and pictures/video. Always listen to the sound, even if you don't need it to complete the activity. Getting input in these three ways helps strengthen your memory and learning.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to…)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
4	Unit 8 - Lesson C & D Can I help you? Shop till you drop!	<ul style="list-style-type: none"> ・ Take time to think using <i>Uh</i>, “Let’s see,” etc. ・ Use <i>Uh-huh</i> and <i>Oh</i> in responses. ・ Read a review of a shopping mall. ・ Write a review of a store using <i>because</i>. <p>Keywords: thinking time, shopping opinions</p>	<p>T) <i>Lesson D</i> (in most units) , contains a writing example followed by a writing task (store review, travel tips, etc.) . Write this on a separate paper and include it with your workbook and course checklist when you send them to the instructor..</p> <p>O) Many lessons include writing tasks (blogs, descriptions, stories, etc.). There are usually <i>Useful language</i> and <i>Example answer</i> buttons available. Always check these for helpful ideas and language before writing. The instructor will automatically be able to see your written work. Please send an e-mail to the instructor <kjswork@gmail.com> whenever you complete a written activity. This will help him to quickly check and respond to your work.</p> <p>T) After finishing each unit in the textbook and workbook, do the <i>Free talk</i>, <i>Sounds right</i> and <i>Extra practice</i> activities (in the back of the textbook) and check them off on your course checklist. Try to find a partner for the <i>Free talk</i> activities. O) The online course also has <i>Sounds right</i> and <i>Extra practice</i> activities at the very end of the course content list. Use these for review immediately after finishing each unit, or use them as an end-of-course review. You must do them.</p>
5	Unit 9 - Lesson A & B Sightseeing Countries	<ul style="list-style-type: none"> ・ Give sightseeing information with <i>can</i> and <i>can't</i>. ・ Talk about international foods, places, and people. ・ Say what languages you can speak. <p>Keywords: sightseeing, food, languages</p>	<p>T) Many lessons begin with a conversation or text for listening. After you listen, listen again. This time repeat each line after the audio and try to match the intonation and feeling of the model.</p> <p>O) Many online activities provide the chance to listen, repeat and record your voice. Try to match your intonation and feeling to the model.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to...)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
6	Unit 9 - Lesson C & D They're a kind of candy. A songwriter? Really?	<ul style="list-style-type: none"> ・ Explain words using <i>kind of</i> and <i>kind of like</i>. ・ Use <i>like</i> to give examples. ・ Read a travel website. ・ Write a paragraph for a travel website. <p>Keywords: giving examples, online travel information</p>	<p>T) Growing your vocabulary is a key to building your language skills. Always read the <i>Learning tip</i> and complete activities on the <i>Vocabulary notebook</i> page. Many students do this work in a separate, vocabulary notebook. Check off the items in the <i>Can Do! Now I can...</i> box to confirm that you studied and can do those things.</p> <p>O) Growing your vocabulary is a key to building your language skills. <i>Vocabulary notebook</i> appears between <i>Lessons B</i> and <i>C</i> in each unit. Complete the activities and complete the <i>On you own</i> task in your own vocabulary notebook.</p>
7	Checkpoint review Units 7-9	<p>Questions and follow-up questions! Using expressions. Interests & tastes.</p> <p>Keywords: questions, interests</p>	<p>T) After you finish three units, you will see a <i>Checkpoint</i> review lesson. Complete these activities and check your answers. When you finish three units (e.g., Units 7-9), send your workbook, written work and course checklist to the 通信教育部 office so the instructor can record your work.</p> <p>O) After you finish three units, you will see a <i>Checkpoint</i> review lesson with 3-4 sections. Always complete these activities to review the content and confirm your learning. After finishing a <i>Checkpoint</i> review, always send the instructor an e-mail to let him know he should check your results and confirm that you've completed those three units successfully.</p>
8	Unit 10 - Lesson A & B A night at home A busy week	<ul style="list-style-type: none"> ・ Talk about last night using simple past regular verbs. ・ Describe the past week using simple past irregular verbs. ・ Ask simple past yes-no questions. <p>Keywords: describing past events, stories</p>	<p>T/O) Vocabulary is VERY important in language learning and in <i>Touchstone</i>. Keep a vocabulary notebook for for <i>Vocabulary notebook</i> page work. And in the same notebook, write any unfamiliar words and phrases you meet in your studies. Include related information like parts of speech, definitions, examples, Japanese meanings and pictures.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to…)・ キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
9	Unit 10 - Lesson C & D Congratulations! A blog	<ul style="list-style-type: none"> ・ Respond to news with “Good for you,” etc. ・ Say “You did?” to show surprise or interest. ・ Read about a blogger’s week. ・ Write a blog about your week, using <i>after</i>, <i>before</i>, <i>when</i>, and <i>then</i>. <p>Keywords: responding, listing activities</p>	<p>T) The 2nd page of each lesson has a tip box (<i>Common errors</i>, <i>In conversation</i>, <i>Reading tip</i>, <i>Help note</i>, etc.). Always read these and think about them as you do the activities on that page.</p> <p>O) Many online activities include a <i>Hint</i> or <i>Tip</i> button. Always check these for useful language or advice.</p> <p>O) Each unit ends with a <i>Unit Outcomes</i> page. Check the <i>Can Do!</i> statements to remember what you’ve done in that unit. Also use the <i>Language summary</i> links to download key vocabulary and grammar for each lesson. You can add these to your own Vocabulary notebook. If you don’t know a word, check it in your dictionary.</p>
10	Unit 11 - Lesson A & B My first… Vacations	<ul style="list-style-type: none"> ・ Describe past experiences. ・ Ask and answer questions using the past of <i>be</i>. ・ Talk about vacations. ・ Talk about activities with <i>go</i> and <i>get</i> expressions. <p>Keywords: vacation stories, describing activities</p>	<p>As you do the activities in the textbook and workbook, ALWAYS complete every item in an activity BEFORE looking at the answer key. Creating and writing an answer makes a stronger mental impression. And when you make a mistake, you will remember the mistake and the correct answer better.</p>
11	Unit 11 - Lesson C & D Anyway, what did you do? A funny thing happened…	<ul style="list-style-type: none"> ・ Show interest by answering and then asking a similar question. ・ Use <i>Anyway</i> to change the topic or end a conversation. ・ Read a funny magazine story. ・ Write a story using punctuation for conversations. <p>Keywords: expressing interest, humorous stories</p>	<p>T/O) As you study, any time you have a question or don’t understand something, feel free to contact the instructor by e-mail <kjswork88@gmail.com> or written note. He will try to answer your questions. <i>Touchstone Online</i> also allows you to communicate with the teacher within the system.</p>
12	Unit 12 - Lesson A & B Eating habits What’s for dinner?	<ul style="list-style-type: none"> ・ Talk about eating habits using countable and uncountable nouns, <i>How much</i>, and <i>How many</i>. ・ Talk about food. ・ Make offers using “Would you like…” and <i>some</i> or <i>any</i>. <p>Keywords: food, eating, meals</p>	<p>T) <i>Lessons A & B</i> often include a grammar activity. Always read through the shaded grammar box before doing the activity. If you don’t understand the explanation and/or examples, check the same grammar point in a grammar reference book you enjoy using. This will help your learning.</p> <p>O) Grammar explanations for <i>Lessons A & B</i> are available using the <i>Reference</i> tab on the <i>Dashboard</i> or the main course page. Check these before beginning <i>Lessons A & B</i> in each unit.</p>

回数	テーマ	学習内容 (Learn how to...) キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
13	Unit 12 - Lesson C & D I just want a sandwich or something. Great places to eat	<ul style="list-style-type: none"> ・ Use or something and or anything in lists. ・ End yes-no questions with “or . . . ?” to be less direct. ・ Read a restaurant guide. ・ Write a restaurant review. <p>Keywords: restaurants, ordering</p>	<p>T) <i>Lesson D</i> usually includes a reading text. Read the text at least twice. The first time, read it out-loud, trying to sound out the words. The second time, read silently and quickly. Try reversing this process. Which way feels most helpful to you?</p> <p>O) Many online sections include a reading text that you can display using the <i>Read</i> icon. Usually, you'll want to read before you do the activity. Sometimes you'll want to read after. Try different ways to see what helps you most.</p>
14	Checkpoint review Units 10-12	<p>What's the question? Balanced diet? Using the right expression. Expressing interest.</p> <p>Keywords: eating habits, expressions</p>	<p>T/O) Some <i>Checkpoint</i> activities are conversations, and there are many conversations throughout the course. After you finish a conversation activity (fill-in-the-blank, etc.), always go back and practice the conversation. Try to read a line, cover it with your hand, and then say it. Holding it in memory for a second or two will help you remember the language you are practicing.</p> <p>O) While you're studying each unit, please use the <i>Dashboard</i> link (center top of window) to use various features of <i>Touchstone Online</i>. <i>Content</i> brings you to the <i>Touchstone</i> course activity you are currently working on. <i>Reference</i> has grammar explanations for <i>Lessons A & B</i> of each unit. <i>Forum</i> allows you to record your replies to lesson-related questions and share messages with other students in the course. <i>Blog</i> allows you to freely communicate with the instructor and other students. <i>Resources</i> has online course guides in pdf form (Japanese coming soon!)</p>

回数	テーマ	学習内容(Learn how to…)・キーワード	学びのポイント O)= online / T)= textbook
15	Course review	Vocabulary review. Self-evaluation.	T) In the back of the <i>Workbook</i> is a list of the 500 words spoken most often. Review these. If any are unfamiliar, check them in the dictionary and add them to your vocabulary notebook. O) After finishing each unit, you must take a <i>Unit Quiz</i> . Find these by clicking on Content, then <i>Tests</i> . You can practice each Unit Quiz up to 3 times in <i>Practice Mode</i> . When you feel confident, you can take the Quiz in <i>Test Mode</i> . The instructor will receive that score. After you finish all six units, take the <i>Unit ?? Test</i> . That's your final step. Of course, you can go back and review the material, repeat activities, etc. until your access period ends.

■レポート課題

1 単位め	2019年9月1日までに Touchstone の最初の 3 units を終了してください（9月1日までに終わらない場合は、12月10日までに終了してください）。
2 単位め	Touchstone の残りの 3 units を終了してください（最後の試験含む）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※1単位め課題を終えた後に、2単位め課題に取り組んでください。

※2020年1月11～13日のスクーリング受講条件 2019年12月10日までに1単位め課題に合格していることが必要です。冊子版教材を使用する方は2019年11月10日までに1単位めの課題を提出してください。

なお、2単位め課題もスクーリング受講までにできるだけ終了するようにしてください。

※スクーリング開講が1月でない場合の締切は『With』でご連絡します。

■アドバイス

【オンライン版教材を使用する方】

このコースでは、インタラクティブレッスン、小テスト、試験を全てインターネット上でを行い、結果は担当教員に自動的に送信されますので、レポートの提出は原則として必要ありません。ライティング課題が出された場合は、担当教員にメールにて提出してください。

【冊子版教材を使用する方】

3つのUnitが終了したらレポートを提出してください。6つのUnitがありますから、2回提出となります。詳しくはコースガイドをご参照ください。

語学学習は出来るだけ頻繁に行うことが重要です。週に最低2回の学習を行えば大幅な語学力向上が望めるはずです。オンライン版教材では、充分なリスニングやスピーキング練習とインタラクティ

ぶな学習が行えるので、英語学習がとても楽しいものとなるでしょう。冊子版教材ではリスニングやライティングを通じて会話や語い、文法を学習することができます。

■留意点

定期的に学習することが大切です。ご自身が集中できる時間にあわせて取り組んでみましょう。

その他の説明と留意点についてはコースガイドを参照してください。

※オンライン版教材にて学習する方については、個人のパソコンの不具合を理由とするスクーリング受講条件の申込締切延長やライセンスの延長には応じられません。早めに学習を進めてください。

※オンライン学習中に、担当教員からの連絡が掲示された場合は必ず内容を確認してください。同様に、担当教員からメールが届いてないか1週間に1回以上定期的にチェックしてください。返答が求められている場合は速やかに行ってください。

■補助教材

優良な英和辞典（ジーニアス、他）。オンライン辞書も利用できます（アルク、goo、weblioなど）。補助学習としてリーディング、リスニング、単語学習を行うことを奨励します。グレイテッドリーダーや東北福祉大学言語異文化学習支援室の多読ライブラリーについての説明は下記のウェブサイト参照してください。

< <https://sites.google.com/site/kjschsite/> >

その他の参考教材についてはコースガイドを参照してください。

スポーツの心理学			科目コード	AS1043
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(講義)	1年以上	佐藤 伊知子	



※2017年度に履修登録をし、2018年3月までに単位未修得の方は、2018年度よりレポート課題が2課題に変更され、科目コードも変更されています。単位未修得で論述式レポートに合格している方は、1単位めの客観式レポート課題に解答してください。

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

科目の概要

■科目の内容

「根性」って何だろう？大事な試合になればなるほど緊張するのはどうして？ベストなパフォーマンスを発揮するためにはどうしたら良い？など、スポーツ場面で感じる疑問を心理学として考えていく。

過緊張によりパフォーマンスにマイナスの影響が出ることを防ぐリラクゼーション法や集中力を鍛えるメンタルトレーニングなどを実践し、スポーツ場面以外でも活用できるメンタルコントロール手法を身につける。社会心理学的要素のチーム理論やリーダーシップ、教育心理学的要素を含むスポーツ指導法などに関しても社会生活の中で応用できるような学びを目指している。

名指導者の独特の指導法やトップアスリートの思考を例に挙げ、それらがどのような意味や効果を持つのか解説する。

■到達目標

- 1) スポーツに関する諸事象について心理学的に分析しスポーツの技術と競技力向上に必要な心理学的要素を論じることができる。
- 2) リラクゼーション法を身につけ日常でも実践できるようになる。
- 3) 指導者（リーダー）に必要な要素を理解し社会で活かす方法を考え出すことができる。

■教科書

徳永幹雄編『教養としてのスポーツ心理学』大修館書店、2005年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「自己理解に基づくセルフコントロール力（リラクゼーション、アクティベーションの実践）」「集団理解に基づく対人調整力（チームワークとコミュニケーション力）」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価70%+スクーリング評価30%

■参考図書

日本体育協会『公認スポーツ指導者養成テキスト』

日本体育協会『21世紀のスポーツ指導者 ～望ましいスポーツ指導者とは～』

いずれも市販されていませんが、日本体育協会のHPで閲覧もしくは購入可能です。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	「根性」から「心理的競技能力」へ	スポーツに必要な「心の技術」とは
2	スポーツ不安①	あがりとは何か、どんな時に起きるのか
3	スポーツ不安②	覚醒水準とパフォーマンスとの関係
4	スポーツ不安を軽減させる手法	リラクゼーション・イメージトレーニング
5	チーム（集団）チームワークとは	集団を構成する要素・成立までのプロセス
6	リーダーシップとは	リーダー・フォロワーの役割・PMリーダーシップ論
7	スポーツ指導法	モチベーションを高める指導法
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

テキストやパワーポイントなどをもとに板書をしながら進めます。リラクゼーションやメンタルトレーニングなどは実践も行います。

■スクーリング 評価基準

試験では主に授業で学んだ用語の理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の第2部「競技スポーツの心理学」を中心に復習し、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習 8のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	競技者に必要な心理的スキルとは(第2章)	心理的スキルとは?心理的スキルとパフォーマンスの関係 キーワード:精神力・心理的競技能力	まずは「精神力」「根性」という漠然とした考え方を心理学的に、科学的にとらえる重要性を理解しましょう。
2	よい緊張感はどのように作られるか(第4章)	よい緊張感とはどんなことを指すのだろうか。悪い緊張感とは? キーワード:緊張度と実力発揮の関係・リラクゼーション	緊張はすべて「悪」ではありません。緊張感は無さすぎてもありすぎてもパフォーマンスに悪影響を及ぼしますが、その間に「良い緊張」があるということを学びましょう。
3	集中力はどのようにして高めるか(第5章)	集中力とは?集中力を高める練習・妨害されない練習・持続する練習 キーワード:注意を一点に集める	集中力も心理的スキルの一つです。練習で向上させることが可能です。注意力を必要などところに向けてためにはどのような練習法があるのでしょうか。
4	自信を高めるには(第6章)	技術に関する自信、体力に関する自信、心理面に関する自信、それぞれにどのようなアプローチができるか? キーワード:自己効力感	自信というものも心理的競技能力として欠かせないスキルです。ゆるぎない自信を持つことができればパフォーマンスにも好影響を及ぼします。
5	チーム作りに必要な心理的要因①(第9章)	チームとは?チーム作りのプロセスとは? キーワード:チームビルディング	人が集まればすぐにチームができるというわけではありません。チームとはどのような機能が必要か、どのような過程を経て出来るのか学んでください。
6	チーム作りに必要な心理的要因②(第9章)	コミュニケーションスキルの重要性とは?協調性と個性化の育成 キーワード:言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション PM リーダーシップ論	チームをより強固なものにするためにコミュニケーション力や役割分化は不可欠です。どのようにスキルアップすることができるか学びましょう。
7	スポーツ技術獲得の心理的課題は何か(第11章)	運動学習の理論、合理的な技術獲得の練習法 キーワード:スキーマ理論・ゲームライクプラクティス	有効な効果が得られない練習をいくら続けても上達はしません。理論に裏打ちされた指導を行うことにより合理的に強化することができます。指導者に必要な視点を学びましょう。
8	スポーツ心理学の基礎知識(附章)	スポーツ心理学に必要な基礎知識とは キーワード:動機付け理論・コーチング	スポーツ指導者側の視点として、選手のやる気を刺激する方法やストレスに対する認知の再構成などの働きかけによるストレスマネジメントは不可欠です。様々な手法について学びましょう。

■レポート課題（2単位めレポートはスクーリング受講後に提出してください）

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	あなたがスポーツ指導者になった場合、どのようにチームを作り、どのような手法を用いてチーム強化を図りますか？その根拠も含め記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2017年度履修登録) 2018年度よりレポート課題が2課題に変更されました。単位未修得で2017年度に論述式レポートに合格している方は、1単位めの客観式レポート課題に解答してください。

■アドバイス



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。



教科書をよく読むこと。特に第2部の「競技スポーツの心理学」には、チームが持つべき機能やチームビルディング（第9章）競技者に必要な心理的スキル（第2章）メンタルトレーニングやリラクゼーション（第3章）作戦のトレーニング法（第7章）などについて詳しく書かれています。また、第10章の実践例も参考になりますね。それらを理解した上でレポートテーマについて考えていきましょう。

まずは自分が指導するチームの種目とレベル、年齢層を自由に設定してください。設定するのが難しい場合は下記の例に挙げられたものから選んでいただいても結構です。

<例>

- ・中学生の野球部・男子生徒のみ25名在籍・県大会準優勝レベル
- ・スポーツ少年団のバレーボールクラブ・小学3年生～6年生男女20名在籍・全国大会出場レベル
- ・ママさん卓球サークル・20代～50代までの女性15名在籍・半数が初心者・体力維持増進目的
- ・サッカー日本代表チーム・10代～30代までの男性25名在籍・全員プロ選手・世界ランク45位

自分が設定した指導対象チームの特性をしっかりと見極め目標を設定してください。その目標を達成するために必要と思われる役割分化や人材配置などについて考えましょう。また、チーム構成員のモチベーションやチームワークを高めるためにどのようなことを行うのか、心理的競技能力を高めるため何をするか、など具体例を挙げながら述べてください。

■レポート 評価基準

- ① チームの目標が的確に設定されているか。また、目標達成のための役割分化・人材配置などがマッチしているか
- ② チームや選手に対して行う指導が経験や感覚から提案するのではなく、科学的、心理学的な根拠に基づくものであるか

の2点を重視します。「スポーツの心理学」のレポートですのでフィジカル面やテクニカル面の向上よりもメンタル面の強化・向上を主に考えてください。

特講 (地域と生活)			科目コード	AT1029
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S(講義)	1年以上	村田 周祐	

※この科目は9/28・29に仙台会場で受講が可能です。受講希望者は8/21までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

この授業では、地域と生活を切り口に、日本民俗学や村落社会学の社会観の獲得を目指します。人口減少社会やグローバル市場の最前線にある現代農山漁村を題材に、それでも地域生活を再編していく人々の英知に接近します。本講義では、英雄ではなく、「普通」の人々(私たち)の日常に埋め込まれた「創造性」に接近し学ぶことで、これまでとは異なる「世界の見え方」を獲得していくことを目的とします。

■到達目標

これまでとは異なる、もう一つの視点から社会・世界を見ることができるようになる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	あたりまえを疑う	常識や普通ってなんだろう
2	なぜいま地域なのか①	福祉国家と地域
3	なぜいま地域なのか②	福祉社会と地域
4	距離と生活保障からみる地域	東北の限界集落の創造力
5	移動と自由からみる地域	鳥取林業に集う若者たち
6	軋轢と共生の地域	漁師になる移住サーファー
7	人と自然の距離からみる地域①	アクティブラーニング
8	人と自然の距離からみる地域②	アクティブラーニング
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

本講義は知識ではなく、もうひとつの社会観・世界観の獲得を目指します。そのため、具体的な事例の紹介やアクティブラーニングなど、体感・追体験する学習が中心となります。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100% (持込すべて可)

■スクーリング時の教科書

教科書は使いません。必要に応じて資料を配付します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「あたりまえ」ってなんだろうと、少し立ち止まって考えてみてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義を通して、考えたことや気になったことを調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション能力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

ふだんの生活やさまざまな活動を通して抱いた疑問をもつ力を身につけてほしいです。何の変哲もない「ふだんの生活」に疑問を持つことは、実に難しいです。なぜなら、「ふだんの生活」に疑問を持つためには、まず自分にとっての「あたりまえ」に気づくことが必要だからです。その力を養う助けになればと思います。

■参考図書

村田周祐著『空間紛争としての持続的スポーツツーリズム：持続的開発が語らない地域の生活誌』
新曜社、2017年

特講 (3.11以降の社会を考える) ～福島出身者の視点から			科目コード	AT1044
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S(講義)	1年以上	古川 誠	

※この科目は11/9・10に仙台会場で受講が可能です。受講希望者は8/21までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

再来年には東日本大震災から10年の区切りをむかえようとしている。そのなかで震災とりわけ福島第一原発事故が持つ意味について、社会的・歴史的・哲学的等々の多元的な視点からとらえなおしていきたい。

■到達目標

- 1) 福島第一原発事故が社会や人々にもたらしたものについて考える。
- 2) 複数の視点から社会的な現実を考察する。
- 3) 社会と人間についての考え方を深める。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	福島第一原発事故について	原発事故の経緯
2	福島第一原発事故のもたらしたもの (1)	原発事故によってもたらされた社会の状況
3	福島第一原発事故のもたらしたもの (2)	原発事故が人々にもたらしたもの
4	福島第一原発事故について考える (1)	原発事故について社会的に考える
5	福島第一原発事故について考える (2)	原発事故について歴史的に考える
6	福島第一原発事故について考える (3)	原発事故について哲学的に考える
7	福島第一原発事故の意味	日本社会にとっての原発事故の意味
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。なお、上記の講義内容は変更される場合もあります。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%＋スクーリング試験70% (持込可)

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容のなかで関心をもったテーマについて、自分なりに考え続けてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「社会への関心と理解」「他者への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■参考図書

小松理虔『新復興論』（ゲンロン叢書001）ゲンロン、2018年

社会福祉学科関連 専門科目



この部は「社会福祉学科 専門選択科目」「福祉心理学科 専門選択科目 B 群」のうち、下記以外の科目が掲載されています。

- (1) 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験指定科目（＝『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』に掲載）
- (2) 心理学系の科目（＝『レポート課題集 C（心理専門編）』に掲載）

掲載科目は、目次や索引でご確認をお願いいたします。

社会福祉の基礎

~2016

科目コード

DA2050



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R or SR(講義)	1年以上	三浦 剛

※ p.70「社会福祉学入門」(科目コード：AH1050、共通基礎科目)をご参照ください(同じ内容になります)。

※この科目の履修登録はできません。p.70「社会福祉学入門」として履修登録してください。

福祉ボランティア活動

科目コード

DA2142

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R(実習)	1年以上	小野 芳秀



※この科目はレポートのみで単位認定します（科目修了試験はありません）。

科目の概要

■科目の内容

ボランティア活動は実践することに意義があります。本科目は、学生の普段からの自発的な活動に対し、これを推進し、また学生自身がレポートの形で第三者に伝えることで、学生自身が活動を客観的に振り返り、点検を行った結果を次に活かすことを目的としています。したがって評価対象は、活動者の実体験に基づく「活動の振り返り」や「内省」「客観的な考察」が主となります。

■到達目標

課題1（自身の活動を題材にする場合）

- 1) 自身が行ったボランティア活動に対し、課題に提示された①～⑧・⑨の項目に沿ったレポートにより他者に報告する形式で客観的な振り返りを行うことができる。
- 2) 活動中に直面した問題や課題に対し、自分なりの改善案を提案することができる。
- 3) 計画的な実践活動として、活動の質を向上させるための方策をレポートで提示できる。

課題2（他者の活動を題材にする場合）

- 1) 他者が行ったボランティア活動あるいは団体の活動について、取材を通して客観的にレポートに記述し分析することができる。
- 2) 活動の取材を通じて、活動者本人が感じている“やり甲斐”や“意義”を理解することができる。
- 3) ボランティア活動の実際を理解することができる。

■教科書

教科書は私用しません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価100%

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

テキスト 指定なし

※ボランティア活動未経験者を想定し活動開始から終了までの流れに沿ってポイントを説明する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ボランティアの意義と性格	ボランティア活動の意義と性格を理解する。 キーワード：ボランティア活動の性格、自身の目的の明確化	ボランティア活動の性格である①自発性、②無償（給）性、③公益性（公共福祉）性、④創造性、⑤継続性について理解した上で、自身が希望する活動（頻度・期間、対象、場所、形態等）を明確にする。
2	ボランティア活動の情報収集	ボランティアセンター等の活用。 キーワード：ボランティア・センター、ボランティア・コーディネーター、ボランティア・アドバイザー、社会福祉協議会	自身にとって無理のない活動を探す（マッチング）。地元のボランティアセンター（社会福祉協議会等に設置）窓口にて自身が希望する活動を探し、必要に応じてボランティア・コーディネーター相談する。
3	ボランティア活動調整	ボランティア依頼者（団体・NPO等）との事前調整。 キーワード：「ボランティア活動保険」	「どのような内容（どこまでやるのか）」、「いつまでやるのか」についてボランティアと依頼者の間で予め合意形成を図る。ボランティアセンターの窓口で「ボランティア活動保険」に加入する。
4	ボランティア活動の開始	ボランティア活動を開始する。 キーワード：活動記録、守秘義務、相談者の確保	活動中のトラブルや疑問について随時相談できる人材（ボランティアセンターのスタッフや活動先団体の担当者等）・体制を自ら確保する。活動内容や課題・対応策等について任意のノートに記録する。
5	ボランティア活動の終了	ボランティア活動の終了。 キーワード：振り返り、引継ぎ、活動評価	活動プログラムの点検や引継ぎを行う。
6	ボランティア活動の振り返り	ボランティア活動の振り返り。 キーワード：課題・問題の明確化、振り返り	自身の活動を振り返ることで課題・問題点を明確化し、客観的に振り返りを行う。
7	ソーシャルアクションの検討	個別ニーズから福祉的ニーズへの捉え直し。 キーワード：ソーシャルアクション	身近な活動から得られた知見から依頼者のニーズを福祉的ニーズとして社会全体の構造の中で捉え直し、可能であればソーシャルアクションに発展させる。
8	ボランティア活動記録の作成	ボランティア活動の総括として記録やレポートにまとめる。 キーワード：記録作成	記録やレポートにまとめることで、経験を言語化する。課題や改善案を自身の次回以降の活動に活かす。活動初心者の参考として情報を共有する。他の活動者との課題や解決策の共有化を図る。

■レポート課題

<p>1 単位め (課題1・2 のいずれか 1つを選択)</p>	<p>課題1：あなたが行ったボランティア活動について、以下の項目に従い具体的に記述しなさい。 ①「活動対象」②「活動期間」③「活動動機・目的」④「活動内容」 ⑤「研修・準備期間」⑥「問題点・反省点」⑦「改善案(⑥について)」 ⑧「自己評価(③を含めて)」⑨「質問」</p> <hr/> <p>課題2：あなたの身近なボランティア個人・ボランティア団体について、上記の③～⑦・⑨について、具体的に調査し記述しなさい。</p>
--	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※課題1または2、どちらかを選択。

あなたが1年間を振り返り、実際に行ったボランティア活動について記述することが可能であれば課題1を、ボランティア活動が行えなかった場合は課題2を選択してください。

■アドバイス



①「活動対象」には、対人ボランティアの場合は、「高齢者」「障害者」「児童」等を、それ以外は活動の対象を表記してください(例：河川清掃等の環境ボランティアの場合は「近所の河川」と表記)。

②「活動期間」には、活動を行った日時・延べ活動時間を記述してください(例：2010年5月2日(3時間)・5月14日(2時間)・7月12日(3時間)延べ8時間)。

③「活動動機・目的」には、「なぜそのボランティア活動をしようと思ったのか」、また「どのような目的で活動を行ったのか」について記述してください。

④「活動内容」には、ボランティア活動の内容について具体的に記述してください。

⑤「研修・準備期間」には、その活動を行うにあたり準備したことや、事前に参加した研修等について記述してください。特にない場合は省略して構いません。

⑥「問題点・反省点」には、活動の際に生じた問題、反省点等を記述してください。

⑦「改善案(⑥について)」には、⑥で直面した問題について、「どのように対処したか」、また、後から活動を振り返って「こうすれば良かった」について記述してください。

⑧「自己評価(③を含めて)」には、③の活動動機・目的について、「実際活動してそれが達成できたかどうか」について記述してください。

⑨「質問」には、活動を通して感じた疑問等、また活動に直接関係がなくともボランティアに関する質問があれば自由に記述してください。

注 意

- ・レポートに具体的個人名は記載せず、プライバシーに十分配慮してください。
- ・本科目は、受講者の普段からの自発的なボランティア活動について評価を行うものであり、レポート評価が直接的な目的ではありません。これから活動する方で、特に対人のボランティア活動を行う場合は、この点について十分自覚し、形だけの活動になって相手に不快感を与えることのないよう、真摯な態度で臨んでください。
- ・活動中の事故については、全国の県・市・区の社会福祉協議会が窓口となっている「ボランティア保険」があり、活動によって生じた事故による通院費や対人・対物賠償が補償されます。それぞれの窓口にお問い合わせ、事前に参加しておくことをお勧めします(掛け金年間数百円程度)。

- ・①「活動期間」は、定期的に長期間にわたるもの、イベント等の単発活動を問いません。ただし、1、2時間程度の活動が1回のみの場合は、「レポートの題材および水準に見合わない体験的活動」として評価対象外とします。最低2回以上の活動を希望します。
- ・「活動記録ノート」を用意し、その日に活動した内容について項目毎に記録しておくこと、レポートとしてまとめる際に役立ちます。
- ・レポートとして記述する活動は複数でも構いません。複数の場合はそれぞれ分けてレポートを作成してください。
- ・家族や身内を直接的な対象とする活動は本科目において評価対象外とします。

課題2 アドバイス

課題1を参考に、③～⑦・⑨について取材形式で調査した内容からレポートを完成させてください。取材調査を行う場合は、相手に調査の目的およびプライバシーを配慮する旨を説明しましょう。

発達障害者の地域支援

科目コード

DD2211



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	三浦 剛

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2019年度開講予定です。

■スクーリングで学んでほしいこと

これまで法の狭間におかれてきた学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（AD/HD）、アスペルガー症候群や高機能自閉症といわれる人たちの、その障害の特性を学び、教育、司法、就労などのさまざまな領域からの支援アプローチを学ぶ。なかでも個別支援計画の策定や社会資源開発といった地域生活支援に必要とされる社会福祉援助技術を中心に、事例を用いてその支援のあり方や方法の実際を学ぶ。

- ・発達障害の概念
- ・その生活困難の特徴
- ・地域生活支援の理念、内容、方法
- ・ライフステージごとの地域生活支援の実際
- ・今後の課題

※この科目の担当教員は、福祉の相談援助の実務経験を有します。

■到達目標

- 1) 発達障害の概念について説明することができる。
- 2) 発達障害がある人の生活上の困難を生活の実態を通して説明することができる。
- 3) ソーシャルワークによる地域生活支援の考え方を説明できる。
- 4) 支援制度や方法の具体的仕組みについて説明することができる。
- 5) 支援を行う際の資源やそれらの連携システムの活用法が説明できる。
- 6) 支援の今後の課題について、自分の意見をまとめ、説明することができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達障害とは	発達障害の概念を学ぶ
2	ソーシャルワークによる地域生活支援①	支援の理念
3	ソーシャルワークによる地域生活支援②	支援の方法、制度
4	乳幼児期支援の実際	早期療育システムによる支援の実際
5	児童・生徒期の支援の実際	教育場面を中心に、スクールソーシャルワークも視野に
6	就労支援の実際	地域支援システムでの支援過程の展開

回数	テーマ	内容
7	これからの課題	社会的排除を視点に考える
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験（プリントと自筆ノートのみ持込可）

■スクーリング時の教科書

スクーリング時にプリントを配付。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

以下のキーワードについて、調べておくこと

「発達障害概念の変遷」「発達障害者支援法」「(早期)療育システム」「スクール（学校）ソーシャルワーク」「就労支援の過程（ケアマネジメント）」「社会的排除」

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

発達障害の障害特性により引き起こされる社会的排除を、地域生活、教育、就労などの各場面ごとに説明でき、その解消のためにはどのような支援策が必要か考え、自らの立場でできること、やらなくてはならないことを具体的に考えてみる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

杉山登志郎著『発達障害の子どもたち』講談社現代新書、2007年

山崎晃資編著『自閉症スペクトラムと特別支援教育』金剛出版、2010年

新見俊昌他編著『青年・成人期自閉症の発達保障』クリエイツかもがわ、2010年など

認知症介護論

科目コード

DD2215



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	高橋 誠一

※この科目は隔年開講予定のS科目です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※履修登録は、2020年2月から可能となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

講義では、パーソンセンタードケア（その人を中心としたケア）を基本に、認知症を抱えた人の支援とソーシャルワークについて学びます。認知症の病気の面ではなく、本人の生活の面から認知症ケアを考え、その人らしい生活を継続していく支援を考えます。

■到達目標

- 1) 認知症を抱えた人の気持ちを理解できるようになる。
- 2) 家族の気持ちを理解できるようになる。
- 3) パーソンセンタードケアの基礎を説明できる。
- 4) バリテーションセラピーの基礎を説明できる。
- 5) 認知症を抱えた人の基礎的な支援ができるようになる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	認知症の基本的理解	認知症の基本的理解をQ&A形式で学ぶ
2	認知症の経験	認知症を抱えて生活することの不安と本人の生活上の工夫を理解する
3	パーソンセンタードケア	パーソンセンタードケアの基本的考えを理解する
4	悪性の社会心理	パーソンセンタードケアにおける、本人の尊厳や価値を低める「悪性の社会心理」を理解する
5	前向きな働きかけ	パーソンセンタードケアにおける、本人の5つの心理的ニーズと本人の尊厳をまもる関わりである「前向きな関わり」を理解する
6	アセスメントとケアプラン	認知症ケアにおけるアセスメントとケアプランを理解する
7	認知症の施策と地域の取り組み	認知症の施策であるオレンジプラン、地域包括ケアなどについて理解する
8	まとめ・質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況20%+スクーリング試験80% 持ち込み全て可。パーソンセンタードケアについての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

トム・キットウッド（著）、キャスリーン・ブレディン（著）、高橋誠一（監訳）、寺田真理子（翻訳）『認知症の介護のために知っておきたい大切なことーパーソンセンタードケア入門』筒井書房・全国コミュニティライフサポートセンター、2005年。※教科書は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

知的障害者福祉論

科目コード

DD3119



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	赤塚 俊治

科目の概要

■科目の内容

知的障害者福祉支援策は多様化しました。また、知的障害者福祉施策の根底に流れる福祉観も「脱施設化」といった新たな動向が見られます。とくに、障害者自立支援法（2006年）の施行は、従来の知的障害者福祉の支援システムを大きく変革させ、知的障害者自身の利用者本位が一層強化されるようになりました。こうした知的障害者福祉の進捗に対して、社会福祉施設や地域社会における知的障害者の生活実態を分析すると、数多くの課題や問題点が山積しています。こうした社会的背景にあって2012年6月、障害者総合支援法（「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」として可決し、これまでの自立支援法の一部が改正されました。難病患者も対象となり、重度訪問介護サービスの対象拡大などがあらたに含まれました。しかし、応益負担、地域格差、家族の負担などの問題は残っています。2017年から社会福祉法が改正され、経営組織のガバナンス強化が図られます。

そこで本科目では、こうした社会的動向を踏まえながら、いかにして知的障害者が社会的自立とその支援策を確立することが可能かをさまざまな視点から論考することにします。そのためには知的障害者が抱えている今日の課題と問題点を、現行制度の限界性と社会生活の実態との乖離からその要因を明らかにしたいと考えています。

■到達目標

「施設福祉サービス」と「在宅福祉サービス」との相関関係を理解し、現代社会における知的障害者の社会的不利益の要因などを分析しながら、今後の知的障害者福祉のあるべき方向性を論考し、さらなる理解を深めることができる。

■教科書

赤塚俊治著『新・知的障害者福祉論序説』中央法規出版、2008年

（最近の教科書変更時期）2008年10月

（スクーリング時の教科書）赤塚俊治著『新・知的障害者福祉論序説』中央法規出版は、必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 竹原健二編 赤塚俊治ほか著『現代障害者福祉学』学文社、2004年
中野敏子著『社会福祉学は「知的障害者」に向き合えたか』高菅出版、2009年
『障害者総合支援六法（平成27年版）』中央法規出版、2015年
日本知的障害福祉連盟編『発達障害白書』日本文化科学社、2004年
江草安彦著『ノーマリゼーションへの道』全国社会福祉協議会、1993年
北沢清司著『知的発達 Q & A』中央法規出版、1996年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

知的障害者福祉論では、「知的障害」を持っている人たちが、いまだに社会で十分に受け入れられていないのは何故なのかを検証する気持ちで学んでください。とくに、国民は皆平等と憲法では謳われていますが、現実には、さまざまな分野で「知的障害」を持っている方々が差別や偏見を受けながら生活しているのはどのような要因があるかを調べてください。今日の知的障害者福祉施策は、「施設」から「地域」へとといった政策が展開されていますが、2016年4月1日から「障害者差別解消法」が施行されました。すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生社会の実現につながることを目的としていますが、「知的障害」を持った方の生活実態は厳しい現実に置かれています。実際の生活実態および知的障害者福祉政策の課題を具体的に学んでほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	知的障害者福祉の基本的理念と指針	隔離主義から利用者主体へ
2	知的障害者福祉関連法の理念と知的障害者の概念と実態	理念から乖離、概念の変容
3	障害者総合支援法と社会生活支援の進展	法律は不完全燃焼状態
4	施設福祉と在宅福祉の現状と課題	「施設」と「在宅」との一元化
5	一般就労と福祉的就労の実態	「就労」とは何か
6	知的障害福祉の関連機関	知的障害者更生相談所、福祉事務所、児童相談所の役割と機能
7	在宅福祉サービスの現状と課題	ホームヘルプサービス、ショートステイ、デイサービスの実態
8	今後の知的障害者福祉の課題と展望	成年後見制度・グランドデザインなど
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料にもとづいて講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング 評価基準

授業への出席状況20%+スクーリング試験80%で評価する。スクーリング試験は教科書、配付資料を持込可とする。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は、全ページを読んでください。用語や言葉の意味を理解することよりも、一度、教科書を読んでおくとスクーリング時において授業に入りやすくなります。また、障害者福祉全般に関する法律および関連文献も読んでおくと授業も理解しやすいかと思えます。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

知的障害者福祉論では、「知的障害」「障がい」「人権」「差別・偏見」「生きる・生活」をキーワードにしながら授業を展開しますが、そのなかでも関心のあるテーマについては、「私」生活をヒントに学習を深めてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	知的障害者福祉の基本的理念と指針① (第1章)	知的障害者福祉の基本的理念	知的障害者福祉における基本的理念を理解しながら、その歴史の変遷の過程でどのように社会福祉の実施体制が変化していったかを押さえましょう。
2	知的障害者福祉の基本的理念と指針② (第1章)	知的障害者福祉関連法の理念と世界宣言 知的障害者福祉を学ぶ基本的視点	障害者福祉に関するわが国の法律や世界宣言等を見ていくことで、基本的理念の動向を追っていきましょう。
3	知的障害者の概念と実態 (第2章)	知的障害者の概念 知的障害者の実態と課題	ここでは、知的障害の定義と分類を理解しましょう。また、知的障害者数の動態と生活実態について、統計などから把握しましょう。
4	知的障害者福祉の過去と現在 (第3章)	知的障害者福祉の歴史の変遷 現代社会における知的障害者への意識構造	どのような時代的背景によって知的障害者の支援サービスが展開されてきたのかについて見てみましょう。
5	障害者総合支援法と知的障害者福祉施策との関係性① (第4章)	障害者総合支援法が及ぼした知的障害者への影響	障害者総合支援法制定に至るまでの背景と、その課題とは何かを説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	障害者総合支援法と知的障害者福祉施策との関係性② (第4章)	知的障害者福祉法と福祉サービス体系	知的障害者福祉法と障害者総合支援法との関係について、押さえましょう。
7	知的障害者の社会生活支援の進展① (第5章)	知的障害者を取り巻く社会環境と就労状況	知的障害者の自立にはどのような課題があるのかをまとめると良いでしょう。
8	知的障害者の社会生活支援の進展② (第5章)	知的障害者に対する日常生活への支援体制① 知的障害者の所得保障関連法 知的障害者福祉の関連機関とその機能	知的障害者の所得を保障する関連法とその内容について把握しましょう。
9	知的障害者の社会生活支援の進展③ (第5章)	知的障害者に対する日常生活への支援体制② 関連支援事業	障害者総合支援法に伴って制定された、地域生活支援事業と、その内容について把握しましょう。
10	施設福祉の現状と課題① (第6章)	知的障害者施設（障害者支援施設）の福祉サービス	知的障害者施設のあり方について、考察しましょう。
11	施設福祉の現状と課題② (第6章)	知的障害者施設（障害者支援施設）の役割と専門性	知的障害者施設職員の資質とは何かを考えてみましょう。
12	地域福祉と在宅福祉の現状と課題① (第7章)	地域福祉の意義及び公的責任と役割	知的障害者福祉にとって地域福祉とはどのような意味を持つのか、基本的理念を踏まえて考察しましょう。
13	地域福祉と在宅福祉の現状と課題② (第7章)	在宅福祉サービスの現状と課題	知的障害者福祉における在宅福祉システムのあり方について、考察しましょう。
14	今後の知的障害者福祉の課題と展望① (第8章)	知的障害者福祉への視座	知的障害者福祉の基本的課題を整理し、説明できるようにしましょう。
15	今後の知的障害者福祉の課題と展望② (第8章)	知的障害者福祉の展望	知的障害者の視点から今何が必要なのかを考え、ケアマネジメント実施に結びつけていきましょう。

■レポート課題

1 単位め	知的障害者福祉支援の歴史的変遷を述べながら、今後の施設福祉の役割と機能について考察しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

知的障害者福祉論を学習する際、過去に知的障害者が社会的にどのような社会福祉支援を受けてきたかを歴史的に学ぶことが大切です。とくに、「施設福祉」と「在宅福祉」との相互関係について理論的に明らかにすることが重要です。現在、知的障害者への社会的理解が深まるとともに、知的障害者も可能な限り地域社会において人々と生活すべきであるとするノーマライゼーションが謳われるようになり、これまでの施設中心主義的施策から、知的障害者福祉を一人ひとりの個人としてとらえ地域社会で独立的に生きることを基本にすえて、普通に暮らせる社会の実現に向けた社会的資源の整備の確立を目指した施策が展開されています。しかしながら、こうした知的障害者に対する制度や福祉サービスメニューおよび施策が体系的に整備されているなかで、現実に施設や地域社会で生活している知的障害者の日常生活の実態からすると「普通の生活」を送るための諸条件が十分に整備されていないことを考慮しながら学習することも大切です。

なお、レポート作成を行う際は、次の基本的な視点をふまえながら、レポートを仕上げてください。

- (1) 知的障害者福祉論は、客観的・実証的な枠組みに基づいて構成されています。したがって、レポート課題を作成するにあたっては、知的障害者の人生にとって「普通の生活」の確立は単なるスローガンで終わるのではなく、希望に満ちた輝かしい福祉社会のなかで達成することが可能かをさまざまな視点から考察してレポートを作成してください。
- (2) 知的障害者の施設は、働く職員にとっては職場であっても、知的障害者にとっては暮らしの場であり、生きる生活の拠点であることを考えながらレポートを作成することが大切です。
- (3) レポートの作成にあたっては、単にテキストを読んで理解した内容をそのまま書くのではなく、知的障害者の日常生活で起きているさまざまな問題点を取り上げながらまとめることが重要です。たとえテキストの記述内容とは異なったレポートの内容であったとしても、そのレポートの内容が十分な分析と考察が行われていれば、評価もそれだけ高くなります。

1 単位め アドバイス

テキストの第1章から第5章（旧テキストの第1章から第4章）までをよく読み、知的障害者福祉の基本的な理解に努め、さらには、知的障害者が過去において社会的不利益および劣等処遇に対する苦難と闘いの時代であった歴史的背景と事実を整理しながらレポート課題に取り組んでください。

とくに、「社会福祉基礎構造改革」の一環として新たに施行された社会福祉法は、(1)利用者の立場にたった社会福祉制度の構築、(2)サービスの質の向上、(3)社会福祉事業の充実・活性化、(4)地域福祉の推進の4点を主要な方向性として法改正したものです。

この改正は、知的障害者福祉法の事項にも大きく反映される結果となりました。知的障害者の福祉サービスの充実を図る目的として改正された主な要点は、①福祉サービスの利用制度化、②市町村における知的障害者に対する福祉に関する必要な情報提供と相談・指導、③サービスの質の確保と利用者の権利擁護、④サービスに関する第三者評価・苦情解決体制の整備、⑤知的障害者福祉に関する事務の市町村への委譲などがあげられます。こうした内容によって、これまでの制度や福祉サービスメニューの内容が一層強化・拡充されましたが、難問も山積しているのも事実です。とくに、利用者である知的障害者と対等な関係にある施設関係者にとって、はたして法改正で示した内容を知的障害者に普遍的にサービスを提供できるかが大きな課題となります。

こうした社会的状況を的確に把握しながら、施設福祉の役割と機能について考察して、簡潔に述べてください。

2 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 出題問題をきちんと理解しているか。
- 2) 現代社会に生起する社会問題の背景がきちんと整理されているか。
- 3) 重要な社会学用語や概念を用いながら適切に答えているか。
- 4) 論述の分量も評価対象となる（文脈も大切にしてください）。

(注)

2012年には「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」に改正されました。その他、障害者福祉関連法規の内容は毎年のように改正されています。法規の改正を、自身で最新の社会福祉六法やインターネットで調べていただければと思います。

発達障害者の理解と支援

科目コード

DD3161・
DD3168



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(講義)	2年以上	黄 淵熙

※2017年度以降に履修登録をし、2019年3月まで単位未修得の方は、2019年度よりレポート課題が2課題に変更されています。単位未修得で論述式レポートに合格している方は、1単位めの客観式レポート課題に解答してください。

※上記にともない、2018年度までの単位修得者は科目コード「DD3168」に変更されました。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、発達障害のある人の認知的特徴および心理的問題を理解し、それに対する対応について学習します。

【スクーリングで学ぶ内容】 スクーリングでは、発達障害の定義および学習障害(LD)・注意欠陥/多動性障害(ADHD)・自閉スペクトラム症(ASD)の特徴に関して疑似体験等を通して体験的に理解します。また、障害別の対応方法についてグループ討論などを通して学習します。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】 教科書・レポート学習では、発達障害の分類および発達障害のある人が学校や社会で直面する問題に関して理解し、適切な対応法に関して学習していきます。

※この科目の担当教員は、発達支援の実務経験を有します。

■到達目標

- 1) 発達障害の種類とその特徴について説明することができる。
- 2) 発達障害の行動特性の根底にある認知特性について説明できる。
- 3) 発達障害のある児童・生徒の心理的特徴について述べるすることができる。
- 4) 発達障害のある児童・生徒に起こりうる2次障害について説明し、それを防ぐための方法について論じることができる。

■教科書

田中康雄監修『イラスト図解 発達障害の子どもの心と行動がわかる本』西東社、2014年
(スクーリング時の教科書) プリントを配付しそれに基づいて進めていきます。

スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。

■履修上の注意

「発達障害者の心理」(EG4733)の履修登録者は、履修登録できません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「アセスメント力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価60%

■参考図書

- 1) 主婦の友編『発達障害の子どもの心がわかる本』主婦の友社、2010年
- 2) 齋藤万比古著『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』学習研究社、2009年
- 3) 五十嵐一枝著『軽度発達障害児を育てる—ママと心理臨床家の4000日』北大路書房、2010年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達障害とは	発達障害の定義と種類
2	発達障害のある児童の心理・行動特性①	学習障害のある人の心理・行動特性
3	発達障害のある児童の心理・行動特性②	ADHDのある人の心理・行動特性
4	発達障害のある児童の心理・行動特性③	自閉スペクトラム症のある人の心理・行動特性
5	発達障害に対する支援①	学習困難に対する支援
6	発達障害に対する支援②	ワーキングメモリーの困難に対する支援
7	発達障害に対する支援③	行動の問題に対する支援
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。疑似体験や討論を行います。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%+スクーリング試験70%（持込は自筆ノートのみ可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って自分の見解をどれだけ論述できるかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

自分が関わっている事例もしくは参考図書に載っている事例を基に行動および心理的問題について考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

スクーリングで学習した概念に基づいて自分に関わっている事例を分析し、よりよい対応について考察してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	1章 発達障害とは	発達障害の概念を理解し、その種類について学ぶ。「発達障害スペクトラム」という考え方を理解する。 キーワード：発達障害、個性、発達障害スペクトラム	特別支援教育に関しては年々新しい知見が出て、それと関連する用語も変わっております。新しい用語を整理してみてください。
2	1章 発達障害の脳を理解しよう	発達障害の正確な原因は分かっていないですが、脳の機能を制御するネットワークに何らかの機能障害があると考えられている。発達障害と関連する脳の部位などについて知る。 キーワード：発達障害、脳、前頭前野	p.114のワーキングメモリの機能に関して脳機能と関連させて学習してください。
3	2章 子どもの気持ちと気になるサイン	発達障害の特徴から起因する子どもの独特の言動を理解し、その対応について考察する。 キーワード：子どもの気持ち、気になるサイン	子どもの気になるサインを発達障害の特性と関連付けて考えてみましょう。
4	2章 発達障害の診断	発達障害の可能性の気づきから相談、診断に至るまでの方法や家庭について理解する。 キーワード：気づき、相談機関、診断	発達障害の可能性があると気づいた際に相談できる医療機関及び地域の相談機関などについて理解を深めましょう。
5	3章 自閉スペクトラム症とは	自閉スペクトラム症の児童・生徒の特性及びその背景にある心の理論や感覚過敏などについて理解する。 キーワード：自閉スペクトラム症、対人関係、心の理論	心の理論課題への困難が実際の対人場面でどのような問題として表れやすいのか想像しながら学習してみましょう。
6	3章 自閉スペクトラム症のある子どもへの対応	自閉スペクトラム症の特徴を理解した上に関わり方のポイントを理解する。 キーワード：自閉スペクトラム症、関わり方	学校・家庭など場を想定し、自閉スペクトラム症のある児童・生徒の関わり方について学習してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	4章 ADHDとは	ADHDの概念及び特徴、診断基準について学ぶ。 キーワード：ADHD、不注意、多動性、衝動性	ADHDと関連する脳機能としてワーキングメモリについて正しく理解しましょう。
8	4章 ADHDのある子どもへの対応	ADHDの特徴を理解した上に関わり方のポイントを理解する。 キーワード：ADHD、かかわり方	実際の子どもの行動（例えば、席に座ってられないなど）を例として、対応について考えてみましょう。
9	5章 LDの特徴と関わり方	「読み・書き」の困難をもたらす要因について理解したうえで、困難の原因と対応した指導方法及び内容について理解する。 キーワード：LD、読み書き、聞く、話す	「聞く・話す」ことの困難の背景にある問題を理解し、問題別に異なった配慮が必要であることに気付くようにしましょう。
10	6章 療育とケア	TEACCH、感覚統合療法、ABAなどの基本を理解し、その療育方法を用いた子どもの行動の記述方法及び応用法について知る。 キーワード：TEACCH、感覚統合療法、応用行動分析	実際の子どもの行動を例として、各療育方法にもとづいた対応について考えてみましょう。
11	7章 家庭での支援	発達障害のある児童・生徒を持つ家庭での子どもとのかかわり方について具体的に知る。また、地域の人々との付き合い方、進学・就労に関して理解する。 キーワード：家庭での支援、子育て、進学、就労	発達障害のある子どもが不安を和らげ、穏やかに過ごせるように家庭でのかかわり方について具体的場面ごとに考えてみましょう。
12	参考図書2）2章2 家庭でできる二次障害への支援	発達障害のある児童・生徒を持つ家庭での子育ての悪循環を理解し、ペアレント・トレーニングプログラムの方法及び意義を理解する。 キーワード：子育て、悪循環、ペアレント・トレーニング	発達障害のある児童・生徒への支援の一つであるペアレント・トレーニングを理解し、ほめることを日常生活の中で練習してみてください。
13	参考図書2）2章1 学校ができる二次障害への支援	2次障害の発生メカニズムを理解し、学校における2次障害への悪循環への対応策について学ぶ。 キーワード：2次障害、発達障害、学校生活	事例を読んで自分であればどう対応したかについて考えてみましょう。
14	8章 保育所・幼稚園、小学校での支援	幼稚園・保育所において子どもの特性を理解し、特性にあった支援の仕方について理解する。 キーワード：幼稚園、保育所、特性理解、成功体験	指示の仕方及びほめ方などを具体的に考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	8章 保育所・幼稚園、小学校での支援	教室の構造化、スケジュールの構造化など通常学級でできる工夫について理解する。 キーワード：小学校、構造化	日ごろ発達障害のある児童が学校場面で遭遇する困難について考えてみて、具体的な支援の工夫について考察してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	「A君は小学校3年生で、読み書きがとても苦手です。特に、漢字が苦手ですどうしても覚えられなく、国語の時間にみんなの前で本を読むと笑われたりしないかすごく気になります。また、不注意なところがあって、テストではケアレスミスが多く、プリントやノートなどをなくすこともしばしばあります。家でもよく叱られているし、先生からは「できるはずなのにしない」と思われています。 <u>この事例に対して、心理的なサポートを含め、学校や家庭でどのような対応が必要であるのかを述べなさい。</u>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度履修登録者) 2019年度よりレポート課題が2課題に変更されました。単位未修得で2018年度に論述式レポートに合格している方は、1単位めの客観式レポート課題に解答してください。

■アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

事例の心理的困難について自分の考えを述べ、教科書の7章、8章を参考にして適切な対応について考察してください。

(注)

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」(ディーエスエム)と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5(ディーエスエム ファイブ)として発表されました。

DSM-5の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム(障害)」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

現在では、「自閉スペクトラム症」または「自閉症スペクトラム障害」が一般的な用語となっています。

ケアマネジメント論			科目コード	DD4124・ DD4196
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR(講義)	3年以上	高橋 誠一	



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※2015年度のスクーリングより、8コマ・スクーリング単位1単位に変更されています。

※科目コード DD4124 2013年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）

DD4196 上記以外の方（スクーリング単位1単位）

科目の概要

■科目の内容

ケアマネジメントは、1950年代アメリカで生まれたと言われていています。この時期、アメリカでは精神障害者が地域で暮らすようになってきましたが、適切な援助がないためにホームレスになるなど、必ずしも病院や施設より生活の質が向上したとは言えないことが明らかになってきました。その反省のもと、ケアや支援の継続性を確保するために、サービスを調整する役割が重要視されるようになりました。

60年代に入って、要介護高齢者の在宅支援の仕組みとして、ケアマネジメントが応用されるようになりました。その後、イギリスや多くの国でケアマネジメントが検討され、イギリスでは、全国的にケアマネジメントが導入されることになりました。日本でも、2000年から始まった介護保険の中でケアマネジメントが位置づけられました。また、障害の分野でもケアマネジメントは実質的に実施されています。さらに、児童虐待などの分野でも応用されています。このように、日本だけではなく世界的にさまざまな分野でケアマネジメントは注目されてきました。

ケアマネジメントは、歴史上アメリカから始まりました。しかし、ケアマネジメントという言葉は使われていませんが、日本の中では、60年代から保健・医療・福祉の連携の問題として、独自に発展してきています。また日本では、介護保険の中にケアマネジメントが位置づけられましたが、イギリスには介護保険はありません。このように、ケアマネジメントはさまざまな制度の違いにもかかわらず、いろいろな国で受け入れられてきました。

この科目では、ケアマネジメントのこのような広がりをもとに、ケアマネジメントとはなにか、なぜ必要とされているのか、どのように形作られ、運営されているのかを検討したいと思います。必ずしも、介護保険のケアマネジメントを解説することを目的とはしていませんが、講義の内容は高齢者のケアマネジメントが中心となります。しかし、障害の分野などのケアマネジメントと理論的には共通ですので、それらを理解するためにも役立ちます。

■到達目標

- 1) ケアマネジメントが必要とされた背景を説明できる。

- 2) 個別支援としてのケアマネジメントを説明できる。
- 3) ケアマネジメントのシステムを説明できる。
- 4) ストレングスモデルを説明できる。
- 5) ケアマネジメントの機能を理解し、実践できるようにする。
- 6) 事例に基づいてアセスメントとケアプランを作成できる。

■教科書

D.P. マクスリー著『ケースマネジメント入門』中央法規出版、1994年

(スクーリング時の教科書) 教科書『ケースマネジメント入門』を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「自他尊重的コミュニケーション力」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考文献

- 1) チャールズ・A. ラップ、リチャード・J. ゴスチャ著『ストレングスモデルーリカバリー志向の精神保健福祉サービス』金剛出版、2014年
- 2) 太田貞司・國光登志子編『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning 10』みらい、2007年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ケアマネジメントというと介護保険のケアマネジメントがよく知られているが、より広く、なぜケアマネジメントが必要とされるようになったのか、ケアマネジメントの目標と焦点とは何か、ケアマネジメントの機能とは何か、基本的な考え方と具体的な実践方法はどのようなものか、どのようにさまざまな分野で活用されているのかを理解する。とくに、ケアマネジメントにおけるストレングスモデルの意義についても、理解を深めたい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ケアマネジメントの基本	ケアマネジメントの定義、目標、歴史、焦点、実践機能
2	アセスメント	ニーズアセスメント、包括的アセスメント
3	ケアプラン	ケアプランの構造と展開過程
4	直接サービス	利用者の主体的判断の尊重、ケアマネジャーの役割

回数	テーマ	内容
5	間接サービス	仲介、連結、調整、権利擁護、ネットワーク構築、コンサルテーション
6	モニタリング	モニタリングの機能と過程
7	評価	評価の役割と方法
8	質疑応答	補足とまとめ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■参考図書

ラップ、ゴスチャ著『ストレングスマodelーリカバリー志向の精神保健福祉サービス』金剛出版、2014年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ケアマネジメントの基本的理解（第1章）	1. ケアマネジメントの定義 2. ケアマネジメントの目標 3. ケアマネジメントが必要になった主な理由を理解する。 教科書の「ケースマネジメント」は「ケアマネジメント」に置き換える。	1. ケアマネジャーは、利用者のために何をしようとしているのか？ 2. サービス調整における「利用者の立場」としてのケアマネジメントとは、何を意味しているのか？ 3. サービス調整とは何を意味しているのか？ 4. 「機関を超えた」ケアの継続性と、「一貫した」ケアの継続性とは、どのように異なるのか？ 5. どのような要因がケアマネジメントのニーズを生むのか？
2	ケアマネジメントの基本的枠組み（第1章）	1. ケアマネジメントの焦点 2. ケアマネジメント実践の機能を理解する。	1. ケアマネジャーが「境の橋渡し」と呼ばれるのはなぜか？ 2. 利用者の支援ネットワークにかかわる3つの構成要素とは何か？ 3. ケアマネジャーの実用的な5つの機能とは何か？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	ニーズの アセスメント (第2章)	<p>ケアマネジャーが行う一般的なニーズ・アセスメントの戦略を見定め、この一連の方法の一般的な特性を理解する。</p> <p>キーワード：ニーズ、包括的、多分野協働、利用者の参加、利用者の自己決定、「学習された無力感」、プロセス、ダイナミック、見直し、システム、フォーマル、体系的、記録</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントという概念が示すものは何か？ 2. 利用者ニーズをアセスメントすることが、ケアマネジメントの重要な機能であることはなぜか？ 3. ニーズのアセスメントが力動的といわれるのはなぜか？ 4. ニーズのアセスメントに関する鍵となる7つの特性とは何か？ 5. ケアマネジャーは、どのように利用者をアセスメント過程に参画させられるのか？
4	生活の包括的 アセスメント (第2章)	<p>アセスメントの焦点として、利用者のニーズを見定める方法を理解する。</p> <p>キーワード：収入、住宅／居住施設、就労／職業的活動、身体的健康、精神的健康、社会資源、対人関係、レクリエーション、レジャー、余暇、日常生活活動、交通手段、法律、権利擁護、教育</p>	<p>ケアマネジャーがアセスメントする主要なニーズとは何か？</p>
5	充足主体の アセスメントと 情報の整理 (第2章)	<p>自己ケア、相互ケア、専門的ケアに関する資源のアセスメントを検討することによって、この一連のアセスメントの戦略を理解する。</p> <p>キーワード：リソース・マトリックス</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジャーは、どのように利用者の自己ケアをアセスメントするのか？ 2. ケアマネジャーは、どのように利用者 に有効な相互ケアの資源をアセスメント するのか？ 3. ケアマネジャーがアセスメントしよう とする社会的支援の主要な形態は何か？ 4. ケアマネジャーは、どのように専門的 ケアの資源をアセスメントするのか？ 5. ケアマネジメントのアセスメントの過 程において、資源一覧表は、どのような働 きをするのか？
6	ケアプランの 重要性と機能 (第3章)	<p>ケアマネジメントにおける、利用者へのサービス支援計画の重要性を理解する。</p> <p>キーワード：作業計画と分担、利用者の支援ネットワーク、直接参加性、責任性、指針、評価可能性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者へのサービス支援計画とは何か？ 2. 過程と結果の双方を含む利用者へのサービス支援計画とは、何を意味するのか？ 3. 利用者へのサービス支援計画の重要性を示す5つの特徴とは何か？ 4. 計画の過程が直接参加によるものであるのはなぜか？またその過程に参加しているのは誰か？ 5. 利用者へのサービス支援計画は、どのようにして手引きとして役立つのか？ 6. 評価可能性とは何を意味し、またこの概念は利用者へのサービス支援計画にどのように関連しているのか？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	ケアプランの構造 (第3章)	利用者へのサービス支援計画における、構造上の主要な構成要素を明確にすることを理解する。 キーワード：ニーズの領域、影響の大きな目標、サービス支援と小目標、実行者と実施活動、期待される変化	利用者へのサービス支援計画の6つの主要な構成要素とは何か？また、構成要素それぞれの重要性は何か？
8	ケアプランの展開過程 (第3章)	サービス支援計画の展開過程を理解する。 キーワード：多分野協働チーム、利用者と社会的ネットワーク、利用者の養護者の参加	利用者へのサービス支援計画の展開において、多分野協働チームという方法の役割は何か？
9	直接サービスの機能 主体的判断の尊重 (第4章)	利用者が率先してケアマネジメントの機能と課題を引き受けられるように、主体的判断を促すことの重要性を検討し、ケアマネジメントの直接サービス機能の概念的な枠組みを理解する。	1. 利用者の主体的判断が、ケアマネジメントの直接サービス機能の重要な結果であることはなぜか？ 2. ケアマネジャーが、利用者の主体的判断を促す4つの基盤とは何か？ 3. 援助過程における重要な3つの次元とは何か？
10	直接サービスの役割 (第4章)	ケアマネジャーの直接サービスにおける、6つの役割を検討して見定めることを学び理解する。 キーワード：代行者、危機的、教師・指導者、案内者・同行者、変換者、広報専門職、支持者	1. ケアマネジャーによる、直接サービスの6つの役割とは何か？ 2. ケアマネジャーは、直接サービスのそれぞれの役割をどのように行うのか？
11	間接サービスの機能と戦略 (仲介、連結、調整) (第5章)	間接サービス4つの視点 間接サービス戦略 利用者ニーズにあった仲介サービス。利用者をサービスや資源に結びつける。 利用者へのサービス供給を調整する。 以上を理解する。	1. ケアマネジメント実践における間接サービスの役割とは何か？ 2. ケアマネジャーが用いる6つの間接サービス戦略とは何か？ 3. ケアマネジャーは、これらのサービス戦略をどのように用いるのか？ 4. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現する際に、個人的な、さらには専門職としての影響力をどのように利用するのか？ 5. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現するために、圧力や葛藤を伴う戦略をどのように用いるのか？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	間接サービスの戦略（権利擁護、ネットワーク構築、コンサルテーション）（第5章）	間接サービス戦略 利用者の権利を擁護する。 信頼性のある社会的ネットワークを構築する。 技術支援とコンサルテーションを提供する。 以上を理解する。	1. ケアマネジャーは、これらのサービス戦略をどのように用いるのか？ 2. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現する際に、個人的な、さらには専門職としての影響力をどのように利用するのか？ 3. ケアマネジャーは、利用者へのサービスを組織し実現するために、圧力や葛藤を伴う戦略をどのように用いるのか？
13	モニタリング機能と過程（第6章）	1. ケアマネジメント実践において、モニタリングが果たす役割を見定めること。 2. モニタリングに関係する4つの次元を見定めること。 3. それぞれの実践状況にあわせて、ケアマネジャーが使い分ける2種類のモニタリングについて説明すること。 4. モニタリングの機能をひとつの枠組みを使って述べ、その枠組みにおけるモニタリングの流れについて論じること。 以上を理解する。	1. ケアマネジメント実践において、サービスと支援のモニタリングの役割とは何か？ 2. サービスと支援のモニタリングの4つの次元とは何か？ 3. ケアマネジャーは、サービスと支援のモニタリングにおいて、どのようにしてインフォーマルで質的なアプローチを利用するのか？ 4. ケアマネジャーは、サービスと支援のモニタリングにおいて、どのようにしてフォーマルで量的なアプローチを利用するのか？ 5. サービスと支援のモニタリングに際して、ケアマネジャーが用いる主要な手立てとは何か？
14	評価機能（第7章）	1. ケアマネジメント実践における評価の役割を見定めること。 2. ケアマネジャーによって展開され遂行されたサービスと支援の意義を評価する4つの方法について詳述すること。 3. ケアマネジメント評価の主な方法を遂行する上で、それぞれの主要な段階を検討すること。 以上を理解する。	1. ケアマネジメント実践において、評価はどのように定義されるだろうか？ 2. ケアマネジメント実践において、評価の果たす役割とは何か？ 3. 評価に関する鍵となる4つの設問と、それらを導く方法とは何か？ 4. 影響の大きな目標の達成を評価するための、計画策定における主要な段階とは何か？ 5. 機能の評価において、社会的役割遂行による方法と課題設定法との違いは何か？ 6. 利用者へのサービスと支援の計画が評価対象となるのはなぜか？ 7. 利用者の満足度を評価することが、ケアマネジメントの価値を測定する適切な方法であるのはなぜか？

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	効果的なケアマネジメント：実践の指針（第8章）	ケアマネジメント実践に関する6つの指針 1. 「利用者の立場」に立って動く。 2. 体系的な視点をつらぬく。 3. 管理者的な手順と技能を使う。 4. 臨床家的な手順と技能を使う。 5. 最終責任者としての役割がある。 6. サービスの供給を統合する。 以上を理解する。	1. ケアマネジャーという役割が葛藤を経験するかもしれないのはなぜか？ 2. ケアマネジメント実践における6つの指針とは何か？ 3. ケアマネジャーが体系的視点を守るのはなぜか？ ケアマネジャーであるあなたの仕事の中で、その視点をどのように守っているか？ 4. ケアマネジャーであるあなたの仕事の中で、臨床的な技能や管理的な技能をどのように用いているか？ 5. 責任の2つの側面とは何か？ 6. サービスの統合がケアマネジメントの重要な成果となるのはなぜか？

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	ケアマネジメントにおける直接サービス機能と間接サービス機能についてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。
4 単位め	ケアマネジメントにおけるモニタリング、評価についてそれぞれの意味、特徴、必要性、役割を説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

ケアマネジメントは、対人（個別）援助技術として見ることができます。その視点からは、評価（アセスメント）と援助計画（ケアプラン）が中心的な役割を果たしますが、マネジメントとしてのプロセスを理解することが重要です。一方、システムとして、ケアマネジメントを理解することもできます。この視点からは、ケアマネジメントの制度設計が重要な問題となります。この2つの視点は、ケアマネジメントを理解する上でともに重要であり、個別支援かシステムかといった二者択一の問題ではありません。このことを念頭に置いて、ケアマネジメントを理解してください。

*テキストでは、「ケースマネジメント」となっていますが、「ケアマネジメント」と読み替えてください。

ケアマネジメントがなぜ必要になるのかを考えるには、ケアマネジメントが歴史上在宅支援の必要性から生まれたことを理解する必要があります。施設介護と在宅介護の違いは何でしょうか。いろいろな側面から検討できますが、ケアマネジメントの視点から見てみるのが重要です。ケアマネジメ

ントは、それ自身が目的であるというよりは、手段にすぎません。それはマネジメントという言葉が示しているように、何かを達成するための仕組みと考えることができます。それでは、どのような目的、あるいは目標が考えられるのでしょうか。ケアマネジメントは2つの視点から見ることを理解していただきたいと書きましたが、実は、それぞれに応じて、利用者指向目標、システム指向目標の2つに大きく分けることができます。これらの目標はときとして競合する場合があります。ケアマネジメントは、実践の中から生まれてきたので、現実に要求されるさまざまな目標をバランスさせる宿命を持っているといえます。特に、(社会)資源の効果的な使用の面から、ケアマネジメントは注目されてきた経緯があります。これらのことを念頭に置いて、課題を考えてください。

1・2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め
アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第4章直接サービス機能、第5章間接サービス機能の部分が対応します。順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

4単位め
アドバイス

テキスト『ケースマネジメント入門』の第6章モニタリング、第7章評価の部分が対応します。順番に、それぞれの意味と特徴、必要性、役割を説明してください。

科目修了試験

■評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。

NPO論			科目コード	DE2113
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	金 政信	



科目の概要

■科目の内容

地域福祉の諸活動、とりわけボランティア活動が重要な役割を果たす事が実際に証明された阪神淡路大震災（1995年）を契機として、一般市民による非営利活動が活発化し急速な発展とともに重要性が認識されたのです。

そのような動きの中、市民による自発的な活動を支える仕組みとして非営利活動促進法（NPO法）が成立（1995年）し、民間非営利組織であるNPO（Non-Profit Organization）と呼ばれる事業体が、福祉・医療分野、子ども教育、環境問題、地域づくり、国際交流・協力など様々な分野で活動の枠を広げています。

最近では、東日本大震災（2011年）においても、多くのボランティアやNPOが災害復興支援にとって欠かせないものとなりました。

本科目では、主としてNPOの制度や活動、マネジメントについて総合的に学習してみましょう。内容としては、①我が国のNPOの役割や位置づけ、組織としての制度や活動のあり方やミッションとガバナンスの関係について学習しましょう（テキストの第1～3章）。そして、②マネジメントについて、より深く人的資源管理や経営戦略、パートナーシップおよび資金調達と評価について検討してみましょう（テキスト4章以下）。

■到達目標

- 1) NPOに関する基礎的知識を理解し、説明できる。
- 2) NPOの様々な分野での活動を理解し、実態が把握できる。
- 3) NPOへの興味と理解を深めつつ内容を説明できる。
- 4) NPOについてグループワークやディスカッションができる。

■教科書

田尾雅夫・吉田憲彦著『非営利組織論』有斐閣、2009年

（最近の教科書変更時期）2010年4月

（スクーリング時の教科書）資料配付しますが、上記教科書も使用しますので持参ください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「社会への関心と理解」「社会貢献力」「基礎的知識」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

雨森孝悦『テキストブック NPO』東洋経済新聞社、2012年

田尾雅夫・川野祐二『ボランティア・NPOの組織論』学陽書房、2004年

乙武洋匡・佐藤大吾『初歩的な疑問から答える NPOの教科書』日経BP社、2015年

社会福祉法人大阪ボランティア協会『テキスト市民活動論』社会福祉法人大阪ボランティア協会、2011年

島田恒『NPOという生き方』PHP新書、2005年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

今、我が国の民間非営利組織（NPO）は、福祉・医療分野、子ども教育、環境問題、地域づくり、国際交流・協力など様々な分野で活動の枠を広げ、各地域での重要性が高まっています。NPOの活動が活発な分野や地域は光り輝いていると言ってもよいでしょう。

ところで、このNPOとは一体いかなる団体や組織なのでしょう。また、何を行っているのでしょうか。言葉としてはよく耳にしますが、よくわからない、あるいは不明な点も多いと思います。

そこで本講座では、我が国におけるNPOの位置づけや役割、活動を支える制度の実態や、様々な分野での活動内容の実像や実態を把握、検討することで、NPOに対する自分の意見や考えをきちんと述べられるようにすることとNPOへの関心を深めることを目指します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ボランティアについて	活動の概念、NPOとの違いなど
2	NPOの概念、生成と発展、NPOセクターの形成と構造	NPOとは、NPOとNGO、市民事業体として、沿革と規模、セクターの形成と構造など
3	NPOの形態（種別）、NPOの事業分野	事業分野、規模、経営や組織の性格等からの類型化など、特に福祉NPOについて理解を深める
4	NPOの組織および管理の特徴	組織的特徴、経営管理的特徴など
5	NPOの財務と資金調達、NPOの顧客とマーケティング NPOと企業	財務報告、収入源、顧客、マーケティング、フィランソロピーやメセナについて、企業の社会貢献活動など
6	NPOのマネジメント	マネジメントとはなにか、NPOのマネジメントの特徴、NPOの評価など
7	最近のNPOをめぐる問題と課題	財務上の課題、人材育成、悪質NPOの排除、連携など
8	まとめ	講義全体のまとめ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%で評価する。

到達目標に記載の内容について評価を含める。試験では単なる知識ではなく、試験テーマに沿って自分自身の見解がどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『レポート課題集』記載の「在宅学習15のポイント」にそって事前学習として教科書を読み、スクーリングに臨んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	非営利組織の定義 (第1章)	ボランティアとNPO法人、NGOの違いを理解する。 キーワード：ボランティア、非営利組織(NPO:Non-Profit Organization)、ミッション(使命)、非政府組織(NGO:Non-governmental Organization)など	広義と狭義の非営利組織の範囲と、所有と目的による組織の類型(私企業、公企業、非営利組織、行政機関)に沿った事業内容を学びましょう。
2	役割 (第1章)	非営利組織の存在理由を経済学の側面から理解する。非営利組織の役割を理解する。 キーワード：主体的・積極的、多様性、自発性、先駆性、柔軟性、法人、法人機関、ガバナンス、セクター、中間支援組織(インフラストラクチャー組織)、ネットワークなど	経済学の理論を応用することで、非営利組織の存在理由を学びましょう。また、非営利組織の役割について、主体性、価値観、先駆性などの重要性を認識しながら、制度と仕組み、組織形態について学びましょう。
3	組織としてのありかた (第2章)	組織として立ちあげるための前提条件、成り立ち、ライフサイクル(起業～衰退)を理解する。社会的起業家であるアントレプレナーの役割の重要性を理解する。組織としての発展から成熟、そして限界を理解する。 キーワード：資源、ボランティア、ライフサイクル、起業家(アントレプレナー)、組織、ビューロクラシー、アソシエーションなど	非営利組織は、営利によって自らを支えることができないことが基本であり、ボランティアの心理のもと展開される組織の成り立ち、成長、発展、成熟、そして限界までを組織のライフサイクルに沿って学びましょう。また、組織に必要な資源とはどのようなものなのか、その調達方法やアントレプレナーの役割について学びましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	組織の特異性とガバナンス (第3章)	<p>サービス組織としての不可視性や不可触性と、企業組織のモデルでは適切に認識できない特異性について理解を深める。また、特異な仕組みを誰が支え、責任を持ってマネジメントしているかを考える上で重要となるガバナンスについて理解する。</p> <p>キーワード：不可視、不可触、メーソンの非営利組織の特徴、(コーポレート)ガバナンス、合理性など</p>	<p>非営利組織は概してサービス提供の組織であることが多い。サービス組織としての特異性を、ボランティア、企業組織との違い、ガバナンスの理念を考え整理しましょう。</p>
5	ミッション (第3章)	<p>非営利組織としてのミッション (使命) の役割を、理解する。ビジョンとミッションの関係 (相違) を理解する。ミッションの変容を理解する。ミッションにおけるボードの役割 (機能) を理解する。</p> <p>キーワード：ドラッカー、ミッション (使命)、ビジョン、メタミッション、ボード、ハーマンなど</p>	<p>非営利組織はガバナンスの所在を明示し、それに方向付けを加えて合理性の達成に結びつけるものです。ここでは、達成のための目標、方向性についてミッションとビジョンとの関係、変容、そして、非営利組織の組織化やミッション達成のために重要となるボードの構築と機能について学びましょう。</p>
6	管理の構造 (第4章)	<p>非営利組織に適合的な仕組みについて理解を深める。</p> <p>キーワード：ビューロクラシー、アドホクラシー、適合、営利組織、競合など</p>	<p>非営利組織に適合的であるアドホクラシーについて、ビューロクラシーと対比しながら学びましょう。また、営利企業との相違点や競合についても学びを深めましょう。</p>
7	マネジメント (第4章)	<p>非営利組織のマネジメントの特異性について理解を深める。そのため、マネジメントの工夫、ミッションの周知徹底、イデオロギー、マネジメントをコントロールする上で欠かせない、意思決定、コミュニケーション、ネットワークの構築などの理解を深める。</p> <p>キーワード：工夫、周知徹底、イデオロギー、意思決定、コミュニケーション、ネットワーク、など</p>	<p>非営利組織では、マネジメントに様々な工夫が行われています。目的・目標、個人的色彩、意思決定、コミュニケーション、ネットワークの構築などと関連づけながら学びましょう。</p>
8	管理と会計 (第4章)	<p>人的資源の育成と管理、リーダーシップの必要性や役割などについての理解を深める。また、非営利組織における会計情報の役割についての理解を深める。</p> <p>キーワード：人的資源、管理、リーダーシップ、現場、組織均衡、主体性など</p>	<p>人的資源、資質・能力の向上など、特に人的資源の活用方法や、リーダーシップについて整理しをておきましょう。また、会計情報は、利益が目的の企業にとっては、数字が示す利益が業績の尺度となるが、利益を目的としない非営利組織では業績の尺度も多様である事を理解し学びましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	組織と環境 (第5章)	<p>組織は、外部から必要な資源を取込んだり、逆に、外部と関係を持ちながら存続している。その際、重要となるのが組織の環境である。内部環境、環境適応、環境認識の変化に着目しながら理解を深める。</p> <p>キーワード：経営資源（人、もの、金、情報）、外部要因、組織の環境、内部環境、環境適応、環境認識の変化</p>	<p>組織を構成している最も基本的な構成要素は人である。この事を踏まえつつ、他の資源である、もの、金、情報をいかに組織に取込み目的を達成するのか、その為には、組織にとってのそれらの資源を獲得する為の外部要因たる、組織の環境とはどのようなものなのかを意識しながら学びましょう。</p>
10	特徴 (第5章)	<p>非営利組織と行政組織、営利組織である企業とそれぞれ対比し、非営利組織の特徴を、特にマネジメントの視点から理解を深める。</p> <p>キーワード：ミッション（使命）、経営資源（人、もの、金、情報）、尺度（業績）、サービスの受け手と払い手、クライアント、資源ソース、3つのベクトル（ミッション、政府による調整、組織の慣性）など</p>	<p>営利を目的としない非営利組織が、継続的に事業を行うため、自力で経営する為には、そのマネジメントの特徴を整理し理解しておく必要があります。ここでは、行政組織、営利組織である企業とそれぞれ対比しながら、企業と顧客の交換関係や、非営利組織とクライアントの関係、非営利組織の資源ソースに着目しながら学びましょう。また、非営利組織の行動を規程する3つのベクトル（ミッション、政府による調整、組織の慣性）もきちんと整理しておきましょう。</p>
11	経営戦略 (第5章)	<p>一般的な組織の経営戦略の 패턴の具体的な内容や特徴についての理解を深める。また、非営利組織の中心的事業である人的サービス（ヒューマン・サービス）におけるネットワーク形成戦略や、組織戦略としてのネットワークの優位性についての理解を深める。</p> <p>キーワード：事業構造の戦略、競争戦略、強調戦略、人的サービス（ヒューマン・サービス）、ネットワーク、ネットワーク形成、SWOT分析、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）など</p>	<p>組織戦略である、事業構造の戦略、競争戦略、強調戦略の具体的な内容や特徴を理解しましょう。次に、非営利組織の中心的事業である人的サービス（ヒューマン・サービス）の諸組織間の相互補完に必要なネットワーク形成戦略について理解を深めましょう。更に、組織の競争優位性の視点から、どれだけ競争力のあるネットワークに参加できるかを左右する、SWOT分析（戦略策定の基本ステップ）を学びましょう。</p>
12	パートナーシップ (第6章)	<p>非営利組織が行う活動は、形が無いものが主であり、その機能も単一の組織だけでは十分に発揮されない事が多い。そのため、行政との連携、企業との関係が重要となる。ここでは、行政や企業などとのパートナーシップの構築についての理解を深める。</p> <p>キーワード：パートナーシップ、行政、民間、委託、アウトソーシング、指定管理者制度、住民参加、行政のスリム化、企業、一株主運動、社会的責任、競合、CSR活動、ステークホルダー、プラットフォームなど</p>	<p>非営利組織は社会との関係が、企業や行政よりも多様で深い事を理解しましょう。その事を学んだうえで、単一の組織だけでは最終的な目標をなかなか達成する事が出来ないことや、行政との連携（どのような連携が考えられるかなど）、企業との関係（社会的責任、競合、CSR活動、ステークホルダー、多様な主体の乗り入れが可能なプラットフォームとしての性質など）を学びましょう。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	資金調達 (第7章)	<p>非営利組織において、経営資源（人、もの、金、情報）はすべて自力で調達しなくてはならない。特定のミッション（使命）をもつ、非営利組織においては、組織の事業展開にも制限があり、また財務的な見返りもあまり見込めない。そのような中で、非営利組織はどのように、資金を調達し財源を確保しているのであろうか。組織を運営、維持するための資金調達についての理解を深める。</p> <p>キーワード：経営資源、財源、多様性、収益性事業、ファンド・レイジング（レーザー）、事業型財団、財源確保手段など</p>	<p>営利を目的としない組織ではあるが、あくまでも民間の組織です。よって組織を存続させる条件は、企業とほぼ同じであり、組織を運営、継続させるための資金調達も重要です。また、非営利組織では、組織としてふさわしい活動、体制、外部との関係、資金の獲得の仕方が常に問われていることを学んでください。資金調達のパターンや財源の多様性、確保のための活動や手段などについても学びましょう。</p>
14	評価 (第7章)	<p>非営利組織の評価について、多様な評価法と評価のフィードバックやプロセス、意義などについての理解を深める。</p> <p>キーワード：評価主体、評価目的、評価の類型（評価主体、評価情報利用者）、フィードバック、評価項目（組織の存在意義、正当性・合法性・適格性、事業存続性・事業効率性）、PDCA サイクル、プロセスなど</p>	<p>非営利組織の評価はとても重要ですが、全体を包括する評価概念や体系は、まだ整っていない現状にあります。この事を踏まえて、ここでは、評価の主体と目的、評価方の類型、評価の具体的項目、評価のフィードバック（振り返り、PDCA サイクル）、評価のプロセスなどについて学びましょう。</p>
15	将来像と課題 (第8章)	<p>公的に活用のできる資源（特に福祉・介護の場面）の調達が難しくなっている今日、資源として非営利組織の活用が喧伝されている。このような現状を踏まえて、改めて、非営利組織のマネジメントやボランティアのあり方を重視し、組織の将来像と課題を考える。</p> <p>キーワード：超高齢社会、組織クラスター、福祉 NPO、戦略、環境適合、変革、動態化、柔構造化、名声、現場、限界、人材など</p>	<p>少子高齢社会、特に超高齢社会を迎えた我が国にとって、これまで以上に非営利組織の活動の領域が広がり、また喧伝されている事に着目したうえで、マネジメントのこれからのあり方、組織の変革の必要性についての学びを深めましょう。また、組織の重要な資源である人（ボランティア）を今後どう活かし、育んで行くかという点についても着目してください。</p>

■レポート課題

1 単位め	NPO とはなにか。非営利組織としての、組織のあり方や特徴を整理するとともに、NPO のミッション（使命）について自分の考えも交えながら検討してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

基本的にはNPOという組織の特性を営利組織（企業）と比較しながら、きちんと理解することが重要です。また、その場合、現実面に即した理解、把握が肝要です。

2 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

「在宅学習15のポイント」に沿っての学習の成果が修了試験に反映されているか。

福祉リスクマネジメント

科目コード

DE3143・
DE3162

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀



※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※2020年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更となります。

科目の概要

■科目の内容

措置制度から契約制度の移行により、利用者と施設側が対等な関係となり、利用者側の権利意識が高揚したため、これまで顕在化しにくかった福祉サービスにおける事故が多発し、福祉サービス提供者側に多様なリスクが表面化し始めました。福祉サービスにおけるリスクには、介護におけるリスク、障害者におけるリスク、保育におけるリスク、施設におけるリスク、在宅におけるリスクなどさまざまなリスクが存在します。このような現状の下で、福祉サービスにおける事故等に対して、適切な対応の確立と具体的な介護事故における問題解決への方策が急務といえます。本科目においては、施設におけるリスクの分析、つまり社会福祉施設における介護事故の裁判例の分析を通じて、事故を未然に防ぐという予防的側面と、事故が生じた場合の事後的な対応を個別具体的に検討し、介護施設側に介護事故に対する自覚を促し介護事故防止のための体制を構築することを目的とします。

■到達目標

- 1) 介護事故の現状について説明ができる。
- 2) 介護事故の裁判例の事案と判旨について解説ができる。
- 3) 介護事故の裁判例の事故後の対応について説明ができる。
- 4) 今後の介護事故の予防策について説明ができる。

■教科書

渡辺信英著『増補 介護事故裁判例から学ぶ福祉リスクマネジメント 高齢者施設編』南窓社、2016年（増補版でなくても可）

(最近の教科書変更時期) 2016年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書、または2012～2015年度配本の教科書：菅原好秀著『要保護的法主体像の理論構築』南窓社、2011年、または2011年度以前および2016年度配本の教科書：渡辺信英編『介護事故裁判例から学ぶ福祉リスクマネジメント 高齢者施設編』南窓社、2006年 のいずれかの所持で可。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

- 1) 菅原好秀著『要保護的法主体像の理論構築』南窓社、2011年
- 2) 志田民吉編著『福祉ライブラリ福祉法学』建帛社、2018年
- 3) 平田厚著『社会福祉法人・福祉施設のための実践リスクマネジメント』全国社会福祉協議会出版部、2002年
- 4) 増田雅暢・菊池馨実編『介護リスクマネジメント』旬報社、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

措置制度から契約制度の移行により、利用者と施設側が対等な関係となり、利用者側の権利意識が高揚したため、これまで顕在化しにくかった福祉サービスにおける事故が多発し、福祉サービス提供者側に多様なリスクが表面化し始めました。福祉サービスにおけるリスクには、介護におけるリスク、障害者におけるリスク、保育におけるリスク、施設におけるリスク、在宅におけるリスクなど様々なリスクが存在します。このような現状の下で、福祉サービスにおける事故等に対して、適切な対応の確立と具体的な介護事故における問題解決への方策が急務といえます。

講義では施設におけるリスクの分析、つまり社会福祉施設における介護事故の裁判例の分析を通じて、事故を未然に防ぐという予防的側面と、事故が生じた場合の事後的な対応を個別具体的に学んでいきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故	リスクの意義と介護事故の視点について学びます。
2	デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故	デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
3	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
4	老人保健施設における転落死亡事故	老人保健施設における転落死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
5	老人保健施設における誤嚥による死亡事故	老人保健施設における誤嚥による死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。

回数	テーマ	内容
6	利用者同士のトラブルによる転倒・骨折事故	利用者同士のトラブルによる転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
7	送迎中の転倒・骨折死亡事故	送迎中の転倒・骨折死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
8	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
9	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務による転倒・骨折事故	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。
10	介護事故裁判例が示した介護記録の書き方①	介護事故裁判例が示した介護記録の書き方について学びます。
11	介護事故裁判例が示した介護記録の書き方②	介護事故裁判例が示した介護記録の書き方を踏まえて、裁判にならない書き方について学びます。
12	まとめ	
13	スクーリング試験	

※上記12コマのスクーリングは2018年度の内容です。2020年度より8コマに変更されます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%＋スクーリング試験70%（教科書と自筆のノートのみ可）。試験では、とくに介護事故の裁判の判旨と今後の対応についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リスクと介護事故	リスクの意義と介護事故の視点について学びます。	リスクの意義をふまえて介護事故を分析する視点について説明できることが重要です。
2	介護老人保健施設入所者の骨折における裁判例	介護老人保健施設入所者の骨折における裁判例の事案と判旨について学びます。	介護老人保健施設入所者の骨折における裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
3	デイサービス利用中の行方不明による死亡事故	デイサービス利用中の行方不明による死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	デイサービス利用中の行方不明による死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
5	老人保健施設における誤嚥による死亡事故	老人保健施設における誤嚥による死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	老人保健施設における誤嚥による死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
6	特別養護老人ホームにおける誤嚥による介護事故	特別養護老人ホームにおける誤嚥による介護事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	特別養護老人ホームにおける誤嚥による介護事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
7	特別養護老人ホームに入所中の高齢男性が朝食中に食事をのどに詰まらせて窒息した事案につき損害賠償請求が棄却された事例	特別養護老人ホームに入所中の高齢男性が朝食中に食事をのどに詰まらせて窒息した事案につき損害賠償請求が棄却された事例の判旨について学びます。	特別養護老人ホームに入所中の高齢男性が朝食中に食事をのどに詰まらせて窒息した事案につき損害賠償請求が棄却された事例の判旨をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
8	特別養護老人ホームにおけるショートステイ中に発生した誤嚥事故	特別養護老人ホームにおけるショートステイ中に発生した誤嚥事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	特別養護老人ホームにおけるショートステイ中に発生した誤嚥事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
9	老人保健施設における全盲の利用者の転落死亡事故	老人保健施設における全盲の利用者の転落死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	老人保健施設における全盲の利用者の転落死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
10	送迎中の転倒・骨折死亡事故	送迎中の転倒・骨折死亡事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	送迎中の転倒・骨折死亡事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
11	利用者同士のトラブルによる転倒事故	利用者同士のトラブルによる転倒事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	利用者同士のトラブルによる転倒事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
12	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例の事案と判旨について学びます。	ボランティアの見守り義務違反による転倒・骨折事故の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
13	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務の裁判例の事案と判旨について学びます。	本人の介護拒絶と介護施設の安全配慮義務の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。
14	原告側が弁護士を解任し、本人訴訟で勝訴した医療過誤訴訟	原告側が弁護士を解任し、本人訴訟で勝訴した医療過誤訴訟の裁判例の事案と判旨について学びます。	原告側が弁護士を解任し、本人訴訟で勝訴した医療過誤訴訟の裁判例をふまえて今後の対応策について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	介護事故裁判例にみる裁判官の法的手法と意義	介護事故裁判例にみる裁判官の法的手法と意義について学びます。	介護事故の現状と課題について裁判官の法的手法について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	ケース1（教科書 p.6～[旧教科書* p.158～：①]）の「介護サービスの清掃義務違反に伴う利用者の転倒・骨折事故」の事案について、判例の見解に対してあなたの考えを論じてください。
2 単位め	ケース2（教科書 p.35～[旧教科書* p.164～：②]）の「デイサービス利用中の行方不明にかかる死亡事故」の事案について、判例の見解に対してあなたの考えを論じてください。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

*菅原好秀著『要保護的法主体像の理論構築』南窓社、2011年

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の3・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 本件事案の概要と判旨の視点を簡潔にまとめた上で、ケース3（教科書 p.49～[旧教科書 p.172～：③]）の「介護サービス中の見守り義務違反による転倒・骨折事故」の事案も参照しながら、あなたの考えを論じてください。

特に、介護記録の重要性、連携・協働のあり方、利用者・家族との信頼関係の構築、チームアプローチ、チームケアの構築を中心に、契約制度の視点から具体的に言及してください。

**2 単位め
アドバイス** 本件事案の概要と判旨の視点を簡潔にまとめた上で、ケース4（教科書 p.84～[旧教科書 p.231～：⑧]）の「老人保健施設における転落死亡事故」の事案も参照しながら、あなたの考えを論じてください。また、認知症による徘徊によって、介護事故が生じないように、施設側また家族がとりうる具体的な方法について、JR 東海認知症徘徊事件訴訟の判例の見解を踏まえながら自説を展開してください。

**3・4 単位め
アドバイス** 教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となる。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点から述べられていることも評価の対象となる。

福祉施設管理論

～2008

科目コード

DE4125

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	3年以上	高橋 誠一



※2008年度以前入学者に対して開設されている科目です。2009年度以降に入学した方は、履修することはできません。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉法人は社会福祉の中心的な担い手として、これまで以上の役割を期待されています。日本の社会にも、近年さまざまな格差が生まれるようになり、低所得者の社会問題など、これまでの社会福祉法人の取り組みがますます必要になる状況にあります。

しかし一方で、これまで社会福祉事業を中心とした福祉分野は、利用者を中心とした福祉サービスへとその提供のあり方が大きく変わってきました。その背景には、地域生活支援・自立生活支援ニーズが高まり、従来の福祉援助の仕組みでは対応が困難になってきたことがあげられます。その結果、福祉サービスの特質に配慮しながらも、増大する福祉サービスのニーズに応えるために、特定非営利活動法人（NPO）、民間企業、医療法人などさまざまな法人が事業所を運営して福祉サービスを提供できるように規制が緩和されてきました。

この科目では、社会福祉法人の福祉サービス経営について学んでいきますが、福祉サービス提供組織の多様性も念頭に入れ、共通する内容に重点を置きます。福祉サービス提供組織の存在理由は、利用者へのサービス提供にあります。利用者を中心とした福祉サービスは、利用者のニーズを理解し、本人や家族、地域の住民と協力して提供していくことが多いので、画一的ではない柔軟なサービス提供が求められます。経営者や管理者は、小規模な事業所以外では、直接利用者にサービスを提供することは多くありませんが、生活支援や介護、相談援助を行う職員を通して利用者に貢献しています。ですから、経営者や管理者は職員が働きやすい環境を作り、人材を育成し、必要な資源や組織環境を整えることが重要な仕事になります。そのためには、利用者中心の理念を明確にし、組織的な事業経営に取り組む必要があります。

■到達目標

- 1) 福祉サービス経営者としての法人の役割を説明できる。
- 2) 職員をサポートしリードしていく管理者の役割を理解し、説明できる。
- 3) 福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明できる。
- 4) 職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解し、説明できる。
- 5) 会計財務管理の基本を理解し、説明できる。
- 6) 経営学の基礎知識を理解し説明できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営（第5版）』中央法規出版、2017年（第5版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

教科書の文献欄をご覧ください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉サービスの特質を理解した上で、福祉サービスを提供する法人形態を営利、非営利を含め、多面的に理解する。福祉サービス提供組織として利用者をどのように支援していくのか、そのための組織のあり方を学ぶ。利用者に直接関わる職員、職員を支援する管理機能の役割を人事システム、労務管理の視点も含めて理解する。会計の仕組みを理解する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスと制度
2	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人一般、社会福祉法人、特定非営利活動法人、その他の組織や団体
3	福祉サービスの組織の基礎理論	戦略、事業計画
4	福祉サービスの経営の基礎理論	集団の力学、リーダーシップ、モチベーション
5	福祉サービスの管理運営の方法（サービス）	サービスマネジメント、サービスの質の評価
6	福祉サービスの管理運営の方法（人事等）	人事労務管理、人材育成
7	福祉サービスの管理運営の方法（会計等）	会計管理と財務管理
8	質疑応答	補足とまとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリング、ビデオ・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	福祉サービスにおける組織と経営①福祉サービスにおける組織・経営（第1章）	「サービス」「経営」といった用語がどのような意味で用いられているのかを押さえたうえで、福祉領域における「サービス」や「経営管理」の特徴を整理し、理解する。	1. 福祉サービスという言葉が使われるようになった背景は何か。 2. 福祉サービスの特徴は何か。
2	福祉サービスにおける組織と経営②福祉サービスと制度（第1章）	福祉サービスがどのような環境で、どのような手法を用いて展開されているのかを理解する。	1. 準市場は、一般の市場となりが違うのか。 2. 福祉サービスを提供する上で、倫理はなぜ重要なのか。
3	福祉サービスにかかわる組織や団体①法人とは、社会福祉法人（第2章）	1. 「法人」の存在意義について述べ、その基本形態について整理する。そして社会福祉に関連する法人にはどのようなものがあり、それぞれがどのような特徴をもっているのかを理解する。 2. 福祉サービスの提供にかかわる組織や団体に関して、それぞれの定義や役割を押さえるとともに、各機関の現状や課題について理解する。 3. 戦後、わが国の社会福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人について理解する。	1. 法人のメリットは何か。 2. ガバナンスとマネジメントの違いは何か。 3. 社会福祉法において社会福祉法人の役割はどのように考えられているか。
4	福祉サービスにかかわる組織や団体②特定非営利活動法人（第2章）	特定非営利活動促進法成立後わずか10年余りで4万6,300の団体が認証されるまでになった特定非営利活動法人について理解する。	1. 特定非営利活動法人が生まれた背景は何か。 2. 認証の仕組みはどのようなものか。
5	福祉サービスにかかわる組織や団体③その他の組織や団体（第2章）	医療法人、営利法人、公益法人、市民団体、協同組合（農協、生協）、自治会について、それぞれの特徴を理解する。	1. 医療法人の法人としての多様性を理解する。 2. 各法人の根拠法を理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論① 戦略、事業計画 (第3章)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営を学ぶ上で最低限必要となる基礎的な概念、理論について理解する。 2. 戦略について、その概念を整理したうえで経営戦略の策定プロセスを具体的に理解する。 3. 福祉サービスの戦略を考える際に参考となるいくつかの戦略論も理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉事業を行う上で、経営理念はどのような役割を果たすか。 2. 経営理念を実現するために、どのような仕組みや経営活動が考えられるか。
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論② 組織、管理運営の基礎理論 (第3章)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業計画の策定から実行、評価までを、順を追って理解する。 2. 福祉サービスを念頭におき、マクロ的な観点の組織論の主要な概念について理解する。 3. 管理の目的やその対象について整理し、次に、管理の手法として、PDCA サイクルを理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービスの質とは何か。 2. サービスの質を改善するためにどのような取り組みが考えられるか。
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論③ 集団の力学に関する基礎理論 (第3章)	集団力学の基本的な理論を理解する。	チームワークにおいてグループダイナミクスを考えることはなぜ重要なのか。
9	福祉サービスの組織と経営の基礎理論④ リーダーシップに関する基礎理論 (第3章)	リーダーシップの必要性和さまざまな理論を学び理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップとマネジメントはどう異なるのか。 2. なぜさまざまなリーダーシップ論があるのか。
10	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理①サービスマネジメント、サービスの質の評価 (第4章)	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの基本的な要素である「四つのP」を軸に、サービス管理に必要な基礎的な事項を整理し、 2. サービスの質の向上、利用者のサービス選択のために導入が進められている第三者評価等の「サービスの質」を評価する仕組みについて理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉サービスにおいて、なぜマーケティングが必要なのか。 2. 第三者評価、自己評価の違いは何か。
11	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理②苦情対応とリスクマネジメント (第4章)	福祉サービスの提供にあたってのリスクにはどのようなものがあるかを明らかにし、その対処法について具体的に理解する。	リスクに対する、事後的な対応だけでなく、事前の対応を考える必要性は何か。
12	福祉サービスの管理運営の方法①サービス管理③サービス提供のあり方の方向性 (第4章)	これまでの福祉サービス提供の問題点を指摘し、今後の福祉サービスのあり方について理解する。	いま求められている福祉サービスとはどのようなものか、それを実現する方法は何か。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	福祉サービスの管理運営の方法②人事・労務管理、人材育成(第5章)	1. 人事・労務管理について、一般理論ではなく福祉サービスの視点から学ぶ。 2. 具体的には、人材の確保と採用、配置と異動、給与等の待遇と福利厚生、人事考課、労務管理・労使関係管理といったテーマについて、それぞれ福祉の職場の特徴を踏まえて、その目的や内容を理解する。 3. 人材育成の意義と必要性、OJTやOFF-JT、SDSの手法を理解する。	1. 雇用する側、雇用される側それぞれの立場から、人事管理を考えると、どのような違いがあるか。 2. 福祉における人材確保の問題は何か、どのような施策や支援が行われているか。
14	福祉サービスの管理運営の方法③会計管理と財務管理(第6章)	企業とは異なる特殊な性格を有する社会福祉法人の財務管理の考え方を解説し、財務管理の基礎となる情報である財務諸表の概要とその見方・使い方を習得することを目的とする。	1. 基本的な財務諸表は何か 2. 貸借対照表と事業活動収支計算書の違いは何か。
15	福祉サービスの管理運営の方法④情報管理と戦略的広報(第7章)	超高齢社会の到来、高度情報社会の進展に伴い変革する福祉サービスのあり方を踏まえ、事業経営における情報の活用、利用者への情報開示、個人情報の保護、パブリック・リレーションズについて理解する。	個人情報保護と情報開示がなぜ必要とされるのか。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	利用者中心の福祉サービスの提供を実現するために必要と考えられることを述べよ。
3 単位め	職員が働きやすい事業所の運営について説明せよ。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス



教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。



利用者中心の福祉サービスとは何かを考えてください。利用者中心は利用者本位、利用者主体と呼ばれることもあります。利用者中心の福祉サービスを考えるために、そうではない場合、すなわち提供者中心の福祉サービスを考え、対比すると、はっきりすると思います。一般のサービスでは、消費者主権という言葉が使われますが、これは利用者中心と同じ

でしょうか。ここでは、直接サービスを提供する職員の立場だけでなく、福祉サービス提供組織の経営者の立場からも考えてください。どのような理念や事業経営が必要になるでしょうか。

3 単位め
アドバイス

職員が働きやすいとはどういうことでしょうか。職員の能力を発揮できる、やりがいがある、必要なスキルを身につけることができる、仕事を通して自分自身が成長できるということがあるでしょう。チームの一員として自分の役割を果たせることもあるでしょう。なによりも、利用者が必要とし、役立つ支援をできることが働きやすい職場となると思います。そのためには、経営者や管理者はどのように職員を支援していけばよいでしょうか。また、賃金やキャリアアップの仕組みがはっきりしていることなども重要です。

科目修了試験

■評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。

公衆衛生学			科目コード	DF3110
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R	2年以上	岩垣 穂大	

※2019年度より担当教員が変更になり、レポート課題も変更されています（教科書は変更なし）。

科目の概要

■科目の内容

公衆衛生学とは、環境衛生の改善、伝染病の予防、個人衛生についての教育、医療と看護サービスの組織化、生活水準を保障する社会制度の開発等を通して、共同社会の組織的な努力のもとに肉体的・精神的健康を目指す学問領域です。その中でも近年、生活習慣病の発病要因の疫学的解明と予防対策は急務の課題になっています。本科目では、公衆衛生学が扱う各分野の課題について広く学び、社会全体の健康増進、健康寿命の延長について考えます。

■到達目標

- 1) 公衆衛生の概要や健康管理に関する基本的な手法・政策について簡潔に説明することができる。
- 2) 疫学的な視点から国内外の健康・疾病状況を説明できる。
- 3) 主な生活習慣病とその予防（一次予防・二次予防・三次予防）について説明できる。
- 4) 地域の健康度向上に寄与する諸活動について興味・関心を持ち、公衆衛生的な課題について説明できる。

■教科書

鈴木庄亮・久道茂編『シンプル衛生公衆衛生学2018』南江堂、2018年（2018年度版でなくても可）
（最近の教科書変更時期） 2018年4月

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに、「他者への関心と理解」、「社会への関心と理解」、「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋科目修了試験50%

■参考図書

『国民衛生の動向（2018/2019）』一般財団法人厚生労働統計協会、2018年
 『基礎から学ぶ楽しい疫学第3版』医学書院、2014年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	衛生学・公衆衛生学序論(第1章)	衛生学・公衆衛生学、健康をめぐる、生活と健康、健康問題の変遷・公衆衛生と医療の歴史、公衆衛生活動生命倫理、保健医療福祉の倫理 キーワード：公衆衛生、健康	公衆衛生学、公衆衛生活動を理解する。生命倫理について考える。
2	保健統計(第2章)	健康の測定と健康指標、人口統計 キーワード：平均寿命、人口動態・動態統計、老年人口割合(高齢化率)	健康の指標について学び、平均寿命と死因について考える。統計調査の方法を学ぶ。
3	疫学①(第3章)	疫学とは、疫病の分類、疾病量の把握 キーワード：疫病	疫学と統計調査について学ぶ。
4	疫学②(第3章)	疫学の方法、因果関係の評価、介入研究 キーワード：記述疫学研究、横断研究、生態学的研究、コホート研究、症例対照研究	それぞれの研究方法について長所・短所を学び、適切な方法を選択できるようになる。
5	疾病予防と健康管理(第4章)	疾病リスクと予防医学、健康管理、健康増進 キーワード：一次予防、二次予防、三次予防、健康日本21(第2次)、QOL	予防医学、健康増進について学び、自らの生活習慣を見つめなおす。
6	主な疾患の予防(第5章)	感染症、循環器系の疾患の予防、生活習慣病、アレルギー疾患の予防、不慮の事故と自殺の防止 キーワード：感染症の成立、新興感染症、再興感染症、予防接種、脳血管疾患(脳卒中)、生活習慣病、脳卒中、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患	感染症成立の条件について学び、予防対策について考える。脳血管疾患のリスクと予防を考える。生活習慣病のリスク(特に喫煙・飲酒)と予防を考える。
7	環境保健(第6章)	生活環境の汚染問題、公害問題、環境のあり方について学ぶ キーワード：生態系、環境汚染、ADL	人間の環境が健康に及ぼす影響について学び、新たな問題に対しては、自ら考える姿勢を育てる。
8	地域保健と地域行政(第7章)	個人と地域との関係と、一人ひとりが健康になるための地域のあり方について キーワード：地域保健活動、保健所	地域保健活動と、保健所や市町村保健センターの役割について学ぶ。
9	母子保健(第8章)	母子保健対策、母子保健の現状と課題について キーワード：出生率、合計特殊出生率、少子化	日本の乳児死亡、妊産婦死亡、合計特殊出生率の年次推移について学び、少子化の原因と母子保健対策を考える。
10	学校保健(第9章)	学校保健とは何か キーワード：学校保健、健康教育、保健指導	学校保健について学び、子供の現状の理解を深める。
11	産業保健(第10章)	よりよい職業生活を送るには、法制度について キーワード：労働基準法、労働安全衛生法、職業病	勤労者保健について学び、労働災害や職業病などの健康障害に対する対策を考える。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
12	老人保健・福祉 (第11章)	老化とは、各種制度の目的、実際の動向と今後の課題 キーワード：老化、健康寿命、健康日本21（第2次）、高齢者医療制度、特定健診、介護保険	老化や加齢に伴う健康障害、高齢者医療制度や介護保険、介護予防について学ぶ。
13	精神保健 (第12章)	精神保健と心の働きの理解、精神の健康とは キーワード：精神保健、うつ病、統合失調症、PTSD	脳と心の働き、精神の健康について学び、精神保健、メンタルヘルスケアについて考える。
14	国際保健医療 (第13章)	国際保健について、国際交流 キーワード：WHO、ユニセフ	国際的な健康課題に対処する方法を学ぶ。
15	保健医療福祉の制度と法規（第14章）	保健医療行政、保険制度、医療制度、医療保険の仕組み、障害者福祉の仕組みについて キーワード：厚生労働省、保健所、医療保険、年金	保健医療福祉の概要を学ぶ。制度や法規を理解する。

■レポート課題（3・4単位め【説明型レポート】）

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	① 健康の定義について説明せよ。 ② 疫学の方法について説明せよ。 ③ 疾病予防の段階について、一次予防・二次予防・三次予防のそれぞれの特徴を説明せよ。 ④ がんの死亡と罹患状況について説明せよ。
4 単位め	① メタボリックシンドロームの定義・疫学・対策について説明せよ。 ② 地域包括ケアシステムについて説明せよ。 ③ 健康日本21（第二次）の目標について説明せよ。 ④ 近年の精神保健分野における課題について説明せよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

【注意】・レポート用紙の「課題」記載欄には「2019年度の課題に解答」と記載、「解答欄」には番号と問題を記入してから、解答してください。

・各問500字程度を目安に、各単位2,000字程度にまとめてください。

（2018年度以前履修登録者） 2019年4月よりレポート課題がすべて変更になりました。『レポート課題集 2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

臨床の医師が個人の健康を扱うのに対し、公衆衛生学では地域社会、もしくは人々の集合的な健康を対象にしています。研究によって得られたエビデンスを用いて、様々な健康福祉に関わる政策が作られています。そのように大きく社会を変える力になるのが公衆衛生学の醍醐味であり、面白さでもあります。現代はメディアやSNSの発達で、医療福祉の分野でも様々な情報があふれかえっています。それらの情報を批判的に正しく理解していくためには、公衆衛生学の知識が不可欠です。レポートを通して考え方や専門知識をしっかりと習得してください。

1・2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め
アドバイス

まず、健康の定義について、1947年のWHO憲章に定められたものを基準にまとめてみてください。さらに、1998年に新しい提案がなされていますが、どのような観点からどんな文言が追加されようとしたのでしょうか。

次に疫学研究についてまとめてください。疫学研究には様々な方法論があり、研究の目的や実現可能性によって使い分けられます。今回のレポートでは特に記述疫学研究、生態学的研究、コホート研究についてそれぞれ利点・欠点を簡潔にまとめてみてください。どんな場合にどの研究法を用いたらよいか考えてみてください。

次に、疾病予防についてまとめてください。疾病予防には、一次予防・二次予防・三次予防の3つの段階があります。それぞれのポイントについて簡潔にまとめてください。脳卒中、がん、エイズなどの具体例を用いて論じるとさらに理解が深まるかと思います。

最後は、がんの死亡と罹患状況についてまとめてみてください。男女別ではどのような部位への罹患が多いのでしょうか。また、がんは1981年と2016年のデータを比べると倍増していることがわかりますが、その原因は何でしょうか。さらに、「がん登録」についても説明してみてください。

4単位め
アドバイス

まず、日本におけるメタボリックシンドロームの定義についてまとめた後、疫学・対策についても簡潔にまとめてください。特定保健指導対象者はどのような判定でどのように階層化されるのでしょうか。

次に、地域包括ケアシステムとはどのような考え方でしょうか。また、その構成要素にはどのようなものがあるのでしょうか。地域包括支援センターの役割にも着目してみてください。

次に、第二次の健康日本21について、目標値をまとめてください。また、個人レベル、社会環境レベルではそれぞれどのような取り組みを行えば良いのでしょうか。

最後に、近年の精神保健分野における課題についてまとめてください。また、うつ病・統合失調症はそれぞれどのような特徴を持つのでしょうか。さらに、精神障害の患者数はどのような推移になっているのでしょうか。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 公衆衛生に関わる知識や研究方法が身についている。
- 2) レポートをまとめる中で学んだ知識が身についている。
- 3) 地域の公衆衛生に関わる課題を分析し、解決に向けた提言を述べるができる。

福祉用具と生活支援 (旧科目名:福祉機器論)			科目コード	DF3121・ DF3163
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR (講義)	2年以上	関川 伸哉	



※本科目は、「福祉機器論」から2014年度より「福祉用具と生活支援」に科目名を変更いたしました。

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

※2020年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更となります。

科目の概要

■科目の内容

福祉機器・福祉用具と聞いて、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。知られているようで、知られていないのが福祉機器（以下、福祉用具）であります。福祉用具とは、日常の便利な「道具」です。我々が生活の中で用いるハサミや包丁などと同様で決して特殊なものではありません。しかし、わが国では、福祉用具導入および使用には見えないバリアが存在するようです。

ここでは、福祉用具について理解するのではなく、ヒトと福祉用具の関係について考えていただきたいと思います。主役は、福祉用具ではなくヒトであることを十分に理解してください。利用者を理解することができなければ、福祉用具を理解することはできません。また、福祉サービスおよび各種公的制度の理解も欠かすことのできない項目です。本科目では、主に以下の内容について理解していただきたいと思います。

- (1) わが国の高齢化の背景と今後の動向を理解しながら、高齢者と福祉用具の関連性を多角的に考察する。
- (2) わが国の障害発生原因と今後の動向を理解しながら、障害者と福祉用具の関連性を多角的に考察する。
- (3) 福祉用具の歴史、定義、各種支給制度について総合的に理解し、わが国の今後の動向を考察する。
- (4) バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解する。
- (5) ヒトと機械の結び付きについて考える。
- (6) 高齢者と福祉用具①——介護保険制度から考える——
- (7) 高齢者と福祉用具②——介護負担の軽減を目指して——
- (8) 高齢者と福祉用具③——自立を目指して——
- (9) 福祉用具の選び方・使い方

■到達目標

- 1) わが国の超高齢者社会の現状と課題について説明することができる。
- 2) 何故、福祉用具が必要とされているかを説明することができる。
- 3) 今後必要となる専門性について説明することができる。

- 4) 福祉用具を必要としている人々について説明することができる。
- 5) “適合”の重要性について説明することができる。
- 6) 福祉用具を適合させるために必要となる知識と技術の基本について説明することができる。

■教科書

京極高宣・市川 洸共同監修『三訂 福祉用具の活用法』北隆館、2007年
 (最近の教科書変更時期) 2014年 4月

(スクーリング時の教科書) 教科書は、参考程度に使用します。当日、必要資料を配布します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

関川伸哉ほか『義肢装具総論』医歯薬出版株式会社、2008年
 社会福祉法人名古屋総合リハビリテーション事業団編『これで安心！買う前に読む福祉用具の選び方 福祉用具ハンドブック』大井企画、2002年
 東島弘子編著『福祉用具の安全活用法「ひやりはっと」から学ぶ』中央法規出版、2002年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	福祉用具等に関わる専門職の動向 (第1部)	ソーシャル・インクルージョンを基本理念とする中で、多職種連携をふまえた介護保険制度等の活用による高齢者支援と福祉用具の役割について理解する。 キーワード：福祉用具、高齢者、介護保険制度、住宅改修、多職種連携、ケアプラン、介護予防、など	福祉用具は、生活を支える重要な用具です。しかし、多くの方々が介護用品等のイメージを持たれています。自立支援の視点を中心に、二次的側面から介護者の負担軽減をふまえ、今後の福祉用具活用の方向性と課題について考えてみてください。
2	ケアプランと福祉用具の活用法 (第1部)	ケアプラン(介護支援計画)を作成する際に、必要となる基本事項とその中で福祉用具が果たす役割について理解する。 キーワード：ケアプラン、生活支援、訓練、人的介護、福祉用具選定、専門職、介護負担、導入時期、など	福祉用具は、生活の幅を広げ、利用者の自立(できる事を増やす)支援を促す道具です。個々の利用者の身体機能のみに着目するのではなく、生活をデザインする中で福祉用具が果たす役割について考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	ケアマネジメントと福祉用具 (第1部)	<p>ケアプランを検討する際には、はじめに利用者の生活全体を把握する中で“実現可能な生活をデザイン”することが大切です。ここでは、ケアプランと福祉用具を用いた生活改善の関係性を理解する。</p> <p>キーワード：ケアプラン、質の管理、サービス、福祉用具事業者、家屋内環境、オムツ、モニタリング、利用者ニーズ、製品特性、など</p>	<p>介護保険では、12項目の貸与及び5項目の購入の福祉用具があります。アセスメントからケアプラン作成の際に、福祉用具を効果的に活用するための導入方法について考えてみてください。</p>
4	介護保険の動向と福祉用具 (第1部)	<p>介護保険制度は、定期的な見直しが行われ課題の整理を行いながら改正されています。ここでは、介護保険制度の動向とその中で用いられる福祉用具の今後の課題と役割について理解する。</p> <p>キーワード：介護保険制度、介護報酬、福祉用具貸与、福祉用具利用者、福祉用具ガイドライン、情報開示、レンタル事業所、など</p>	<p>介護保険制度の動向を把握する中で、福祉用具のレンタル事業の質を如何にして担保しながら、利用者に適切な福祉用具の供給を可能にするかについて考えてみてください。</p>
5	排泄と福祉用具 (第2部)	<p>排泄ケアは人権にも関わる重要な項目です。排泄ケアを考える際には、利用者のアセスメントが欠かせません。ここでは、オムツ、パッド、ポータブルトイレ等の福祉用具導入の際のポイントについて理解する。</p> <p>キーワード：アセスメント、ADL、排泄ケア用具、自立、介護力軽減、オムツとパッド、スキンケア、ポータブルトイレ、など</p>	<p>介護力軽減が主体となったオムツやパットの導入は大変危険な選択です。アセスメントを通して、適切な排泄形態と福祉用具の選択について、事例等を通して多角的に考えてみてください。</p>
6	移動補助とベッド(特殊寝台) (第2部)	<p>この章で示すベッドとは、福祉用具としての特殊寝台です。特殊寝台を導入する目的は、単なる睡眠に関する事項ではなく、背臥位から座位・立位の一連の移動(動作)手段の確保と特殊寝台の関係性について理解する。</p> <p>キーワード：移動(動作)パターン、寝返り、起き上がり、座位、特殊寝台、3モータ、特殊寝台付属品、自立支援、高齢者の動作、など</p>	<p>高齢者のベッドは、単なる寝具ではなく自立支援の道具といえます。背臥位から起き上がり、立位にいたる一連の動作を考える中で、何故、特殊寝台が必要なのか?導入の意味について考えてみてください。</p>
7	褥瘡予防用具とベッド(特殊寝台) (第2部)	<p>人間は、生活の中で頻繁に姿勢を変えます。これは、一箇所(主に骨突起部)に圧がかかることによる身体負担の軽減(褥瘡発生予防)の目的としています。ここでは様々な褥瘡予防と福祉用具について理解する。</p> <p>キーワード：褥瘡発生部位、褥瘡発生原因、座位時の褥瘡予防、臥位時の褥瘡予防、移乗時の褥瘡予防、褥瘡予防用具、体圧分散寝具、など</p>	<p>身体機能が低下した高齢者や脊髄損傷等の障がい者にとって、褥瘡予防は生活全般に関わる重要事項です。ここでは褥瘡に関する基本事項および臥位(臥床)・座位・移乗時の褥瘡予防と福祉用具の関連性について考えてみてください。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	口腔ケアの実 際 (第2部)	<p>口腔ケアは、生活の中で自然の行われることが重要です。口腔内を清潔な状態に保つための器質的ケアと食べるための口腔内づくりを行う機能的ケアの双方について理解する。</p> <p>キーワード：口腔内状況、口腔ケアの方法、口腔ケアの役割、歯ブラシ、舌苔、洗口剤、器質的ケア、機能的ケア、嚥下、咀嚼、など</p>	<p>食事は、生活の中で楽しみの一つでもあり、生涯にわたり食事を自立するためには口腔ケアが重要です。ここでは口腔ケアの目的と、基本的な方法を学ぶ中で咀嚼・嚥下についてもあわせて考えてみてください。</p>
9	車いすと座位 姿勢 (第3部)	<p>高齢者の車いすは、単なる移動手段ではなく快適な座位の提供が重要です。また、適切な座位の提供が次の生活の拡大に繋がることを意識しながら、主に姿勢と車いす特性の双方について理解する。</p> <p>キーワード：高齢者の座位姿勢、座位保持能力、アジャスタブル（調整）機能、モジュール機能、車いすクッション、選定の基本、身体寸法、6輪型車いす、など</p>	<p>座位は、立位同様に抗重力動作であり、筋力を必要とする（がんばる必要がある）ものです。高齢に伴う身体機能の低下により、座位姿勢を保持することが困難な高齢者が増えています。ここで紹介される車いすは、かなり基本的なものばかりですが姿勢と車いすの関係について考えてみてください。</p>
10	福祉車両と電 動カート (第3部)	<p>超高齢社会を迎えたわが国では、年々福祉車両のニーズと開発が増えてきています。また、自分で操作可能な電動カートの普及も増えてきています。ここでは活動・参加の視点から上記用具導入の意味について理解する。</p> <p>キーワード：福祉車両の動向、低床バス、車いす、減税措置、自操式車両、使用環境、海外事情、電動カートの特徴、電動カートの種類、導入時の注意事項、など</p>	<p>福祉車両や電動カートの導入は、社会生活における活動・参加の促進に繋がるものです。将来的には、福祉車両が特別な車体でなくなるものと思われます。電動カートは、高齢者の身近な移動手段として広く使用されています。今後をふまえて身近な（生活）の視点で考えてみてください。</p>
11	介護リフト選 定と生活支援 (第3部)	<p>リフト（ホイスト）と吊り具の使用により、介護者及び要介護者の双方に大きなメリットがあります。リフト及び吊り具の種類と特徴を理解する中で、導入時のポイントと選定方法の基本について理解する。</p> <p>キーワード：リフトの種類、リフトの特徴、吊り具の種類、吊り具の選定、高齢者の身体特徴、目的別と吊り具の選定、移乗介護、車いす、入浴、安全性、など</p>	<p>移乗動作を支援するホイストと吊り具には、様々な種類があります。中でも吊り具の選定は、利用者の身体機能・寸法や使用目的により細かく分類されています。安全な移乗動作を形にするために、具体的なリフトと吊り具の導入方法について考えてみてください。</p>
12	介護リフト活 用ポイント (第3部)	<p>リフト（ホイスト）と吊り具の導入の際には、生活全般の把握が必要となります。また、特性や機能の異なる複数のリフトや吊り具の中から適切なもの選定する必要があります。ここではそれぞれの特徴について理解する。</p> <p>キーワード：床走行リフト、設置式リフト、据え置き型リフト、各種吊り具、入浴支援、段差解消、階段昇降機、など</p>	<p>高齢者介護の中でも移乗時の介護は、介護者の身体負担も大きく危険因子を含んでいます。“持ち上げない”は、介護時の基本の中の基本です。ホリフトと吊り具の利用は、安全な移乗を支援し、生活全般の幅を広げるものです。介護者及び要介護者双方の視点からリフト導入の効果について考えてみてください。</p>

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	バリアフリー環境と福祉用具（高齢者の暮らし）（第4部）	現状の福祉用具は、“便利で身近な生活の用具”とはまだまだいえないバリアが存在します。単に機能面にのみ着目することなく、使う側の内面に配慮した福祉用具導入の方法について理解する。 キーワード：高齢者の心理、高齢者の心理、表層問題提起、暮らしと福祉用具、など	福祉用具を必要とする高齢者にとって、福祉用具はまだまだ特別な存在です。福祉用具は生活を支える身近な道具でなければいけません。但し、福祉用具に関する“真の”専門知識を有する者は決して多くはいません。ここでは、単なる知識とは異なる視点で、使用する高齢者の内面を意識しながら導入時の在り方について考えてみてください。
14	バリアフリー環境と福祉用具（両輪の理解）（第4部）	介護保険貸与の福祉用具の現状から様々な課題が見えてきています。また、福祉用具の貸与と合わせて住宅改修を行う事例も複数存在します。生活支援の有益な道具としての福祉用具を、ソフトを含めた視点から理解する。 キーワード：福祉用具貸与、住宅改修、要介護度と福祉用具、ハードとソフト、チームアプローチ、住宅改修と福祉用具、など	福祉用具を有効活用するためには、道具（ハード）と知識（ソフト）の両輪が必要となります。また、福祉用具導入の際には、環境因子の把握が重要であり、必要に応じて住宅改修を含めた検討が必要となります。これもある意味で両輪といえます。ここでは、それぞれの両輪をふまえて導入時の在り方について考えてみてください。
15	10月1日の「福祉用具の日」（第4部）	福祉用具を用いた生活支援を“真の支援”に繋げるには様々な課題が存在します。専門職の更なる専門性の向上と、一般市民への福祉用具啓蒙の必要性について多角的視点から理解する。 キーワード：福祉用具の普及、福祉用具法、地域の活動、ソーシャルインクルージョン、など	1993年の福祉用具法制定から9年後の2002年の同日の10月1日に福祉用具の日が制定されました。福祉用具が国民にとって身近なものになるために、今後どのような活動を行うべきかについて広く考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	高齢者およびその家族の QOL 向上を目指した福祉用具の導入について整理、解説せよ。また、具体的事例を示し論述せよ。事例の記載方法については、必ず書籍等を参照してから書くこと。
4 単位め	以下の項目の中から、2つを選択し、課題にそくした内容で全体を整理し考察せよ。 ① 高齢者のための車いすの選び方・使い方 ② 視聴覚機器の選び方・使い方 ③ ヒトの立ちあがり・座りこみと機器との関係 ④ 楽に安全に歩こう——歩行補助車の選び方・使い方—— ⑤ 肢体不自由者のためのコミュニケーション機器 ⑥ 自分の足にあった靴をさがそう——足の障害に応じた靴選び—— ⑦ ホイストと吊具の選び方・使い方 ⑧ 日常生活支援——自助具の種類と使い方——

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出し

てください。

■アドバイス

- (1) なによりも教科書を「よく読む」ことから始まります。第一段階では、福祉用具と利用者の関係を概論的に把握してみてください。
- (2) 教科書を熟読し、さらに内容を深め明確な理解に努めてください。適宜、その他の参考書を読み、より一層の理解を促してください。
- (3) 各課題に取り組む際には、予め目次を作成し、記載する内容を明確にしてから本文作成を行ってください。レポートは、**各単位で目次ごとに**本文を記載してください（1単位めの例：1.わが国の高齢社会の現状について、2.超高齢者社会と障害発生原因の関係について、・・・）。**目次ごとに記載されていないレポートは、「再提出」と**します。事前準備を行うことなく、本文作成を行うと「まとまりのない」レポートとなることがあるため、注意が必要です。
- (4) 教科書の内容を写すのではなく、各自の言葉で記載することが原則です。また、第三者が理解できる内容、記載であるかの確認を行ってください。
- (5) レポート作成後は、数回の確認の後、提出してください。
- (6) 参考・引用文献は必ず最低3つ以上記載してください。

1・2単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め アドバイス

介護を必要とする高齢者およびその家族の支援には、さまざまな方法が考えられます。現在の主な支援策は、ホームヘルパーサービス、訪問看護、デイサービス、ショートステイなど人的支援が中心となっています。しかし、人的中心の支援には限界と問題があります。ここでは、上記現状の支援策の問題点を明確にした後、福祉用具導入の意義を説明してください。そして、利用者のQOL向上を目指した福祉用具の導入について整理、解説してください。また、居宅生活内への福祉用具導入の**具体的事例**について示し、論述してください。

(注) 具体的事例の記載方法に誤りのあるレポートが複数存在します。身近な**真実に基づいた事例**でなくても結構です。事例の記載方法については、**予め書籍や「福祉用具の活用事例」を紹介したホームページ等**でしっかり学習してください。

4単位め アドバイス

福祉用具にはさまざまな種類、導入場所、使用者が考えられます。ここでは、レポート課題のまとめとして、各自の興味のある内容を2つ選択してみてください。次の事項を十分に考慮しまとめてください。

1つは、テーマを十分に理解することです。テーマとレポートの内容が合致していなければ、この時点で採択されません。

2つめは、利用者（ヒト）が主役であることを充分考慮してください。利用者が見えてこない解説は望ましくありません。「どのようなヒトが何に困っているのか!？」を明確にしてから福祉用具の内容

に入ってください。

3つめは、テーマが抽象的であるため、解説内容の絞込みを行う必要性が生じる場合も考えられます。その際には、必ず「何故、その内容に着目したのか」を明確にしてください。記載がない際には、採択されませんのでご了承ください。

科目修了試験

■評価基準

内容を適切に整理・理解できているかを評価します。主に以下の内容が重要となります。

- ・わが国の高齢社会の現状と課題について理解できているか。
- ・今後必要となる専門性について理解できているか。
- ・福祉用具を必要としている人々について理解できているか。
- ・補装具の特徴を理解し、福祉用具に必要な要素が理解できているか。
- ・現状の課題を踏まえて、福祉用具の適合の重要性が理解できているか。

リハビリテーション論

科目コード

DF3122



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	稲垣 成昭

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度の開講後は2021年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

我々の生活のさまざまな場面で「リハビリテーション」が行われています。「リハビリ」という言葉が一般的に使用されるようになり、多くの人々は、病院内での歩行訓練や療法士の行う徒手的訓練をイメージするようです。しかし、動かなくなってしまった手足への訓練（医学的なアプローチ）＝リハビリテーションではありません。リハビリテーションは、社会福祉（福祉）分野でも日々展開される重要な理念であり、目標であり、方法でもあります。

わが国の福祉専門職、および専門職をめざす方々には、リハビリテーションについての正しい理解と、「広義の福祉」と「リハビリテーション」との関連性について学んでいただきたいと思っており、このことは、福祉領域の発展に寄与し、何より対象者の利益になり得ます。また、リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々は、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があり、どのようなシステムで行われているのかを的確に把握する必要があります。

本科目では、「リハビリテーション」、「社会資源」、「チームアプローチ」、「地域リハビリテーション」などについて適切な理解を促し、利用者へのより良いサービス提供について考えていただきたいと思えます。リハビリテーションを単体で理解するのではなく、「福祉」と「リハビリテーション」の双方の観点から考察してみてください。

※この科目の担当教員は、作業療法士としての実務経験を有します。

■到達目標

- 1) リハビリテーションの理念について自分の言葉で説明できる。
- 2) リハビリテーションの領域と役割について説明できる。
- 3) リハビリテーションに携わる専門職種の役割及び連携のあり方について説明できる。
- 4) 地域リハビリテーションの概要を説明することができる。
- 5) 生活者としての対象者への援助を多角的に考察することができる。

■教科書

澤村誠志編『最新 介護福祉全書 別巻2 リハビリテーション論 第3版』メヂカルフレンド社、2008年

(最近の教科書変更時期) 2014年4月

(スクーリング時の教科書) 澤村誠志編『リハビリテーション論』メヂカルフレンド社、2008年を参考程度に使用します。当日資料を配付いたします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「他者への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

江藤文夫編著『よくわかるリハビリテーション』ミネルヴァ書房、2005年

中村隆一編著『入門リハビリテーション概論 第7版』医師薬出版、2009年

椿原彰夫編著『リハビリテーション総論』診断と治療社、2007年

山根 寛著『ひとと作業・作業活動』三輪書店、2005年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々には、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があり、どのようなシステムで行われているのかを的確に把握し、地域で“普通の生活”を送ることの重要性を理解し、リハビリテーションの基本的な考え方を説明できるように学んでいただきたい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	リハビリテーション概論①	語源、定義、対象、領域
2	リハビリテーション概論②	リハビリテーションの思想と歴史
3	リハビリテーション概論③	対人援助職に必要とされる態度
4	リハビリテーション専門職種	各種専門職種と過程（プロセス）
5	リハビリテーションの基本にあるもの	日常生活動作（ADL）と生活の質（QOL）
6	リハビリテーションの実際①	身体障害、発達障害について
7	リハビリテーションの実際②	精神障害、老年期障害について
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に（教科書も適宜使用）に講義を進めます。また、適宜グループワークを実施します。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況50%＋スクーリング試験50%（持込可）。

試験では特に到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書第1・2・6章をある程度読んでからスクーリングに出席してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リハビリテーションとは (第1章)	リハビリテーションの意義について理解し、その背景となる歴史を知ることで、障害者とリハビリテーションの関係を学ぶ。	リハビリテーションの語源、意味を理解する事はとても重要であり、根源をなすものである。歴史的背景をふまえ理解すると理解が容易になるでしょう。
2	リハビリテーションに関連する諸制度の最近の動向 (第1章)	高齢者・障害者を取り巻く近年の動向を理解し、社会保障の現状について学ぶ。	今現在を含む私たちが生きる現代の状況を知ることが、数年で変化する社会保障の現状や問題について理解しましょう。
3	リハビリテーションの領域と役割① (第2章)	リハビリテーションの領域を学び、各領域の特徴や目的を理解する。	医療・福祉・保健分野における総合リハビリテーションの各領域（医学的・教育的・社会的・職業的）での目標や特徴を知ること、リハビリテーションが持つ意味を考えてみましょう。
4	リハビリテーションの領域と役割② チーム・アプローチ (第2章)	チーム・アプローチに関連する職種と役割について学び、チームアプローチの特徴と必要性について理解する。	チームで取り組むメリット・デメリットとは何かを知ること、自己が目指す職種の特徴、役割とは何かを考えてみましょう。
5	リハビリテーションの領域と役割③ IADL (第2章)	IADL の概念を学び、具体的活動内容及び ADL との関連について理解する。	対象者の生活を再構築する為の IADL、ADL などの生活技術の評価をする視点を理解することが重要です。
6	リハビリテーションに関する社会資源② (第3章)	社会資源とリハビリテーションの関連性について理解する。各種資源及び活用上の留意点について学ぶ。	社会にはどのような資源があり、その資源をどう利用するのか、自己の経験などから考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	福祉用具、住居の改造 (第4章)	補装具・日常生活用具の種類や機能、適応について学ぶ。また、住居の改造などの重要性・目的を理解する。	疾患・対象者のニーズに合わせた用具の選択・適応には、多種多様な道具を知る必要がある。対象者の状況をイメージし自己の身の回りに当てはめて考えてみましょう。
8	福祉のまちづくり (第4章)	福祉のまちづくりの目的及び歴史について理解する。	対象者を取り巻く環境について理解し、自己の周りの環境について、誰にとっても障壁のない出かけやすい街とはどんなものかを考えてみましょう。
9	リハビリテーション介護とは (第5章)	リハビリテーション介護の目的を学び、人が生きるといふことの根源を理解する。	リハビリテーションにおいて、援助者の思いで援助するのではない。対象者自身の選択、決定の上で成り立つことを理解していただきたい。また、普段自分達が実施してる生活とは何か、QOLとは何かを再度考えてみましょう。
10	リハビリテーション介護技術の基本 (第5章)	様々な援助手段について学び、その意味について理解する。	ひとつの介入・援助手段をどの対象者にも同じく適応するのではなく、その人その人に合わせた対応を行うことの意味を考えてみましょう。
11	在宅訪問リハビリテーションの援助技術 (第5章)	訪問リハビリテーションの目的・支援の流れを理解する。	生活を支援する視点に立ち、その中で起る問題や課題をどう捉え、どう解決するのかを生活者としての視点を持ち考えてみましょう。
12	リハビリテーションの実際①身体障害 (第6章)	様々な疾患への支援方法を学び、疾患の原因や障害を理解する。	身体障害領域におけるリハビリテーションについて、実際にはどのようなことが行われているのか。また、対象者の日常生活を阻害する要因はなにかを考えてみましょう。
13	リハビリテーションの実際②老化・精神障害 (第6章)	様々な疾患への支援方法を学び、疾患の原因や障害を理解する。	老化、精神障害領域におけるリハビリテーションについて、実際にはどのようなことが行われているのか。また、対象者の日常生活を阻害する要因はなにかを考えてみましょう。
14	地域リハビリテーション (第7章)	地域リハビリテーションにおける多様な支援を学び、基本理念・考え方を理解する。	地域リハビリテーションの流れや課題を理解し、自分達が支援する場合にどのようなことができるのかを考えてみましょう。
15	終末期リハビリテーション (第8章)	リハビリテーションは人生のあらゆるステージに通じる理念を持つものであることを理解する。	「生きている限り生きがいを感じさせるのがリハビリテーションである」この言葉の意味を理解し、対象者にとって最高のQOLとは何かを考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	① リハビリテーションの各領域について論じてください。 ② リハビリテーションと福祉の関連性を総合的観点から記述せよ

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題

集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

- (1) 教科書を熟読し、リハビリテーションについて理解を深めてください。
- (2) リハビリテーションについて、関連書籍や文献などを読み自分自身の言葉で説明できるよう理解を深めてください。
- (3) いずれも①、②の両方について解答してください。各課題に取り組む際には、予め目次を作成し、記載する内容を明確にしてから本文作成を行ってください。目次をレポートの冒頭に必ず記入してください。事前準備を行うことなく、本文作成を行うとまとまりのないレポートとなることがあるため、注意が必要です。
- (4) 教科書の内容を写すのではなく、各自の言葉で記載することが原則です。また、第三者が理解できる内容、記載であるかの確認を行ってください。
- (5) 参考・引用文献は必ず2つ以上記載してください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

2 単位め アドバイス

①リハビリテーションとは、複数の関係職種が多角的側面から共通目的に向かい努力する過程です。また、さまざまなリハビリテーションが存在します。リハビリテーションを実践する現場は、施設や病院のみではなく、人々が住みなれた地域なども含まれます。生活者としての存在を維持する上で、地域社会との結び付きは欠かすことのできない課題も存在します。ここでは、総合リハビリテーションをしっかりと理解した後、リハビリテーションの各領域における専門職種の役割及び連携のあり方について考察してください。

②現在の障害は複雑かつ多様化し重度の障害を有する障害者数も増加傾向にあります。現在、各種障害者に対するリハビリテーションは、病院、在宅、地域などさまざまな場面で展開されています。また、わが国の平均寿命は、人生50年の時代から、今や80年時代へと変革してきています。単なる延命という量的な問題に加え、高齢期をいかに意義あるものとして生きるかといった質的問題が問われる時代です。ここでは、障害者および高齢者を主な対象として、リハビリテーションと福祉の関連性を、医療、福祉施設、地域、生活などを多角的に考察してみてください。

科目修了試験

■評価基準

解説問題は、内容理解が一番のポイントであるが、設問にて問われている単語の「キーワード」が書かれているかが重要になります。また、キーワードの意味を自己の言葉で記述する事が必要です。

語句の記入問題は、上記の解説問題でのポイントと同様で、ここではキーワードを聞いている問題になります。各設問で問われているキーワードを適切に理解していることがとても大切です。

医療・福祉経済論

科目コード

DF3147



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	2年以上	佐藤 英仁

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度は開講しません（次回開講は2020年度）。

科目の概要

■科目の内容

人口などの統計データは非常に身近ですが、曖昧なことも多いと思います。例えば、「日本人は男性と女性ではどちらが多いのか」、「現在人口は増えているのか、減っているのか」、「平均寿命は何歳か」、「どの都道府県がもっとも長生きか」など、自信を持って答えられるでしょうか。

医療・福祉経済論では、人口や出生率、死亡率などの医療・福祉分野の様々な統計データを見ることで日本の医療・福祉の現状を学びます。

■到達目標

- 1) 人口の推移や将来予測について説明できるようになる。
- 2) 日本の出生率や死亡率、疾病構造を説明できるようになる。
- 3) 経済学の基礎的な理論について説明することができる。
- 4) GDP や経済成長率を説明することができる。

■教科書

厚生労働統計協会『国民衛生の動向2018/2019』厚生労働統計協会、2018年（最新版でなくても可）
(最近の教科書変更時期) 2018年11月

(スクーリング時の教科書) 必要な資料はすべて配付しますが、厚生労働統計協会『国民衛生の動向2018/2019』(厚生労働統計協会、2018年)は参考になります。なお、『国民衛生の動向2019/2020』(執筆時は未発行、2019年夏ごろ出版予定)が出版された際には、こちらが教科書となります。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20%+スクーリング評価 or 科目修了試験80%

■参考図書

厚生労働省「人口動態調査」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>) (最新のものをご参考にしてください)

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

人口などの統計データは非常に身近ですが、曖昧なことも多いと思います。例えば、「日本人は男性と女性ではどちらが多いのか」、「現在人口は増えているのか、減っているのか」、「平均寿命は何歳か」、「どの都道府県がもっとも長生きか」など、自信を持って答えられるでしょうか。

医療・福祉経済論では、人口や出生率、死亡率などの医療・福祉分野の様々な統計データを見ることで日本の医療・福祉の現状を学びます。また、GDP や経済成長率などの身近な経済用語や基礎的な経済理論についても講義します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	医療・福祉の主要指標	日本における人口、出生率、死亡率などの現状や特徴を解説する。
2	国別、都道府県別に見た医療・福祉の主要指標	国別、都道府県別の人口や平均寿命の現状や特徴を解説する。
3	医療・福祉の提供体制の現状	医療機関や医療従事者の現状や特徴を解説する。
4	経済学の基礎理論	価格決定のメカニズムや消費者理論を説明する。
5	基礎的な経済用語	GDP や経済成長率の概要を説明する。
6	まとめ	
7	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。講義中に表示したパワーポイントのスライドはすべて配付します。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況20%＋スクーリング試験80%（持ち込みすべて可）

※試験はマークシートによる択一式にて実施します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心のあるテーマについて、新聞等から関連記事を見つけて読んでおいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	全国人口の動向 (第2編第1章)	日本の人口の現状や推移について理解する。また、世帯数や世帯構造についても理解する。	現在、日本の人口は毎年減少しています。それに伴い、人口構成が劇的に変化しています。年齢別3区分の人口を見て、少子高齢化の現状を理解してください。また、世帯構成を見て、高齢者のみの世帯が増えていることを理解してください。同時に、少子高齢化も問題点についても考えてみましょう。
2	都道府県別人口と世帯数動向 (第2編第1章)	都道府県別に人口や世帯数、人口増減の現状について理解する。また、人口や世帯数について都道府県の違いを理解する。	都道府県によって高齢化率が異なります。どの都道府県が高齢者が多く、どの都道府県が高齢者が少ないのかを理解してください。また、高齢者の多い都道府県は医療や福祉が充実していると言えるのかを考えてみましょう。さらに、人口が増えている都道府県を確認し、その理由を考えてみましょう。
3	出生 (第2編第2章)	合計特殊出生率について学ぶ。また、出生の現状や推移を理解する。さらに、都道府県別の出生についても理解する。	合計特殊出生率は期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率の2つがあります。両者の違いを理解しましょう。また、合計特殊出生率の推移について理解し、減少した理由を考えてみましょう。
4	死亡 (第2編第2章)	死亡率の年次推移や死因別に見た死亡状況について現状と推移を理解する。また、死因の国際比較を行い、日本と諸外国との違いを学ぶ。	日本人の死因を上位4つを中心に理解しましょう。また、悪性新生物の部位別に見た死因についても理解しましょう。脳血管疾患による死亡が減少しています。その背景についても考えてみましょう。
5	結婚と離婚 (第2編第2章)	結婚と離婚の現状と推移について理解する。また、国際比較を行い、日本と諸外国の違いを学ぶ。	結婚と離婚の現状を理解し、諸外国と比較してみましょう。日本の離婚率はかなり低い水準です。なぜ、日本の離婚率が低いのか、その理由を考えてみましょう。
6	生命表 (第2編第3章)	平均余命、平均寿命、健康余命について学ぶ。また、平均寿命の現状や推移を理解する。さらに、都道府県比較や国際比較を行い、都道府県の違いや日本と諸外国との違いについても理解する。	平均余命と平均寿命の関係を理解しましょう。また、平均寿命が長い都道府県、短い都道府県を確認し、なぜ、平均寿命が長いのか、なぜ平均寿命が短いのかを考えてみましょう。
7	医療対策の動向 (第3編第5章)	医療法や改正の歴史について理解する。また、都道府県が策定する医療計画についても理解する。	医療計画の内容を理解しましょう。特に、5疾病5事業や二次医療圏について理解しましょう。また、自分の住んでいる二次医療圏を確認し、十分な病院があるかを考えてみましょう。
8	医療関係者 (第3編第5章)	医師、歯科医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師などの医療関係者数の現状と推移について理解する。また、国際比較を行い、日本と諸外国との数の違いを理解する。	医師数、看護師数を中心に確認し、医師不足の現状や看護師不足の現状を理解しましょう。また、都道府県によって数にばらつきがあることを理解しましょう。医師不足や看護師不足を解消するためにはどうしたらいいのかを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	医療施設 (第3編第5章)	医療施設の種類について整理したうえで、種類別医療施設数の現状や推移について理解する。また、病床数や平均在院日数の現状や推移についても理解する。	開設者別に見た施設数を中心に医療施設の数や病床数について理解しましょう。近年、病院が減少している一方、診療所が増加しています。その理由を考えてみましょう。
10	医療保険制度の現状 (第4編第1章)	医療保険の種類について学ぶ。また、傷病手当金や高額療養費などの医療保険の使用例についても理解する。	医療保険の種類について、誰が加入しているのか、保険者は誰なのかを理解しましょう。この機会に自分の医療保険を確認してみてください。また、傷病手当金や高額療養費、出産手当金、療養費などは制度を知らないと損をしてしまいます。必ず理解しましょう。
11	後期高齢者医療制度 (第4編第1章)	後期高齢者医療制度の概要について理解する。特に保険者や保険料、財源についても理解する。	後期高齢者医療制度が導入された背景について考えてみましょう。また、後期高齢者医療制度の問題点についても考えてみましょう。
12	診療報酬 (第4編第1章)	診療報酬の概要について理解する。特に、2014年の改定で診療報酬はどう変わったのかを理解する。	診療報酬には出来高払い方式と包括払い方式があります。両者の特徴について理解しましょう。また、直近の診療報酬の改定(2014年4月)のポイントを整理しましょう。
13	医療保険制度のあゆみ (第4編第1章)	国民皆保険の実現後の医療保険制度のあゆみについて理解する。特に、保険者の再編・統合について理解する。	老人医療の自己負担割合の変遷を中心に医療保険制度の歩みについて理解しましょう。なぜ、自己負担割合を上げなければならなかったのか、その背景についても考えてみましょう。
14	公費医療 (第4編第1章)	公費医療制度の概要について理解する。また、生活保護における医療扶助の現状や推移についても理解する。	公費医療の一つに生活保護の医療扶助があります。生活保護制度を理解したうえで、医療扶助の推移を確認しましょう。被保護実人員に占める医療扶助人員の割合は増加傾向になっていますが、扶助費総額に占める医療扶助費は減少しています。その理由を考えてみましょう。
15	国民医療費 (第4編第1章)	国民医療費の定義について学ぶ。また、国民医療費の現状や推移についても理解する。	国民医療費には制度区分別や財源別、診療種類別など様々な見方があります。これらの特徴について理解しましょう。また、高齢化にもかかわらず2000年および2002年は国民医療費が減少しました。その理由を考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	日本の人口について、人口構造(年齢3区分別)や世帯構造に留意しながら特徴を述べなさい。また、諸外国と比べたときの日本の人口の特徴についても述べなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

経済と人口は一見、関係がないと思われるかもしれませんが、実は大きく関係しています。人口が減少するという事は、人口構造が変化する（子供の数が減り、高齢者の数が増える）ことを意味しています。医療や福祉をより必要とする高齢者の数が増えれば、医療や福祉を提供する労働者が不足することは容易に想像できます。また、現在の医療保険や年金は現役世代（若い人）から保険料を集めて、高齢者に給付する方式です。給付を必要としている高齢者が増える一方で、保険料を支払っている現役世代が減ってしまえば、財政的に厳しい状況になります。このように人口の減少は最大の経済問題と言っても過言ではありません。

この科目では医療・福祉に関する様々な統計データを見ていきますが、単に日本の人口の現状や推移を見るだけでなく、世帯構造や出生率、死亡率などの他の統計データを同時に見ていくことが重要です。また、なぜそのような数値になったのか、その意味を考えながら学習してください。

年度ごとに統計データは新しいものが追加されていきます。これに対応するために毎日、新聞を読む習慣をつけるといいでしょう。また、教科書以外にも厚生労働省「人口動態調査」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>)も参考にしてください。

1 単位め アドバイス

この課題に関しては、テキストの pp.49～57 および pp.390～397（2015/2016版は pp.50～58 および pp.388～395）を参照して下さい。日本は少子高齢化と言われていますが、実際に日本人は何人で、高齢化率はどのくらいなのか、戦後どのように推移してきたのかなどを数値で見ると、今まで知らなかった様々な問題点が明らかになると思います。また、世帯構造の現状や推移も同時に見ることで、福祉や医療の必要性に気づくことができると思います。ただ単に数値を列挙するだけではなく、その数値の意味（背景や問題点）を考えながらレポートに取り組んでください。

2 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

- ・人口の現状と推移、問題点が理解できているか。
- ・死因や出生率などのマクロデータの現状と推移が理解できているか。
- ・経済の基礎的な用語が理解できているか。
- ・基礎的な経済理論が理解できているか。

福祉思想論			科目コード	DH2109
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R	1年以上	田中 治和	



科目の概要

■科目の内容

なぜ福祉思想論を学ぶ必要があるのでしょうか。それは社会福祉実践、及び社会福祉学研究の対象の特性に尽きます。この対象とは、人間の生きる過程に生じた諸々の社会問題、具体的にはひとり一人の人生に到来した苦しみ、悩み、悲しみの事象といえます。それへの社会的施策として登場したのが、社会保障制度や社会福祉実践です。もちろん施策・制度の充実も必要ですが、究極的には実践等を営む人間の思想、そして生き方が厳しく問われることは言うまでもありません。そのためにも我々の先達である方々の社会福祉実践の底流にある思想を、丁寧に学ぶ必要があります。幅広く奥行き深い科目ですが、どうぞ自らの思想を涵養するためにも受講されてください。

■到達目標

- 1) 選択した時代区分における思想の特色を簡潔に述べることができる。
- 2) 選択した時代区分における思想の特色をもとに自分の考え方を述べることができる。
- 3) 現代社会における様々な価値観と結びつけて思想の意味を述べることができる。

■教科書

吉田久一・岡田英己子著『社会福祉思想史入門』勁草書房、2000年

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋科目修了試験40%

■参考図書

吉田久一著作集1『日本社会福祉思想史』川島書店、1989年

丸山真男著『日本の思想』岩波新書、1961年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	欧米社会福祉思想（史）の方法（序章）	欧米の社会福祉思想を学ぶ意義について理解する。	社会福祉実践および社会福祉学の基盤となる福祉思想を学ぶ意義を学習してください。
2	中世以前の事前救済の福祉思想（第1章）	ギリシアの博愛、ユダヤ教の事前思想、キリスト教の隣人愛・カリタスについて理解する。	福祉思想の源流となる慈善と博愛について学習してください。
3	中世の事前救済事業思想（第2章）	カトリック慈善事業、ルターの救貧思想、都市救貧事業の思想と実践などについて理解する。	宗教改革前後の公的救貧思想および都市救貧制度について学習してください。
4	市民革命と自由・平等の人権思想（第3章）	イギリス救貧法の影響、フランス革命と「自由・平等・友愛」の人権思想などについて理解する。	西欧・米の国民国家のための福祉思想について学習してください。
5	博愛事業思想と市民主導型ボランティア（第4章）	イギリスの博愛事業と貧困問題、アメリカの博愛事業、ドイツとスウェーデンの救済システムについて理解する。	欧米各国の博愛事業について学習してください。
6	社会事業思想とソーシャルワークの創出（第5章）	欧米の社会事業成立期（ソーシャルワークの創出期）の諸課題について理解する。	社会事業の職業化、つまりソーシャルワークの創出について、ジェンダー化という視点から学習してください。
7	現代社会福祉思想の登場と変貌（第6章）	現代社会福祉思想の全般的動向とその課題について理解する。	社会民主主義の登場と、大恐慌後の大量失業問題への対応策としての種々の生活保障構想の意味を学習してください。
8	戦後福祉改革と福祉国家思想・運動の新たな模索（第7章）	戦後福祉改革と福祉国家の動向とその思想および運動について理解する。	第2次大戦後の福祉国家制度の成功と低迷について学習してください。
9	20世紀終末期の欧米社会福祉思想（終章）	欧米社会福祉思想の評価、および方法論について理解する。	社会福祉思想の方法論と、改めてそれを学ぶ意義について学習してください。
10	（日本の）近代以前の福祉思想（序章・第1章）	古代社会および中世封建社会の福祉思想について理解する。	仏教の福祉思想、キリストの慈善思想について学習してください。
11	明治の救済事業思想、慈善事業思想（第2章）	明治期の公的救済事業、慈善事業思想、および感化救済事業思想について理解する。	プロテスタントの慈善事業思想および感化救済事業について学習してください。
12	大正デモクラシーと社会事業思想（第3章）	社会事業思想の形成と成立、および挫折、ならびに戦後厚生事業思想について理解する。	社会事業思想と戦時厚生事業思想について学習してください。
13	戦後の社会福祉思想（第4章）	戦後占領期、高度成長期、および低成長期の社会福祉思想について理解する。	戦後社会事業思想と社会福祉成立期の思想と理論について学習してください。
14	20世紀終末期の社会福祉思想①（第5章）	20世紀末の欧米および日本の社会福祉思想について理解する。	20世紀末の（現在にも連続している）社会福祉思想について学習してください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	20世紀終末期の社会福祉思想② (第6章)	社会福祉の普遍化・多元化、市場論、グローバル化「自立」論などを理解する。	近年の社会福祉思想に連続する論点について学習してください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
2 単位め	「第II部 日本の社会福祉思想史」の全体の内容を踏まえて、第1章から第6章までのなかからひとつの章を選択し、その内容をまとめ、考察してください。記述にあたっては、なぜその章を選択したのか理由を述べ、その章の内容に対する自らの意見を述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

日本の福祉思想に比べて、ヨーロッパの福祉思想は長い歴史があります。福祉思想にとって重要なことは、教科書の序章の最初に書かれているように、純粋な哲学的発想ではなく、実際の日常生活に密着して考えていくことです。レポートはひとつの章を選択して提出するだけですが、思想、考え方の流れということもあり、全体をひとつの流れとして捉えてほしいと考えています。

**1 単位め
アドバイス** 教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

**2 単位め
アドバイス** テキストの第II部をよく読み、日本の社会福祉思想の流れを読みとってください。宗教や社会体制についても理解を深め、簡潔に述べてください。そのなかで、ひとつの章を選択し、深く考察を加えてください。日本の福祉社会を考えたとき、どのような考え方、意識をもち、今日までの思想の流れを捉えるか、そして、これからの時代に何が望まれるかを考えてください。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。

福祉計画法		~2008	科目コード	DH3123
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	佐藤 英仁	



※科目の概要、スクーリング、レポート課題などは、『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）2018』でご確認ください。

家族法			科目コード	DH3144・ DH3164
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
4	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀	



※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2019年度の開講後は2021年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2019年度（12コマ）・2020年度（8コマ）開講予定です。

※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位に変更となります（会場スクーリング：8コマ、オンデマンド・スクーリング：12コマ）。

※科目コード DH3144 2018年度までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
DH3164 上記以外の方（スクーリング単位1単位）

科目の概要

■科目の内容

少子・高齢化社会を迎えるわが国において、子どもの人権といった問題から、家族・親族間の高齢者における介護・扶養といった問題は、身近な問題といえます。福祉の実務においては、たとえば認知症である利用者の財産管理はどのように対処したらいいのでしょうか。虐待を繰り返している両親に対して、子どもの救済を図るためにはどのようにしたらいいのでしょうか。遺産を相続するにあたって、親族間でトラブルが生じた場合にはどのようにしたらいいのでしょうか。経験や勘で対応するのではなく、福祉の現場において、最低限の法律の知識に基づいてアドバイスができる人材が現在求められています。

このような家族関係をめぐって紛争が生じた場合の解決方法、また相続の問題などを対処するための法律が、親族法・相続法であり、家族法であります。特に家族に関する問題は、社会が複雑化・多様化する中で、従来の家族の概念を越えた現代的問題として、夫婦別姓制度、夫婦財産制度、人工生殖問題などもあります。

本科目においては家族の新しいあり方と法の関係について現状を認識し、現代の問題点を把握し、よりよく快適な生活を享受し、安心して老後を送るためにはどのようにすべきなのかについて、具体的に学んでいきます。

■到達目標

- 1) 家族法の制度概要について説明することができる。
- 2) 婚姻制度において、その制度趣旨と問題点について説明することができる。
- 3) 家族法の観点から、成年後見制度の意義と活用方法について説明できる。
- 4) 親族の現代的意義と問題点について説明することができる。

■教科書

渡辺信英編『福祉社会の家族法 親族編』南窓社、2008年

(最近の教科書変更時期) 2009年 4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自尊重的コミュニケーション力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%+スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■参考図書

渡辺信英編『福祉社会の家族法 相続編』南窓社、2008年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

少子・高齢化社会を迎えるわが国において、子どもの人権といった問題から、家族・親族間の高齢者における介護・扶養といった問題は、身近な問題といえます。福祉の実務においては、例えば認知症である利用者の財産管理はどのように対処したらいいのでしょうか、虐待を繰り返している両親に対して、子どもの救済を図るためにはどのようにしたらいいのでしょうか。遺産を相続するにあたって、親族間でトラブルが生じた場合にはどのようにしたらいいのでしょうか。経験や勘で対応するのではなく、福祉の現場において、最低限の法律の知識に基づいてアドバイスができる人材が現在求められています。

講義では、家族の新しいあり方と法の関係について現状を認識し、現代の問題点を把握し、よりよく快適な生活を享受し、安心して老後を送るためにはどのようにすべきなのかについて、具体的に学んでいきます。

■会場スクーリング講義内容（8コマ）

回数	テーマ	内容
1	家族法の全体像	家族法の特徴について
2	親族	親族の意義、役割について
3	婚姻制度	婚姻制度の意義について
4	婚姻の解消	離婚について
5	親子	人工生殖の問題について
6	親権（児童虐待を含む）	児童虐待の法律上の対応について

回数	テーマ	内容
7	成年後見制度の概要	後見・保佐・補助について
8	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
9	スクーリング試験	

■オンデマンド・スクーリング講義内容 (12コマ)

回数	テーマ	内容
1	家族法の全体像	家族法の特徴について
2	親族	親族の意義、役割について
3	婚姻制度	婚姻制度の意義について
4	婚姻の解消	離婚について
5	親子	人工生殖の問題について
6	養子制度	普通養子制度と特別養子制度について
7	親権（児童虐待を含む）	児童虐待の法律上の対応について
8	成年後見制度の概要	後見・保佐・補助について
9	法定後見制度と任意後見制度	任意後見制度の役割について
10	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
11	家族法の現状と課題	家族法の現実的な問題点について
12	まとめ	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	家族法	家族法の概要について学びます。	民法の中で、親族法・相続法の位置づけについて説明できることが重要です。
2	氏と戸籍	氏と戸籍について学びます。	氏と戸籍で問題となった裁判例を説明できることが重要です。
3	親族	親族の概要について学びます。	親族の意義、範囲、効果について理解することが重要です。
4	婚姻制度	婚姻制度の概要について学びます。	婚姻の法律的意義、要件について説明できることが重要です。
5	婚姻制度の現状と課題	婚姻制度の現状と課題について学びます。	婚姻制度の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
6	夫婦別産制度	夫婦別産制度の概要について学びます。	夫婦別産制度の解釈について理解することが重要です。
7	婚姻の解消	婚姻の解消の制度概要について学びます。	婚姻の解消において、死亡と離婚の相違点について説明できることが重要です。
8	内縁	内縁の制度概要について学びます。	内縁の意義、成立、効果、解消について説明できることが重要です。
9	親子	親子関係の意義と現状について学びます。	親子関係の意義と人工生殖の現状と課題について説明できることが重要です。
10	養子制度	養子制度の概要について学びます。	養子縁組制度の成立、無効、取消について説明できることが重要です。
11	特別養子制度	特別養子制度の概要について学びます。	特別養子制度の成立、効果、課題について説明できることが重要です。
12	親権	親権制度の概要について学びます。	親権制度の内容、現状と課題について説明できることが重要です。
13	成年後見制度の概要	成年後見制度の概要について学びます。	成年後見制度の全体像について説明できることが重要です。
14	扶養	扶養の現状と課題について学びます。	扶養の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
15	人事訴訟法	人事訴訟法の制度概要について学びます。	人事訴訟法の意義、課題について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	第1章の「家族法序論」について以下の内容を具体的に論じてください。 (1)家族法の特質について、(2)氏と戸籍について
2 単位め	第3章の「日本の婚姻制度」について以下の内容を具体的に論じてください。 (1)再婚禁止期間について、(2)夫婦同氏の原則について
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の3・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

(1)家族法の特質に関しては、家族法が「予定する人間像」「非合理性・非打算性」を中心にまとめてください。また、家族法の意義を論じた上で、福祉的視点としての家族法を論じてください。(2)氏と戸籍に関しては「悪魔くん事件」「戸籍偽造事件」など、具体的に問題となった事例を示して、あなたの考えを論じてください。

2 単位め アドバイス

(1)平成27年12月16日の最高裁の判決を踏まえて再婚禁止期間の意義と問題点を論じた上で、あなたの考えを論じてください。また、再婚禁止期間の制度が父性確定の困難を避けるためのものであれば、どのようにすべきか具体的に言及してください。(2)平成27年12月16日の最高裁の判決を踏まえて夫婦同氏の原則の意義と問題点について論じた上で、諸外国の夫婦の氏についても、言及してください。また、夫婦別姓制についても法改正の動向を踏まえて、自説を展開してください。

3・4 単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となる。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点で述べられていることも評価の対象となる。

社会福祉法制

科目コード

DH4111・
DH4165

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR (講義)	3年以上	菅原 好秀

※この科目のスクーリングは隔年開講予定です。2019年度の開講後は2021年度開講予定です。

※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更となります。

※科目コード DH4111 2017年度までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
DH4165 上記以外の方（スクーリング単位1単位）

科目の概要

■科目の内容

社会福祉法および社会福祉主要法律（児童、老人、障害者関連福祉法）についての理解を目指します。児童福祉法や老人福祉法、身体障害者福祉法等に定める福祉サービスの供受給制度に共通する事項をまとめて規定している社会福祉法の理解を中心に、各種の福祉サービス法が定めているサービスの提供のしくみやサービスの内容について理解をする手順で学んでいただければ、と思います。

■到達目標

- 1) 社会福祉法（制度）の体系について説明ができる。
- 2) 社会福祉法を概説できる。
- 3) 社会福祉法以外の主な社会福祉制度について概説ができる。
- 4) 社会福祉法制度の改正動向について説明ができる。
- 5) 社会福祉法制度の係わる判例（裁判所の見解）を検索し、判決文の読解ができる。

■教科書

- 1) 社会福祉法講義ノート（2017年版）
- 2) 河野正輝・増田雅暢・倉田 聡編『社会福祉法入門（第3版）』有斐閣、2015年

（教科書利用上の注意） 近年、福祉関連法規が毎年改正されています。教科書の改訂が追い付かないため、法規の改正を、自身で最新の社会福祉六法やインターネットで調べていただければと思います。

（最近の教科書変更時期） 2017年4月

（スクーリング時の教科書） 上記教科書1)『社会福祉法入門』（有斐閣）を小項目などの細部について活用しますから、持参してください。ただし、以前の教科書『社会福祉サービスと法』を持参でも可とします。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%+スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 志田民吉編著『福祉ライブラリ福祉法学』建帛社、2018年
- 2) 志田民吉編著『臨床に必要な人権と権利擁護』(福祉臨床シリーズ7) 弘文堂、2006年(絶版:アマゾンのネット通販で古書の購入は可能です)
- 3) 志田民吉共著『里親制度の国際比較研究』ミネルヴァ書房、2004年
- 4) 社会福祉六法(名称はいくつかあります)(中央法規出版、ミネルヴァ書房などから発行されています。最新年度版を用意してください)
- 5) 志田民吉共著『先進諸国の社会保障・ニュージーランド・オーストラリア』東京大学出版会、1999年
- 6) 志田民吉・伊藤秀一編著『社会福祉サービスと法』建帛社、2007年(絶版:アマゾンのネット通販で古書の購入は可能です)

以上の他は、テキストに引用している文献を参照してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 社会福祉は社会権的基本権(人権)です。人権や権利の用語を適切に使用できるようになっていただきたい。また社会福祉法(制)は、「社会福祉の向上・増進」が目的ですから、それと法制度との関連を理解してください。
- 2) 児童や障害者の福祉の例から理解できるように、社会福祉法令改正は頻繁に行われています。どのような方向に制度は改正されていくのか、についてのイメージを習得してください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会権的基本権の法的性格	国際人権規約(A・B)など人権関連宣言の概説、人権又は権利の概念及び用法、社会権的基本権の法的性格(裁判所判例と学説)
2	社会福祉と法	社会福祉の概念と法との関連
3	社会福祉と法	社会福祉法の概要
4	生活保護法の概要	生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法
5	老人福祉法の概要	国連原則、老人福祉法、介護保険法
6	障害者福祉法の概要	身体・知的・精神(保健)障害者福祉法、障害者総合支援法
7	児童福祉法の概要	児童福祉法、国連宣言や条約、母子寡婦福祉法
8	社会福祉と虐待防止法	社会福祉と児童・障害者・高齢者の各虐待防止法
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

原則として、「在宅学習15のポイント」に対応した講義内容を心掛け、判決例を中心とした事例（新聞などの記事）も積極的に活用します。

■スクーリング 評価基準

授業の参加状況50%＋スクーリング試験50%

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を一読しておいてください。また、読解が難しいなどの質疑ができるような事前学習をお願いします。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

「社会福祉は制度と実践の車の両輪」という意味を確認しておいてください。特に、「社会福祉法（制度）がなければ社会福祉行政はない」ということの意味が取れるようなスクーリングの受講のまとめをしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント（教科書1）の内容を基に作成しています

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	我が国の社会福祉法の動向	平成7年「社会保障勧告」以降、我が国の社会福祉法（制度）は、特に高齢者福祉関連法を中心とした法律改正が急務である。社会福祉法の講義に先立ち、近時の改正法律のいくつかを例に挙げながら、改正の訳と今後の動向について解説する。 キーワード：社会保障と税の一体改革	社会福祉法は、憲法が規定する社会権的基本権の表現の一つである。後述する人権のところでは詳細を述べるが、社会権は当該社会の力量を越えて国民に利益を保障することは出来ない。この理が理解できれば、社会福祉法の今後の動向についての理解を助けてくれることになる。
2	社会福祉と法（総論） 1. 社会福祉と法	社会福祉法は、「社会福祉」と「法」から成り立っている法律科目であるから、先ず“社会福祉”とは何か“法”とは何か、について学習する。 キーワード：社会福祉、法	社会福祉と法との関連を理解し、社会福祉の法体系について学ぶことで、我が国の社会福祉の全容を窺い知る。
3	2. 社会福祉法の歴史① 日本の法の由来	制度は思想と関連し、思想は文化と関係して形成される。我が国の法の歴史を学び、今日の我が国の社会福祉法（特に現行憲法の社会権規定）の体系に至る道程を理解する。 キーワード：法学、公法、私法、社会法	今日の社会福祉法体系に至る経過を理解する。契約制度は市民法（私法）の象徴的存在である。“法”という概念そのものの理解が社会福祉法の理解の前提として重要になる。法学の振り返り学習が必要。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	② 社会福祉法の歴史	第1回目の講義内容と併せて、昭和25年、同37年、平成7年の社会保障制度審議会勧告と平成10年のいわゆる社会福祉基礎構造改革などを中心に述べていく。 キーワード：社会保障制度審議会勧告、社会福祉基礎構造改革など	社会福祉基礎構造改革などの一連の改革法、とりわけ平成24年の社会保障と税の一体改革の意味と内容を知り、今後の我が国の社会福祉法の方向を窺い知る。
5	③ 社会福祉法と社会権的基本権	基本的人権の理解を確認しながら、社会権的基本権さらには社会福祉法体系との関連について、1回目、2回目の学習の内容を深化させて“社会福祉権利体系（社会福祉としての利用者の利益のまとめ）”について学習する。 キーワード：社会福祉、人権、権利、判例	人権あるいは権利の用語の使い分け方、社会福祉の現場で日常的に使用している“権利”を法律上の用法に添って使えるように学ぶ。
6	社会福祉と法（各論） 1. 社会福祉法① 社会福祉法の概要	主要な社会福祉法（体系）制度について学習する。各種の社会福祉法（児童、高齢者、障害者など）に共通する、主として社会福祉行政の運営と管理に関する法律“社会福祉法（旧社会福祉事業法）”について学習する。関連法律として民生委員法、各種の国家資格法などを内容とする社会福祉の基盤や資源についても概説する。 キーワード：社会福祉法、措置、契約、権利擁護など	上記の昭和25年勧告内容を振り返りながら、社会福祉行政の運営管理の基本事項を確認しながら、民生委員制度や社会福祉事業に係わる関連法律についても学ぶ。
7	② 社会福祉と民事裁判	平成12年の法改正で、福祉サービスの利用制度として契約方式が導入された。社会福祉と契約との関連性について学習する。 キーワード：社会福祉、契約	社会福祉は公法（国家と個人との関係規範）、契約は私法（個人と個人との関係規範）である。両者の関係をどのように扱うのかについて学ぶ。
8	2. 生活保護の概要	生活保護法の概要を学習し、併せてホームレス自立支援法の概説も行う。 キーワード：生活保護、就労、ホームレスなど	憲法が保障する「健康で文化的な最低限の生活」を具体的に定めている生活保護法を学びながら、それらの“健康”とか“文化的”とか“最低限度”の意味を考えながら学ぶこと。
9	3. 老人福祉法の概要①	高齢者の国連原則の逐条概説と老人福祉法の規定との関連性について学習する。 キーワード：高齢者の国連原則	老人福祉法の理念は、高齢者の国連原則の各条の反映で、同じものである。我が国の老人福祉論の多くは、老人福祉法の解釈について制度と実践の視点を混同したものが多く見られる。社会福祉は制度と実践の車の両輪、と言う意味を考えながら学ぶこと。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	3. 老人福祉法の概要②	老人福祉法の概要と介護保険法との関連及び介護保険制度のしくみや権利性について学習する。 キーワード：介護保険法など	老人福祉行政は、老人福祉法と介護保険法を中心として執り行われている。二つの法律の関係や高齢者の国連原則を読解しながら、我が国の高齢者福祉制度・政策の在り方について考える視点を持って学ぶこと。
11	4. 障害者福祉法の概要①	障害者の権利条約と我が国の障害者福祉法制度との関連について学ぶ。特に、権利条約批准以降の国内関連法の改正動向と意義について学ぶ。 キーワード：障害者の権利条約、社会参加など	障害者の権利条約は我が国国内関連法律の改正に大きな展開をもたらしている。条約の条項目と児童福祉法の条項目とを一覧表にして比較する意識を持って見比べてみる。
12	4. 障害者福祉法の概要②	障害者福祉は、身体障害者、知的障害者、精神障害者のそれぞれの法律が制定されている。併せて障害者基本法、障害者総合支援法の概説と上記三つの法律との関連について学習する。 キーワード：障害者福祉三法、障害者総合支援法	障害者総合支援法によって身体、知的、精神の各障害者福祉行政として給付するサービスの内容および提供の方法などが一元化されている。特に、老人福祉法と介護保険法との関連と比較して学ぶこと。
13	5. 児童福祉法の概要①	児童の権利条約に至る国連宣言などと我が国の児童福祉法制度について学ぶ。 キーワード：児童の権利条約、児童の最善の利益など	ジュネーブ宣言から始まり、権利宣言、権利条約と児童の権利に関する国連（連盟・連合を通じて）と我が国の児童の生育環境について比較しながら学ぶこと。
14	5. 児童福祉法の概要②	児童福祉法の概説と併せて母子寡婦福祉法の概説を行う。 キーワード：児童福祉法、母子寡婦福祉法など	児童といわゆる“大人（成人・者）”との関連について考えながら制度を学んでみる。
15	6. 社会福祉と虐待法	現在、児童、高齢者、障害者のそれぞれの虐待防止法が制定されている。それらの概説と虐待防止法と社会福祉との関連について学習する。 キーワード：虐待と社会福祉など	一口に“虐待”といっても、どのような行為が虐待行為に該当するのか、その判断の基準や考え方について学んでみる。

■レポート課題

1 単位め	戦後（昭和20年8月15日以降）改正施行されたわが国の社会福祉関連法制度について、現在までの主要な流れについてまとめなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の問題に解答してください。
3 単位め	「特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準」とは何かについてまとめなさい。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の問題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の2・4単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

テキストの歴史の部分を精読して、まとめてみましょう。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

2・4 単位め
アドバイス

テキストの老人福祉法の解説を精読し、老人福祉施設についてまとめながら、法令集（社会福祉六法：福祉小六法＝中央法規やミネルヴァ書房などから発行されています）に載っています上記「基準」の内容を読み比べてみれば、まとめることができると思います。また、「基準」を設けることの意義について考えてみましょう。基準の法的性格についても考えてみましょう（基準については法令に規定されていることが大半です）。

3 単位め
アドバイス

科目修了試験

■評価基準

それぞれの設題に対する記述内容の正確度が最も大切ですが、法律文章としての完成度も評価の対象として考えます（例えば、人権や権利の用語を、法律用語として適切に使用できているか）。

国際福祉論

科目コード

DH4115



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R	3年以上	赤塚 俊治

※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書・レポート課題も一部変更されています。

科目の概要

■科目の内容

本講座は、国際福祉（国際社会福祉の略語として使用する）の基礎的導入編として位置づけています。国際社会では、国際福祉が重要な役割として期待されています。先進国、開発途上国、後発開発途上国における人々の現状や実態を理解することによって、国際福祉の理論はもとより国際福祉の実践的活動である ODA や NGO の今日的課題についても理解する必要があります。国益優先の時代は終焉を迎えています。国際社会がお互いに国際問題を共有し、児童労働、ストリートチルドレン、路上生活者、人身売買、難民、所得格差、貧困、南北問題など国際福祉分野に関する問題は山積しています。こうした国際問題に対して、国際社会は国際支援、国際協力など国際福祉を実践的に実行することによって、問題解決に向けた施策が必要となります。国際福祉を学ぶ基本は、理論学習はもとより、世界で生起している事象を踏まえながら、国際福祉の意義や役割及び機能について自分なりに論証することが重要となります。

※この科目の担当教員は、国際福祉の実務経験を有します。

■到達目標

- 1) 国際福祉には、教育分野や医療分野も含まれるが、世界各国で生起している国際福祉の対象になる人々の問題点や課題について説明することができる。
- 2) 世界各国に共通した社会福祉の特徴や問題点及び課題を広く理解することで、国際福祉の役割や機能について具体的な解決方法を説明することができる。
- 3) 国際福祉分野で活躍する人材になることができる。

■教科書

仲村優一ほか編著『グローバル化と国際社会福祉』中央法規出版、2002年

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50% + 科目修了試験50%

■参考図書

- 1) 赤塚俊治 「第3章第3節 フィリピンの障害者問題」 谷勝英編 『現代の国際福祉』 中央法規、1991年
- 2) 赤塚俊治 「II章5 シンガポール」 小嶋蓉子・岡田徹編 『世界の社会福祉』 学苑社、1994年
- 3) ジェームズ・ミッジリィ著 『国際社会福祉論』 中央法規出版、1999年
- 4) 川村匡由編著 『国際社会福祉論』 ミネルヴァ書房、2004年
- 5) その他赤塚俊治著の国際福祉に関係する論文。『東北福祉大学研究紀要』 など。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	国際福祉とは	国際福祉の3概念を理解する。 キーワード：国際、福祉、国際社会福祉、社会福祉国際比較、世界福祉	国際福祉と呼ばれる分野は3つの研究視点に分けることができます。これを整理した上で具体的な内容に取り組むことで理解しやすくなるでしょう。
2	グローバリゼーションとは	グローバリゼーションとは何かを理解する。 キーワード：グローバリゼーション、国際化、冷戦、アメリカ化	グローバリゼーションはとても身近になった言葉ですが、曖昧でわかりにくい概念です。身の回りで起きていることでグローバリゼーションと関連していることをいくつか挙げられるでしょうか。
3	グローバリゼーション時代の福祉	冷戦終結後の1990年代から今世紀にかけて大きく変わってきた世界における福祉分野の現状を理解する。 キーワード：地域紛争、貧困、格差、国際機関、地域的枠組	冷戦後のグローバリゼーション時代到来とともに、福祉分野も大きな変動を余儀なくされました。大きな枠組みからこれを理解しましょう。
4	国際福祉と国家福祉	国家内の社会福祉政策と国際福祉との関連を理解する。 キーワード：社会福祉、国家福祉、国際福祉、選別主義、普遍主義、福祉国家	国家福祉の諸理論を整理し、さまざまな視点から分析することによって国家福祉の現状を理解しましょう。
5	国際福祉の現状と展望	国際社会が現在いかなる問題を抱えているかを理解する。 キーワード：国家、国際機関、国際NGO、NPO、ボランティア団体	国家をはじめとするさまざまな行為主体が多岐にわたる国際福祉問題に取り組んでいます。現在どのような問題が重要になっているのか理解しましょう。
6	アジアにおける福祉	アジアにおける国際福祉の課題について理解する。 キーワード：アジア、多様性、制度（ガバナンス）	アジアは非常に広く、多様な地域です。国境を越えてそこに存在する深刻な問題について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	アジアの貧困問題	アジアにおいてとくに深刻な貧困・格差の問題について理解する。 キーワード：貧困、格差、植民地支配、多国籍企業	グローバリゼーションの進展に伴い、アジアにおける貧困・格差の問題は深刻化している現状を理解しましょう。
8	アジアの環境問題	アジアの環境問題について多角的に視る。 キーワード：貧困、環境、人口、エネルギー、女性	アジアの貧困問題と環境破壊の問題は、個別に解決できるものではない、複雑に関連し増幅し合う複合的な問題であることを理解しましょう。
9	アジアの児童労働問題	アジアの児童労働問題について理解する。 キーワード：貧困、格差、ストリートチルドレン、多国籍企業、フェアトレード	アジアにおける児童労働問題の歴史的経緯と現代の市場主義的資本主義構造との関連を理解し、解決に向けての方策について考察しましょう。
10	国際福祉システム	国際福祉システムのあり方について考察する。 キーワード：国際福祉、人間福祉、システム	国家の枠を超えた国際福祉システムのあり方について、政治・経済・社会・文化という4つの視覚から、将来あるべき福祉世界の実現を考察しましょう。
11	国際機関と国際福祉	国際連合をはじめとする国際機関の役割について理解する。 キーワード：国際機関、国際連合、経済開発、社会開発、人間開発	国際連合をはじめとする国際機関が第2次世界大戦後に果たしてきた役割および、経済開発から社会開発、さらに人間開発への流れについて理解しましょう。
12	国際協力と国際福祉	国際協力の歴史的発展について理解する。 キーワード：国際協力、国連開発の10年、南北格差	国際協力の歴史的発展過程を学び、戦後大きな問題となった南北格差の問題解決に向けての取り組みとその結果および課題について理解しましょう。
13	国際福祉における日本の役割①	日本のODAの現状と課題を理解する。 キーワード：ODA、国際協力機構、ひも付き援助、要請主義	日本政府が行ってきた政府開発援助（ODA）の果たしてきた役割を学び、今後の課題について考察しましょう。
14	国際福祉における日本の役割②	日本のNGOの現状と課題を理解する。 キーワード：NGO、顔の見える援助、政策提言機能	日本の非政府組織（NGO）が果たしてきた役割を理解し、ODAとの相互補完関係および今後の課題について考えましょう。
15	まとめ	国際福祉分野において私たち一人ひとりができることについて考察する。 キーワード：グローバリゼーション、国際福祉	グローバリゼーションが進む国際社会における国際福祉のあり方を整理し、一人ひとりがいかにして具体的な事例における実践的な行動をすべきかについて考えましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の問題に解答してください。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の問題に解答してください。
3 単位め	アジアにおける国際福祉について考察してください。
4 単位め	国際福祉分野において日本が果たすべき役割について論考してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2018年度以前履修登録者) 2019年4月よりレポート課題の1・2単位めが変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題でも2020年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1・2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFU オンデマンド」上で解答することも可能です。

3 単位め
アドバイス

『グローバル化と国際社会福祉』第3章および第4章を読み、アジアの発展途上国にある深刻な社会問題をひとつ題材として、その解決策について考察してください。

4 単位め
アドバイス

『グローバル化と国際社会福祉』第5章および第6章を読み、国際福祉分野において日本が果たすべき役割についてまとめてください。

■レポート 評価基準

- (1) 設問に答えているか（書いていくうちに話がそれないこと）。
- (2) 筋が通っているか（一貫した論理・話の最初と最後が矛盾しないこと）。
- (3) 結論・主張がしっかりしているか（自分の持っている考えを伝えること）。

レポートとは小論文です。字数制限もあることなので、書き始める前に以上の点を踏まえながらレポートの構成、アウトラインをまず作成し、たとえば序論・本論・結論という流れをまず作ることが必要です。

科目修了試験

■評価基準

- ・ 出題された設問の内容についてきちんと理解しこれに答えることができているか。
- ・ 用語について一般的な基本事項が理解されているか。
- ・ 解答は筋が通っているか、一貫した論理構成であること。
- ・ 結論において自分が持っている考えをしっかりと主張できているか。

卒業研究			科目コード	ZZ5991
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
8	卒業研究	4年	本学専任教員	

「卒業研究」の内容については、『レポート課題集2019 C (心理専門編)』p.286～294をご覧ください。
ここでは、最近数年間の「社会福祉学科 卒業研究指導教員」と「過去の指導論文タイトル」を掲載しておきます。

社会福祉学科 卒業研究指導教員一覧 (五十音順)

指導教員名	過去の指導論文タイトル
高橋 誠一	地域包括ケア推進における地域密着型サービスと地域包括支援センターの連携・協働の重要性 －ネットワークを広げる運営推進会議の活用－ 福島市に於ける高齢者権利擁護に関する現状と課題 －市内地域包括支援センター等の訪問調査を通して－
寺下 明	「現代社会教育における『寺子屋』の展開」 －地域で心豊かな子どもを育てるアクション・リサーチ－
庭野賀津子	子どもの遊びの発達における意義
根岸 直樹	高齢者における在宅ケアまでの問題点と現状 －廃用症候群における保険・医療・福祉の役割－ 要介護高齢者の「食」の楽しみについて 放射線検査における医療被曝カウンセリング －医療用放射線・放射能への心理的緩和－
三浦 剛	「精神病」者運動の歴史 1987年精神衛生法改正の理由 障害者福祉事業におけるマネジメントの必要性 障がい者福祉事業におけるマネジメントの必要性
志村 祐子	行きたいを支援する －高校生の復学支援のための高校・病院の連携－ アンダーコントロールトレーニングの応用における－考察 －若年者の自傷行為に対応した事例的研究－

特講・社会福祉学



特講科目も履修登録とスクーリングの申込みが必要です。下記の申込締切日までに、履修登録とスクーリングの申込み両方を行ってください。申込みは、『With』巻末のハガキか、「TFU オンデマンド」上で行ってください。受講上のルールは、通常のスクーリングと同じです。「特講・社会福祉学」は、原則として同じ科目は次年度以降開講いたしません。

2019年度の開講予定は下記の通りです。

科目名	開講日	履修・申込(取消)締切
特講・社会福祉学1 (介護保険と社会福祉士の課題)	7 / 27・28	6 / 19
特講・社会福祉学10 (スクール・ソーシャルワーク論)	2020.2 / 29・3 / 1	12 / 24
特講・社会福祉学20 (コミュニティ・ソーシャルワークⅡ)	8 / 31・9 / 1	6 / 19

※「特講（防災士研修講座）」は、履修登録不要で申込方法等も異なりますので、上記の表には掲載していません。

特講科目と他の科目とで手続きが異なる点は、2016年度より下記の通りです。

●**締切日までに取消連絡をすれば特例で履修取消が可能**

スクーリングに出席できない方は、上記に定めるスクーリング申込締切日前ならば、履修登録の取消が可能です。取消を希望される方は、書面（メール・FAX・郵送）でご連絡ください。ただし、超過履修費を納入したことがある方は原則として履修取消はできません。

特講・社会福祉学 1 (介護保険と社会福祉士の課題)		科目コード	DT2201
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	佐々木裕彦

※この科目は2019年7/27・28の仙台会場で受講が可能です。受講希望者は6/19までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

介護保険自体の講義ではありません。皆さんの、これまでの、そしてこれからの学びが「実践現場でどのように活用されるか」と「介護保険が向かう近未来に必要な方法論」を学ぶ講義です。自ら経験した40年間の「ソーシャルワーク実践」について、施設福祉、在宅福祉、地域福祉の流れの中で、出会わざるを得なかった事件と、学ばざるを得なかった理論と、作り上げてきた仕組みをご紹介します。

前半は、「ソーシャルワークの特性分類」について、自らの成長課題であった初期の「援助関係展開技術」、中期の「問題解決対応技術」、後期の「経営管理推進技術」に沿って、専門性の構造である価値観（福祉哲学）と知識（理論アプローチ）と技術（システムアプローチ）の順に関連づけて実践例をご紹介します。

後半は、「地域包括ケアシステム」について、介護保険を牽引車にして、全世代・全対象型の地域共生社会実現への統合を目指し、これまで示された関連ビジョンを概観し未来予測をします。その上で、社会福祉士や社会福祉事業所などの、現状と将来に求められる専門的・技術的な実践対応の私案を提示します。

※この科目の担当教員は、福祉の相談援助の実務経験を有します。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの特性分類が説明できる。
- 2) ソーシャルワークの理論アプローチが説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムがめざす将来像が説明できる。
- 4) 社会福祉士への役割期待とその課題への対応例が説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの共通基盤①	総論：専門性（価値観・知識・技術）の実践例
2	ソーシャルワークの特性分類②	各論：援助関係展開技術の専門性と実践例
3	ソーシャルワークの特性分類③	各論：問題解決対応技術の専門性と実践例
4	ソーシャルワークの特性分類④	各論：経営管理推進技術の専門性と実践例
5	新たな地域福祉時代の構築①	総論：地域包括ケアシステムと現状の課題
6	新たな地域福祉時代の構築②	各論：地域共生社会と関連するビジョンの課題
7	新たな地域福祉時代の構築③	各論：地域共生社会と関連する技術的な課題
8	新たな地域福祉時代の構築④	各論：社会福祉士への役割期待と課題への対応私案
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント資料を使用します。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込可）。スクーリング試験はレポート課題とし、とくに授業で「気づいたこと」や「考えたこと」を問います。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

介護保険自体の講義ではありません。皆さんの、これまでの、そしてこれからの学びが「実践現場でどのように活用されるか」と「介護保険が向かう近未来に必要な方法論」を学ぶ講義です。皆さんがこれまで受講した各先生の資料や、厚生労働省などの将来ビジョンの資料に目を通してくと講義の理解が深まります。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

「到達目標」に記載されている内容の理解を深め、新たな地域福祉時代の構築に向けて、実践現場で発揮しなければならない専門的力を確認し、高めていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 前半の授業：これまで受講した各先生の講義復習（専門性：価値観・知識・技術）
- 2) 後半の授業：厚生労働省等ホームページ（近未来に求められる新たな技術改革）

2013年：21世紀（2025）日本モデル（コミュニティ再生）、2015年：2035年の医療保健システム、2015年：新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン（全世代・全対象型地域包括支援体制・高齢者対象の地域包括ケアを深化させ地域包含体制構築）、2016年：ニッポン一億総活躍プラン（地域共生社会の実現）、2016年：「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部（地域共生社会の実現）、2017年：ますます求められるソーシャルワーク機能、2017年：2040年に向けた挑戦（地域包括ケア）、2018年：2040年の自治体戦略、2018年：社会的につながりが弱い人への支援、等

■担当教員紹介

佐々木裕彦 社会福祉法人岩手和敬会参与・岩手県社会福祉士会相談役
岩手県介護支援専門員協会顧問・岩手県立大学大学院非常勤講師

特講・社会福祉学10 (スクール・ソーシャルワーク論)		科目コード	DT2210
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	川口 正義

※この科目は2020年2/29・3/1の仙台会場で受講が可能です。受講希望者は2019.12/24までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

スクールソーシャルワーク（SSW）は人権と社会正義を基盤とし、児童生徒が学校生活を円滑に送れるようにするための、また教師や学校組織が立案した教育活動を十分に展開できるようにするための方法・技術です。

スクーリングでは今日の学校現場の現状と課題をふまえたうえで、わが国の学校現場で切に求められてきているスクールソーシャルワークの概念、支援方法、役割及び課題について皆さんとともに学び、考えてみたいと思います。 ※この科目の担当教員は、福祉の相談援助の実務経験を有します。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	学校教育現場を取り巻く現状と課題	児童生徒、保護者・家族、こどもの貧困、教師・学校
2	SSWを導入する必要性、目的と価値、機能	導入に至る経緯、概念、視点、目的、機能、活動スタイル、職務内容
3	教師、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの役割分担	それぞれの役割と違い
4	SSWの実践①	事例の紹介
5	SSWの実践②	事例検討（グループワーク）
6	SSWの可能性と意義	SSWに期待される役割
7	SSW活用に際しての留意点、今後の課題	学校・教職員との連携のあり方、課題
8	質疑応答	社会福祉士への役割期待と課題
9	スクーリング試験	

■到達目標

- 1) 学校現場の現状と課題をふまえたうえで、スクールソーシャルワークを導入した必要性と目的について述べることができる。
- 2) スクールソーシャルワークの価値、倫理について解説することができる。
- 3) 学校・教師文化の特徴、及びスクールソーシャルワークの基本的視点と役割、機能、支援方法について説明することができる。
- 4) スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の相違点、及び連携の必要性につ

いて説明することができる。

5) スクールソーシャルワーカーに必要な資質と専門性について述べることができる。

6) 日本におけるスクールソーシャルワークの今後の課題について述べるができる。

■スクーリング 評価基準

- ・ 授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込みはすべて不可）
- ・ 試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング時の教科書・講義の進め方

スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

参考図書などをもとに、スクールソーシャルワークとはどのような営みであるのか、その目的や役割などについて自分なりに考えイメージしてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

学校教育現場と子ども・保護者・家庭を取り巻く社会状況に関心を寄せるなかで、スクールソーシャルワークが担うことができる役割と可能性について、さらに学習を深め考えていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関係

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■参考図書

- ・ 門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと—学校ソーシャルワーク実践ガイド—』中央法規出版、2009年
- ・ 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子編『スクール [学校] ソーシャルワーク論』中央法規出版、2012年
- ・ 山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2012年
- ・ 門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際—』中央法規出版、2014年
- ・ 末富芳編著『子どもの貧困対策と教育支援—より良い政策・連携・協働のために—』明石書店、2017年
- ・ 日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版、2008年
- ・ 山野則子『学校プラットフォーム—教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう—』有斐閣、2018年

特講・社会福祉学20 (コミュニティ・ソーシャルワークII)		科目コード	DT2220
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(講義)	1年以上	高橋誠一・菊池まゆみ・池田昌弘

※この科目は8/31・9/1に仙台会場で受講が可能です。受講希望者は6/19までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークにおけるケースワーク（個別支援）においてストレングス視点は広く理解されてきましたが、コミュニティ・ワーク（福祉の地域づくり）においても、ストレングス視点は重要なフレームワークです。この統一した視点から、コミュニティ・ソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターのコミュニティを基盤とする地域福祉支援活動を理解し、ミクロ、メゾ、マクロの重なり合う生活の場としてのコミュニティに福祉を取り戻すソーシャルワーク実践の理解を深めます。

※この科目の担当教員は、地域福祉の実務経験を有します。

■到達目標

- 1) 地域福祉について住民主体の視点から説明できる。
- 2) 地域福祉実践のインフォーマルな社会的資源と、その活用法を説明できる。
- 3) 社会福祉協議会におけるソーシャルワークの役割と活動を説明できる。
- 4) 生活支援コーディネーター(地域支えあい推進員)の役割と活動を説明できる。
- 5) コミュニティを基盤としたソーシャルワークの意義と実践のための効果的な手法を説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	総論	コミュニティを基盤としたソーシャルワークの意義
2	地域福祉の展開	「地域共生社会」「地域包括ケア」の背景と展開
3	「我が事・丸ごと」の地域づくりと社会福祉協議会の役割と活動	社会福祉協議会の実践の具体的事例
4	住民主体の地域づくりをどう支援していくのか	パネルディスカッション
5	地域づくりにおける生活支援コーディネーターと協議体の役割と活動	生活支援コーディネーターの実践の具体的事例
6	グループワーク①	住民主体の地域づくりとナチュラルな社会資源の発見方法
7	グループワーク②	住民主体の地域づくりの展開過程
8	まとめ	質疑応答、コミュニティを基盤としたソーシャルワークの実践の整理
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、途中ビデオなども見ながら講義を進めます。座学だけでなく、グループワークも行いますので、積極的参加が必須条件です。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況30%＋スクーリング試験70%（持込可）。試験では、とくに「住民主体の地域福祉」についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

未定

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「地域共生社会」「社会的孤立」「ひきこもり」について、インターネットや専門雑誌、書籍などで調べてください。

その他講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと考えたことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

藤里町社会福祉協議会編『ひきこもり町おこしに発つ』秋田魁新報社、2012年

菊池まゆみ『「藤里方式」が止まらない（市民カライブラリー）』萌書房、2015年

菊池まゆみ著『地域福祉の弱みと強み―「藤里方式」が強みに変える』全国社会福祉協議会、2016年

高橋誠一・志水田鶴子ほか編著『生活支援コーディネーター養成テキスト』CLC、2016年

高橋誠一・志水田鶴子ほか編著『改正介護保険における「新しい地域支援事業」の生活支援コーディネーターと協議体』CLC、2015年

池田昌弘著『マンガでわかる生活支援コーディネーターのための地域支え合いのを見つけ方・活かし方』CLC、2016年

■ゲスト講師紹介

藤里町社会福祉協議会 会長 菊池まゆみ

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC） 理事長 池田昌弘

■受講上の特例

本科目の1～4コマめ（8/31 10：30～17：40）のみは、履修登録なしでも聴講を可能とします（いずれも受講料2,000円：単位修得不可）。

1～4コマめ、または3～4コマめのみを受講を希望される方は、書面（メール・FAX・郵送）で、①「特講・社会福祉学20（コミュニティ・ソーシャルワークII）」1～4コマめ、または3～4コマめ受講希望の旨と、②学籍番号・氏名を記載のうえ、通信教育部あてに6/19までにお申込みください。おって受講料の納入依頼書をお送りいたします。

特講 (防災士研修講座)

科目コード

DT2250

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S	1年以上	船渡 忠男 ほか

※この科目は、履修登録は不要です。『With』で案内する申込み手続きを開講日の3カ月前からすることで受講できます。

※他の科目と異なり、受講手続き（受講料の請求・教材の発送・事前提出レポートの受付）は本学防災士研修室が行います。スクーリング受講申込み者に、防災士研修室から詳細を案内いたします。

※防災士資格を取得するためには、①この講座を受講し、②最終コマに実施する「防災士資格取得試験」に合格し、③後日（もしくは当講座受講前）、お近くの消防署などで実施している「普通救命講習」を受講し、本学防災士研修室で資格取得の手続きをすることが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

防災士は、市民が行う防災行動に関して十分な意識・知識・技能を持った、地域社会における防災リーダーの役割が期待される存在である。講義では、自然災害の歴史や地震・津波のメカニズムをはじめ避難所の開設と運営の演習等13科目を受講、防災士として災害の事前対策、復旧・復興活動を含む応急対策に対応可能な幅広い知識と技術を習得する。

■到達目標

- 1) 自助、共助、協働を原則とした防災士の活動理念について説明できる。
- 2) 地震、津波、風水害等自然災害の発生の仕組みについて説明できる。
- 3) 災害時の安否確認の方法、災害情報の収集、通報要領について説明できる。
- 4) 地域や職場における災害リスク等を把握し、その対策について事例をあげて説明できる。
- 5) 地域と連携した防災訓練指導や児童生徒への防災教育指導の方法について説明できる。
- 6) 新たな減災や危機管理の手法について、具体例をあげて説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	近年の自然災害に学ぶ	東日本大震災など近年の地震・津波災害と教訓、火山噴火による災害と教訓、風水害による災害と教訓について。
2	被害想定、ハザードマップ	被害想定はどのように作成・活用されるか。ハザードマップには主にどのような種類があるか。
3	行政の災害対応	災害対策基本法はどのような法律か。国や地方公共団体が平常時に行っている防災対策について。
4	地震のしくみと被害	日本列島周辺が世界有数の変動帯となっているのはなぜか。「震度」と「マグニチュード」の違いについて。
5	津波のしくみと被害	津波発生のメカニズム、津波地震、遠地津波とは何か。津波による被害を軽減するためにはどのような対策が必要か。
6	身近でできる防災対策	地震に備えてやるべきことは何か。火災に備えてやるべきことは何か。被災後の暮らしを守るためにどうするか。
7	避難所の開設と運営①	避難所とは何か、避難所運営で配慮すべきことは何か。避難所の開設手順について。
8	避難所の開設と運営②	東日本大震災の被災地における事例や教訓を踏まえた演習で次の災害に備えた避難所の開設と運営について考える。
9	災害医療	災害医療の3つのTとは何か。災害時に多発する可能性のある、注意すべき病態は何か。東日本大震災の災害医療の課題について。

回数	テーマ	内容
10	災害情報と報道	災害情報とは何か。被災者の情報ニーズはどのように変化するか。災害情報はラジオ、テレビ、新聞でどのように提供されてきたか。災害情報の新しい伝達手段はどうなっているか。
11	風水害と対策	日本の気候・地域特性と風水害の関係について。災害をもたらす気象現象にはどのようなものがあるか。「自助」としての水害対策にはどのようなものがあるか。
12	避難と避難行動	避難に関するしくみにはどのようなものがあるか。豪雨災害時の避難体制と課題は何か。東日本大震災における避難行動と津波防災教育の教訓は何か。
13	耐震診断と補強	耐震基準はどのように整備されてきたか。既存不適格とは何か。どのような対策があるか。東日本大震災の家屋被害の特徴について。
14	防災士の役割	防災士はどのようにして生まれたか。防災士はどのような場面で活躍するか。防災士に期待される役割とは何か。防災士の活動はどのように広がっているか。
15	防災士資格取得試験	日本防災士機構が実施する資格取得試験で、30問出題され21問以上の正解者が合格。

※他の科目と異なり、1コマ60分の講義です（試験を含み全15コマ）。

※各時間の担当講師は、募集案内に掲載される予定です。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。途中グループワークを行います。パワーポイントを使用し、途中ビデオなども見ながら講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

防災士資格取得試験をスクーリング試験とし、試験合格の方のみに単位を付与します。

※単位修得はスクーリング受講および資格取得試験合格でできますが、防災士資格を取得するためには、各自でお近くの消防署などで申込み可能な「普通救命講習」を受講し、本学防災研修室で資格取得手続きをすることが必要です。

■スクーリング時の教科書

特定非営利活動法人 日本防災士機構『防災士教本』、2019年版
 東北福祉大学編『履修確認レポート』、2019年版

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：15時間）

お申し込みを頂いた方に「防災士教本」（日本防災士機構・編）ほか教材一式を、スクーリングの3週間前までにお送りします。スクーリングまでの間に、ご自宅で学習に取り組み、穴埋め式のレポートを完成させてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：10時間）

教本の第3講身近でできる防災対策、第7講災害医療、第8講行政の災害対応、第15講地震のしくみと被害、第16講津波のしくみと被害、第18講風水害と対策、第21講災害情報の発信と入手、第25講被害想定ハザードマップを復習してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「自己尊重的コミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

教科書の各章に参考文献を掲載しています。

通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかとまどったりすることがあるかもしれません。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすそうな課題から再び学習を始めてください。

学問って難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずですよ。どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2019 B共通基礎・福祉専門編

2019年3月1日 初版発行

発行 東北福祉大学通信教育部
〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話022-233-2211 <http://www.tf.u.ac.jp>
印刷・製本 (株)ホクトコーポレーション

©Tohoku Fukushi University 2019 Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

